

江戸名所圖會

十四

西垣文庫

文庫10

6556

14



根津権現社 法外観音堂
二法法住寺
妙林寺 田中辰三社
丸山浄心寺 願地蔵堂

目赤不動堂
根津権現舊地
駒込大観音
富士法圓宮 未覚堂
八幡宮

一月朝日富士の宮
田畑子樂寺 六所法院
神明宮

圓勝寺 六所法院二番目
深井西福寺 深井権現祠
平塚明神社 權塚
西ヶ谷五量寺

白鬚明神社
昌林寺 末木
同合戦の巻
同所酒亭の巻
同東由の巻
犬追物上覧の地

飛鳥山
音女川 飛鳥橋
同所酒亭の巻
松尾前舊跡
花法祭の巻

王子権現社 若王子社
王子稻荷社
装束島衣裳櫃
除夜狐火の巻

七尾祭祀の巻
全輪寺 六香湯
石井井川
松尾長賊天

全別寺 石井入新堂
遊不動寺 海うら
泉流遊
稻付静福寺 観音

紀州明神社 観音
地蔵堂 香林院
若文八幡宮
豊島川

川は若光寺
渦田の圖 瀬戸
豊島の澤
石井寺 六所法院

振束塚
清光寺 観音
豊島康家清光之墓
石井寺 六所法院

紀州明神社 観音
地蔵堂 香林院
若文八幡宮
豊島川

川は若光寺
渦田の圖 瀬戸
豊島の澤
石井寺 六所法院

振束塚
清光寺 観音
豊島康家清光之墓
石井寺 六所法院

紀州明神社 観音
地蔵堂 香林院
若文八幡宮
豊島川

川は若光寺
渦田の圖 瀬戸
豊島の澤
石井寺 六所法院

振束塚
清光寺 観音
豊島康家清光之墓
石井寺 六所法院

紀州明神社 観音
地蔵堂 香林院
若文八幡宮
豊島川

川は若光寺
渦田の圖 瀬戸
豊島の澤
石井寺 六所法院

振束塚
清光寺 観音
豊島康家清光之墓
石井寺 六所法院

紀州明神社 観音
地蔵堂 香林院
若文八幡宮
豊島川

川は若光寺
渦田の圖 瀬戸
豊島の澤
石井寺 六所法院

振束塚
清光寺 観音
豊島康家清光之墓
石井寺 六所法院

紀州明神社 観音
地蔵堂 香林院
若文八幡宮
豊島川

川は若光寺
渦田の圖 瀬戸
豊島の澤
石井寺 六所法院

振束塚
清光寺 観音
豊島康家清光之墓
石井寺 六所法院

紀州明神社 観音
地蔵堂 香林院
若文八幡宮
豊島川

新葉集 釋奠

かゝ人志

むろりの

ふきね

うのゝきて

あふけい

えん

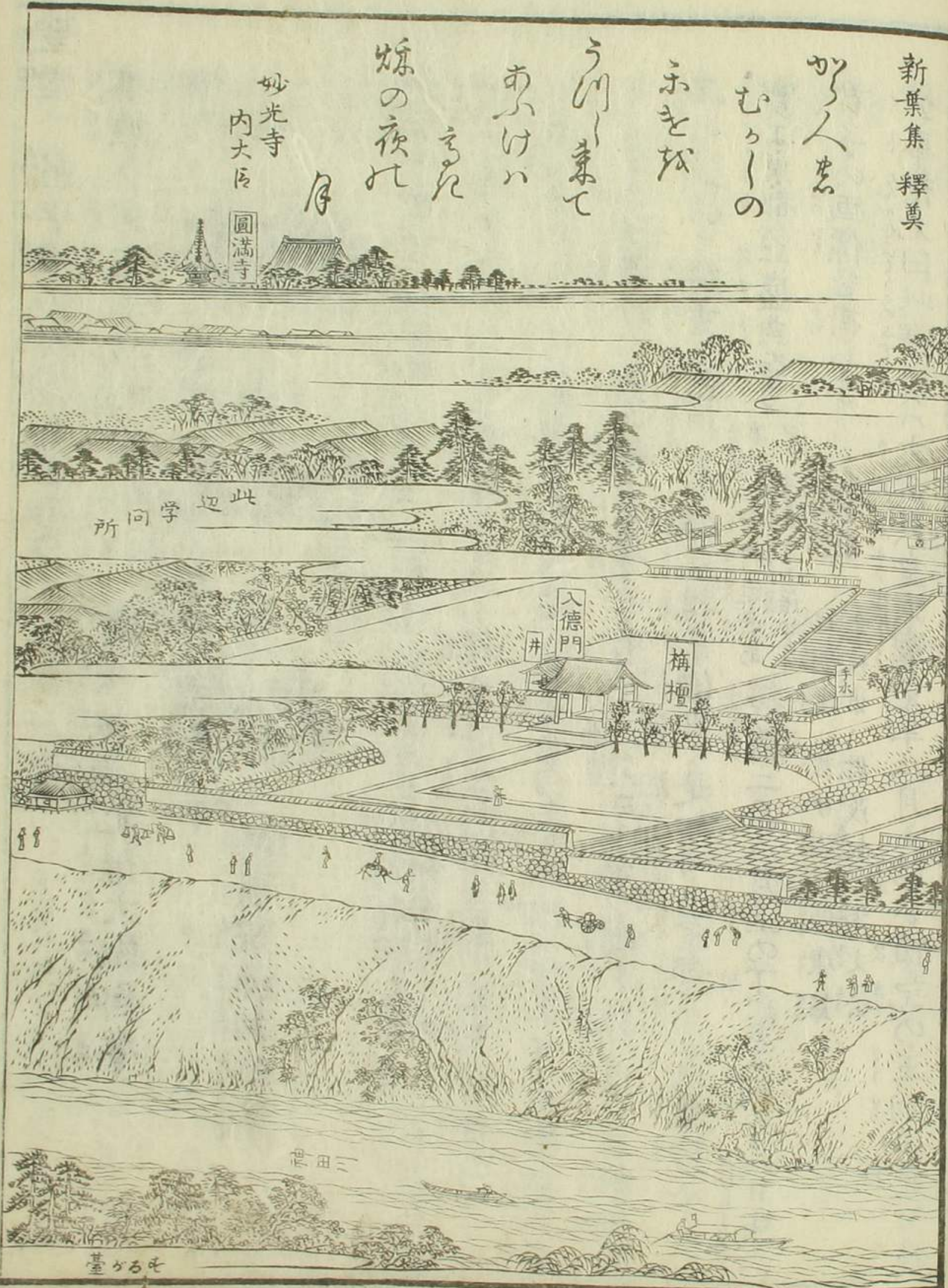
煉の夜れ

月

妙光寺

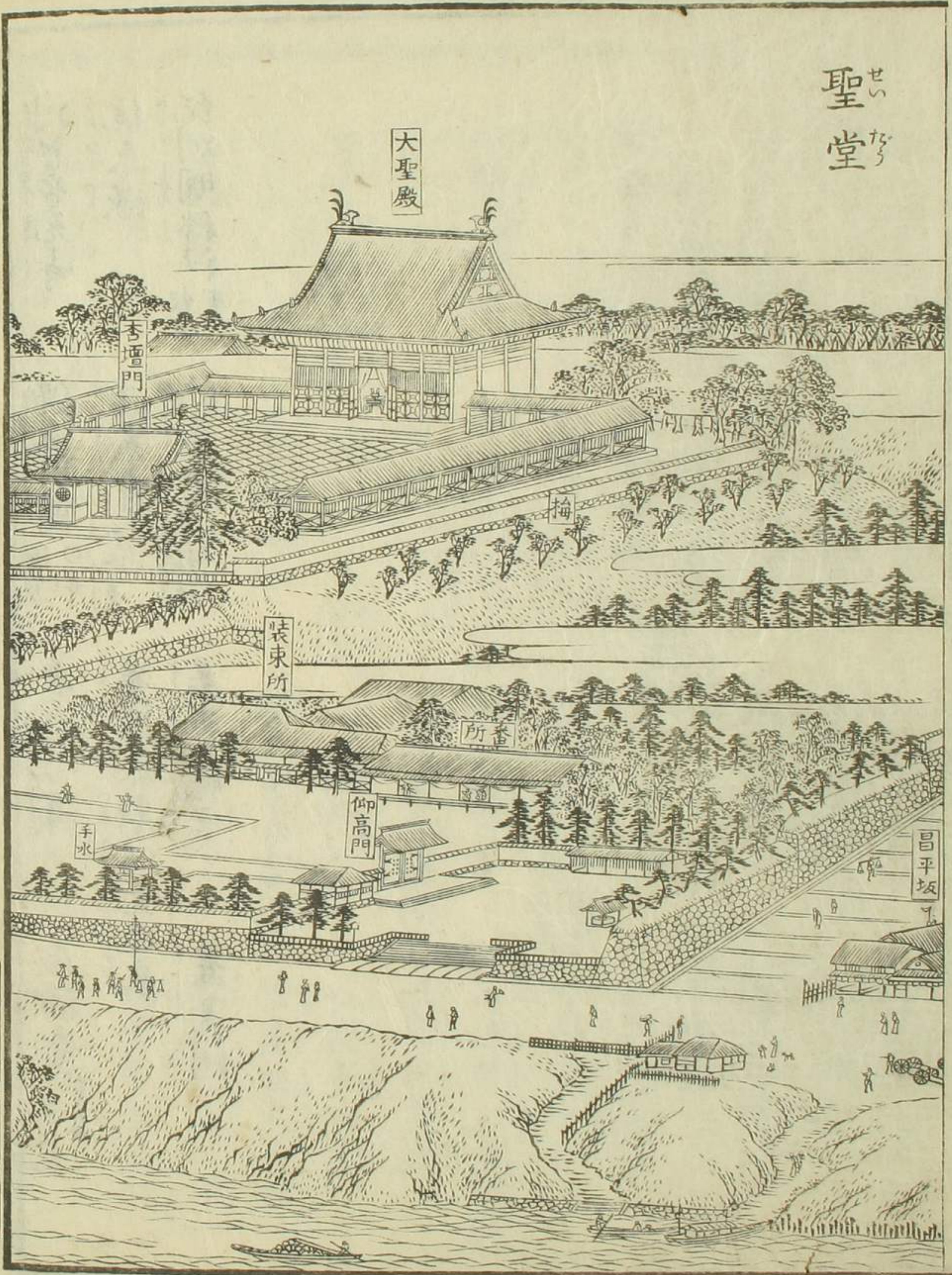
内大臣

圓滿寺



聖堂

大聖殿



十四ノ冊 五ノ一

聖堂 昌平橋の外湯島あり

本殿 文宣王 右顔子 曾子 孟子 額 大成殿 元禄大樹御筆

廊門 額 檀香 唐門 額 人徳門 額 高仰 各持明院基輔卿筆

檀香

人徳門

高仰

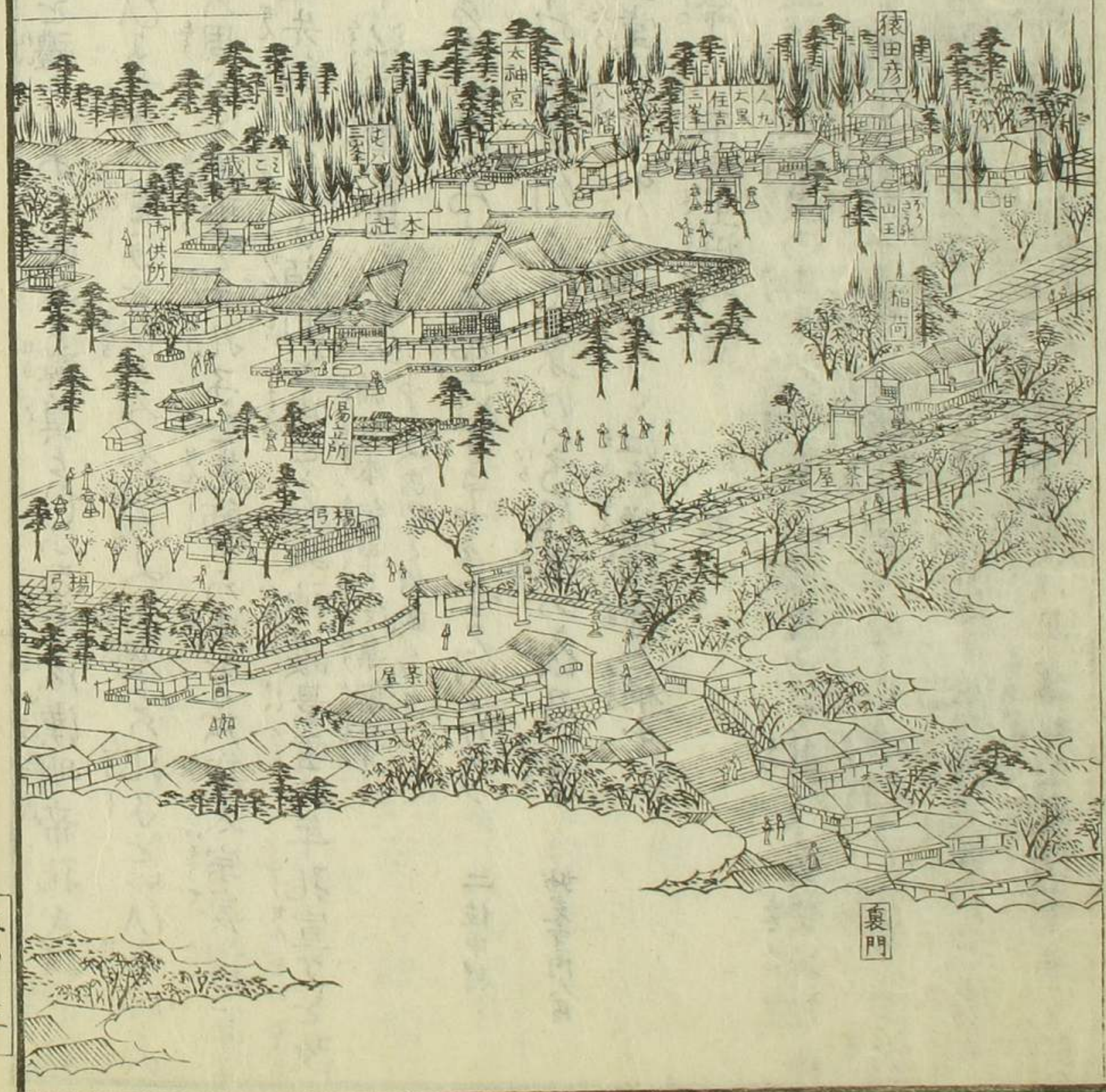
寛永十年尾芟亞相公 義直卿 林家別荘の地は 今東嶽山にあふ所の山王の社の
あり一廈と経営ありて聖像ありて顔曾思子の像を置て先聖殿と號す
其後田祿の災は罹りて遂に元禄四年 台命あつて今の地へ遷させし御造営有
しと已降春秋二度の釋奠息ふとなし 公のさうあり國々の列侯より獻備の
品ありていと嚴重に執行りて儒宗林祭酒世く是を司る奉邦第一れ学校ありて
實は東都の一盛典あり 寛政の今内造宮ありて結構昔十倍せり 釋奠二月八月上の十日は行り此日宋六
君子の画像を掛らる 従祀 程明道 程伊川 邵康節 張橫渠 周茂叔 朱文公
公事根元曰此釋奠文武天皇大寶元年二月は始る禮記の玉制小菜を釋

幣は奠て先師を禮せとあり此故に釋奠といふあり後漢明帝孔氏宅に
幸して仲尼ありて七十二弟子を祠とみえたり又先聖といふ孔子といひ先師とい
顔回といふあり人の周公を先聖と云孔子を先師とい申せるは唐太宗貞觀二年
あつたれ先聖先師といふ孔子顔回と申さるる又神護景雲二年孔宣父を改
て文宣王と申さる 弘仁格に見えあり 續日本紀學令集解等
年中行事哥合 釋奠
新葉集 人のあはれむるをばらけりてとめ聖れとさるるまのりたり 二位中持
神田大明神社 聖堂の北あり唯一ありて江戸總鎮守と稱せ 妙光寺内大臣
祭神 大己貴命 平親王將門靈 二坐

社傳曰人皇四十五代聖武天皇の御宇天平二年に鎮座ありて其地先柴崎村に
其舊地神田橋 ありて頃中古荒廢し既して神燈絶あせとせしを遊行上人第二世眞
教坊東園遊化の砌に至り將門の靈を合て二座とし社の傍に宇草庵に
むすび芝寄道場と號し 今の草日 其後慶長八年當社を駿河臺より
輪寺是なり

神田明神社

暮景集
 深夜の帰風と
 りんごが神田に
 社中
 志不
 とん
 鳴はれて
 都下を
 志不
 とん



はまの木の

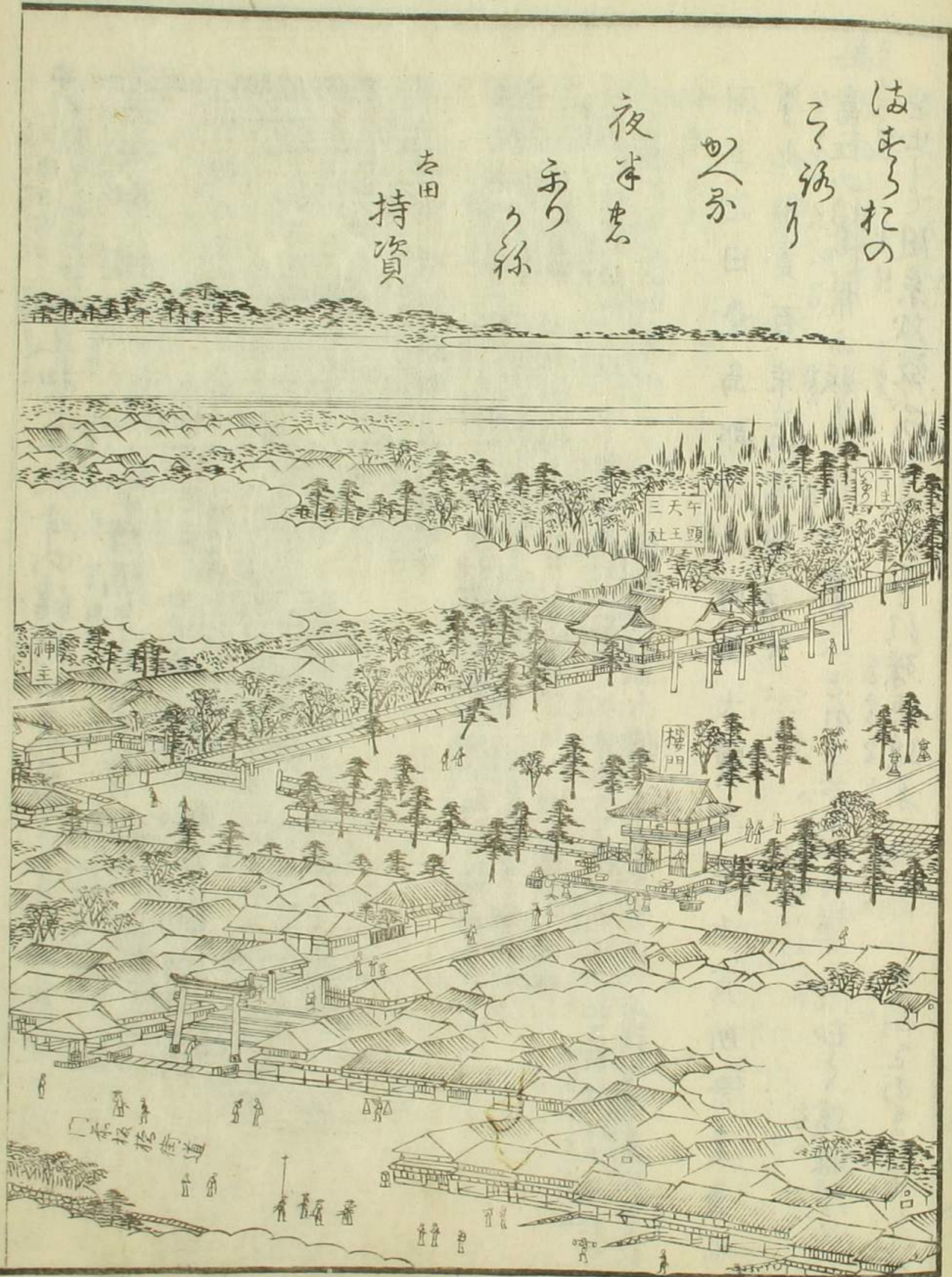
こゝろ

あふ

夜半

あり
うね

志田
持資

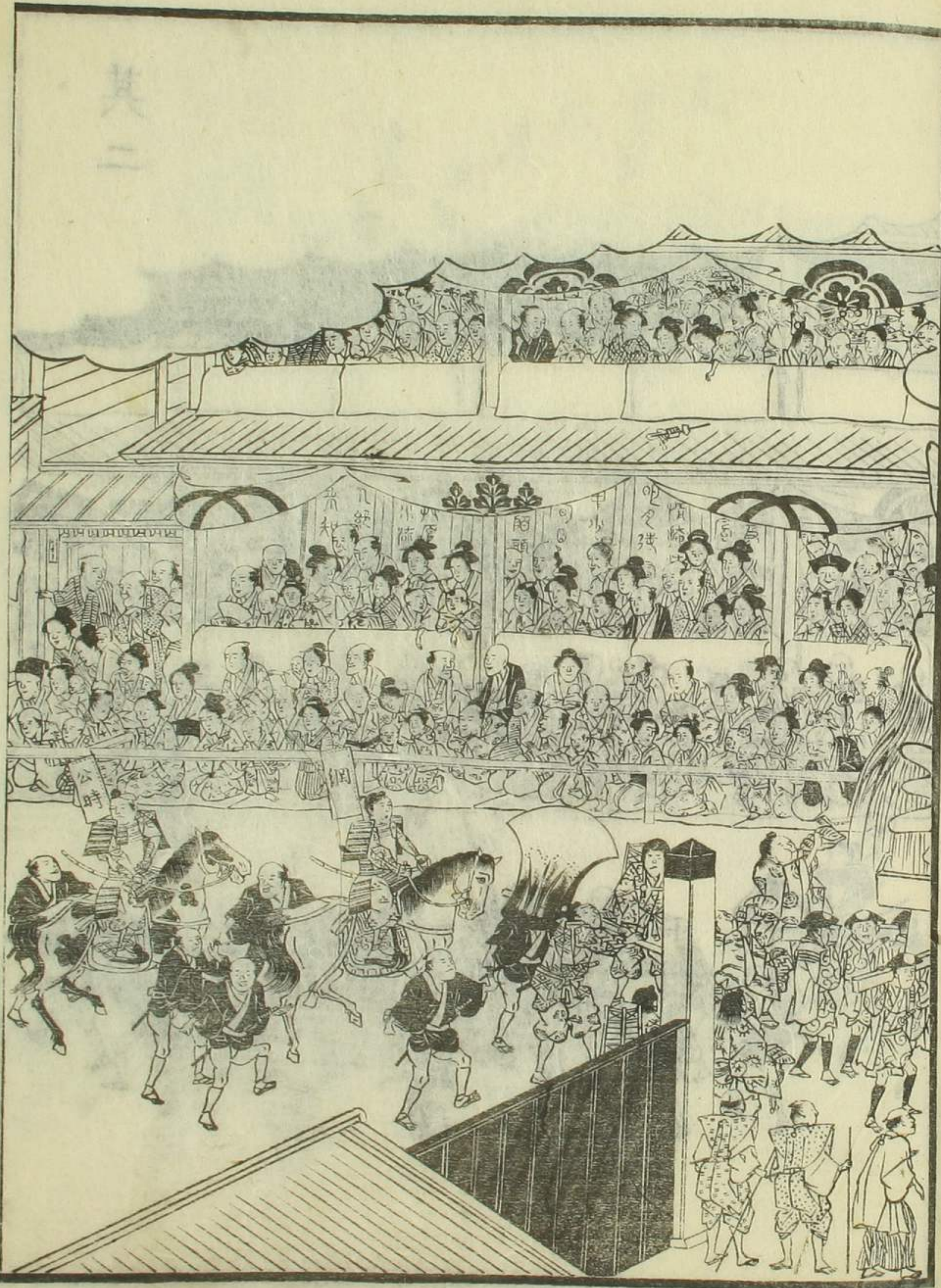


元和二年又今の湯島にうつせし其儘舊號を用ひし神
祭禮隔年九月十五日
神事能
御城内大手の橋上ゆく奉幣の式あり其舊地ありに
依りしとを

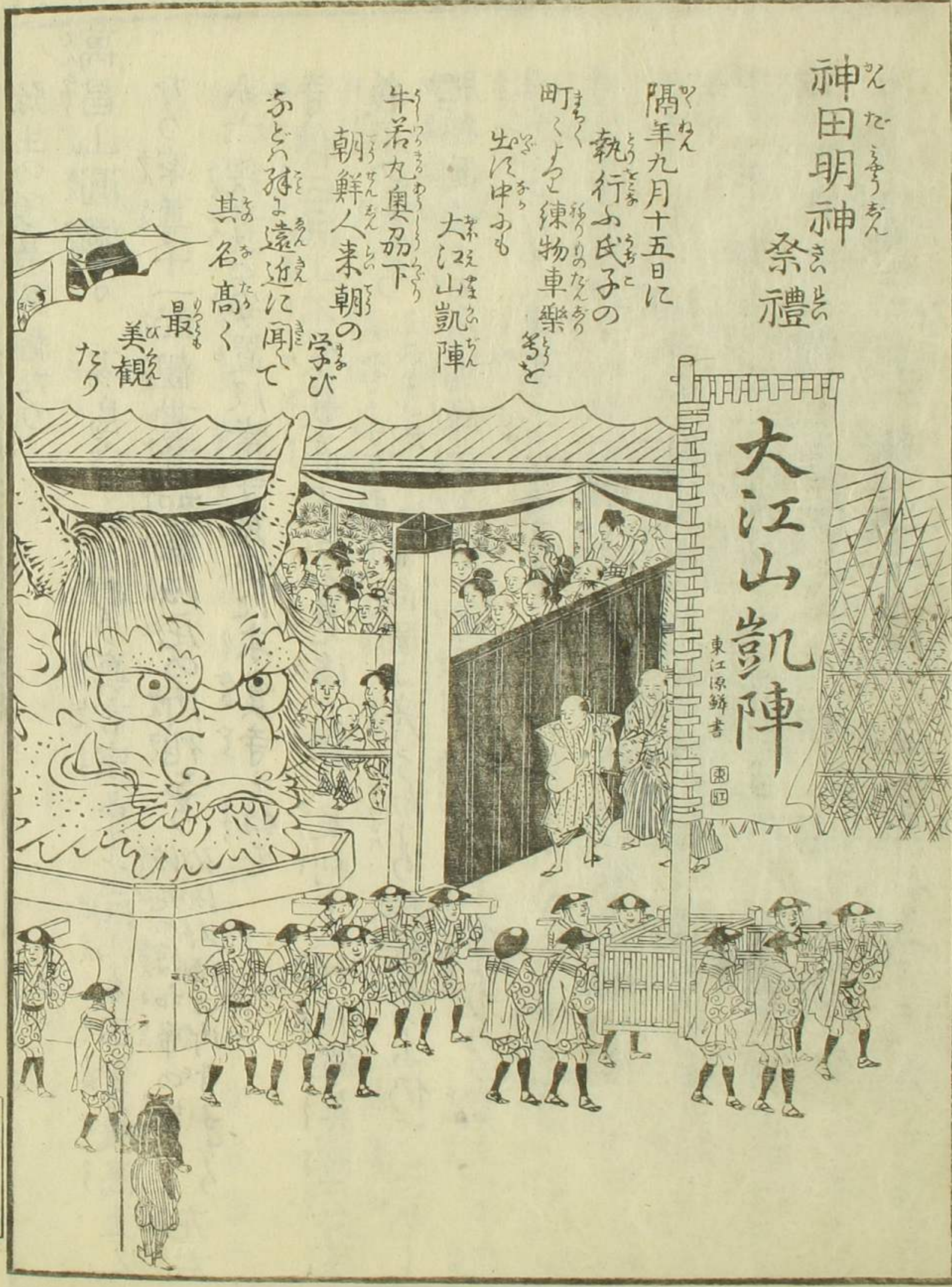
風土記曰豊島郡江戸神社大寶二年壬寅所祭素盞鳴
尊也神貢百束三字田云云
當社の境内常み賑しく詣人もあはれ茶店各崖に臨む遠眼鏡を
を出して風系吹ぬのからごとく殊更近來の瑞籬み椶樹をあまた植はれ

萬昌山圓満寺 湯島六丁目あり真言宗あり
なり奉尊十一面觀世音如意法尼の御化あり
み六親音を安置し當寺に世に本食寺と稱す
寺傳曰岡山本食義高上人の覺海と號し足利十三代將軍義輝公の孫
義辰の息あり 義運の子孫あり日向國は彦ふ幼より瑞相あり小仍て出家し
肥後國佐土原の福禪寺に入り覺深師に隨從し本食と稱し寛文八年衆
生化益のために東奥より下りあまねく靈地を渉しあやふ堂宇を建立し仁和
寺宮道永法親王此事を聞き召れ感稱ありて傳燈大阿闍梨權大僧都法印
み任せし其後西園に赴くの頃も大に奇特を顯し延寶三年十月都小上り
堀河姉小跡多門寺に止宿あり頃微疾を患へ同四年正月廿一日自臨終の
期を知り時み諸の菩薩來現ありて示して曰唯今の汝が臨終の期あり
らば早往生せんと思ひ猶大願成企普く衆生を化益せんと云 仍同五年

彌生の頃最美觀たり
五男三女
素盞鳴尊
奇稲田姫
本御前と稱す六月十日小船町旅所へ神幸あり同十三日歸興あり
大政所と稱す六月七日南傳馬町旅所へ神幸同十四日歸興あり
八王子と稱す六月五日大傳馬町旅所へ神幸同八日に歸興あり
社家の説小大政所と稱して南傳馬町の旅所へ神幸ありの則風土記に野謂江戸神社之
と我故に祭祀の御奮例よりり 御城内大手の橋上ゆく奉幣の式あり其舊地ありに
依りしとを



其二



神田明神

祭禮

隔年九月十五日

執行小氏子の町くまの練物車樂

出陣中

大江山凱陣

牛若丸奥刃下

朝鮮人末朝の學び

あとの孫よ遠近に聞て

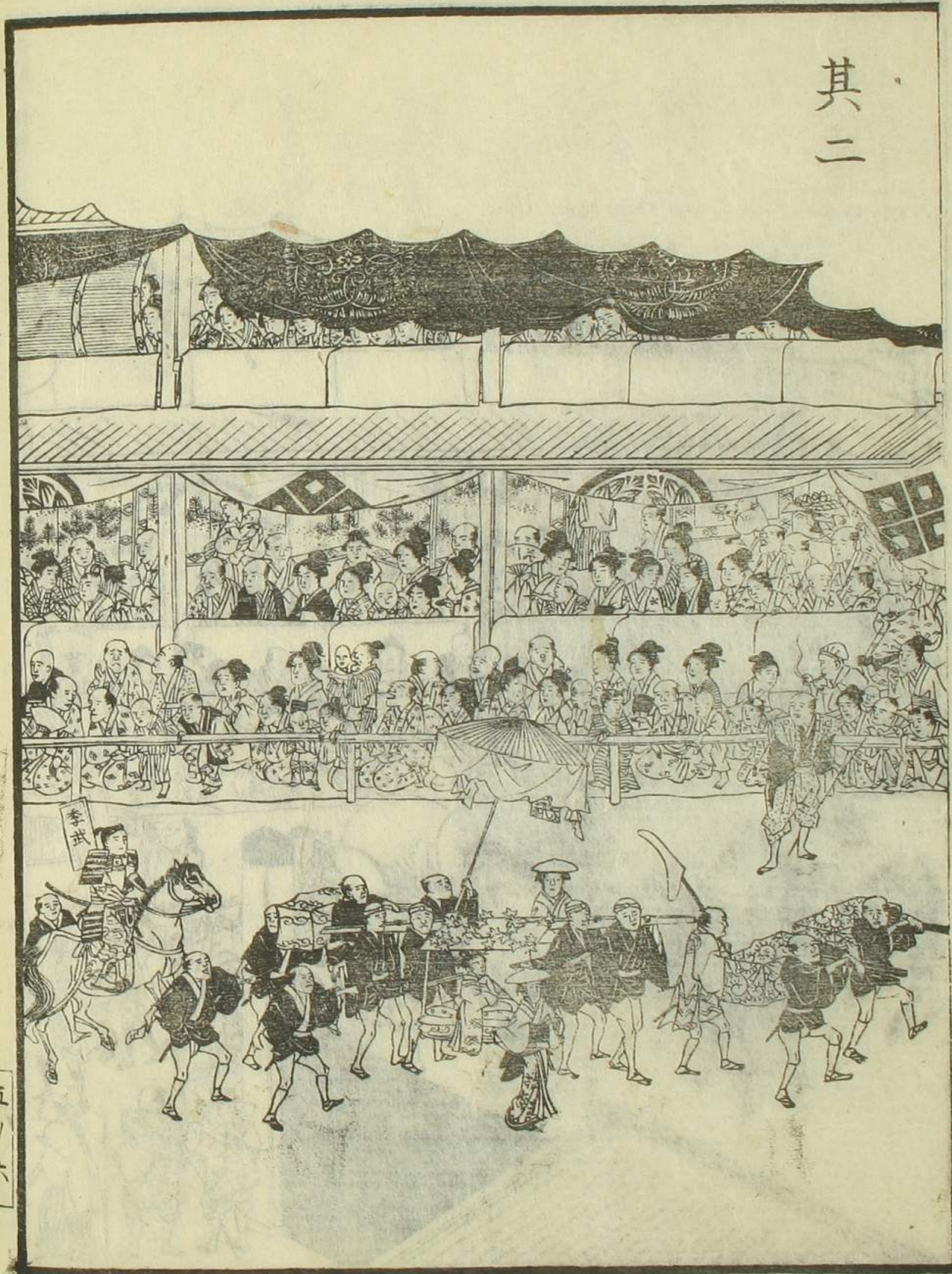
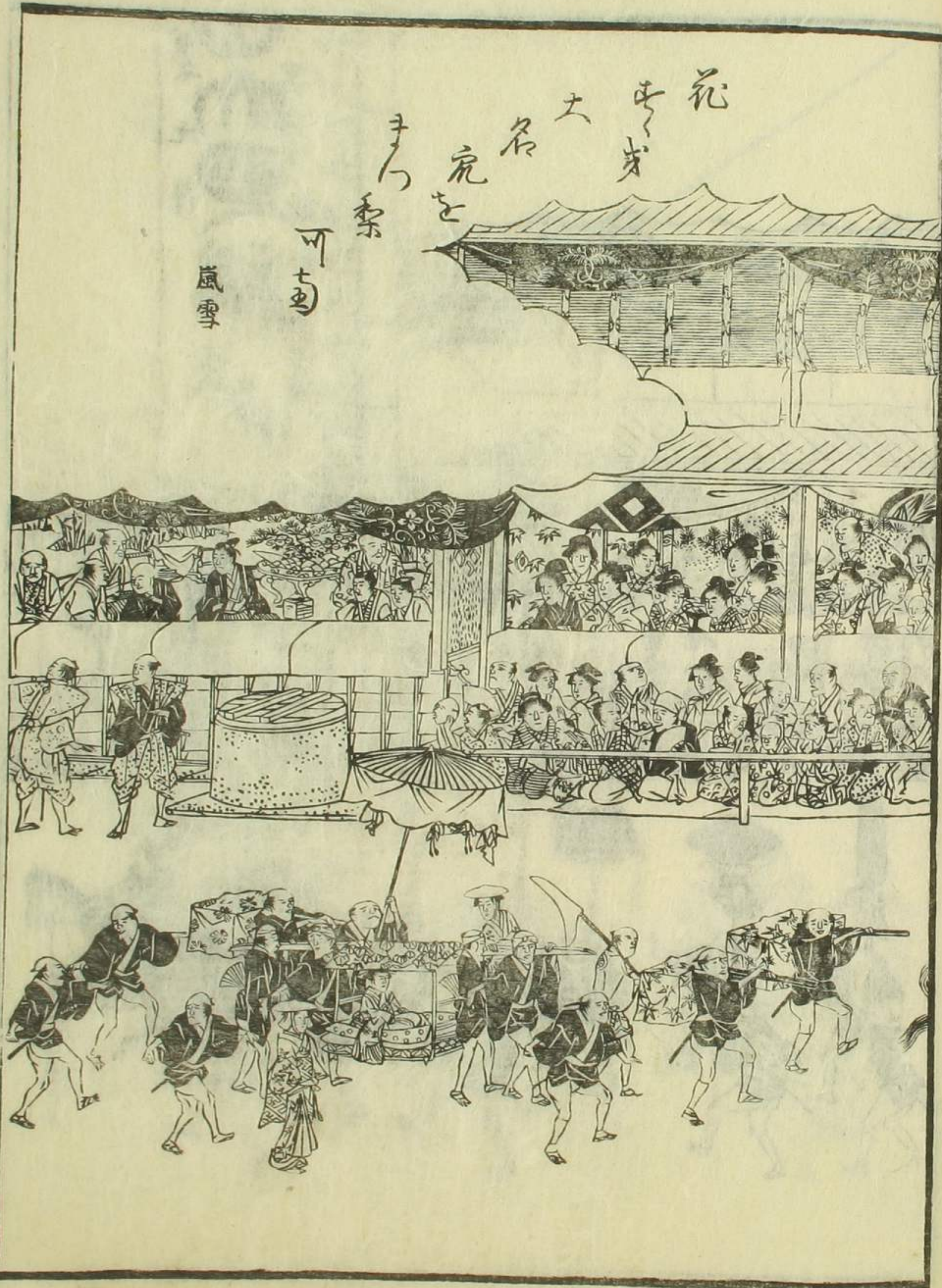
其名高く

最

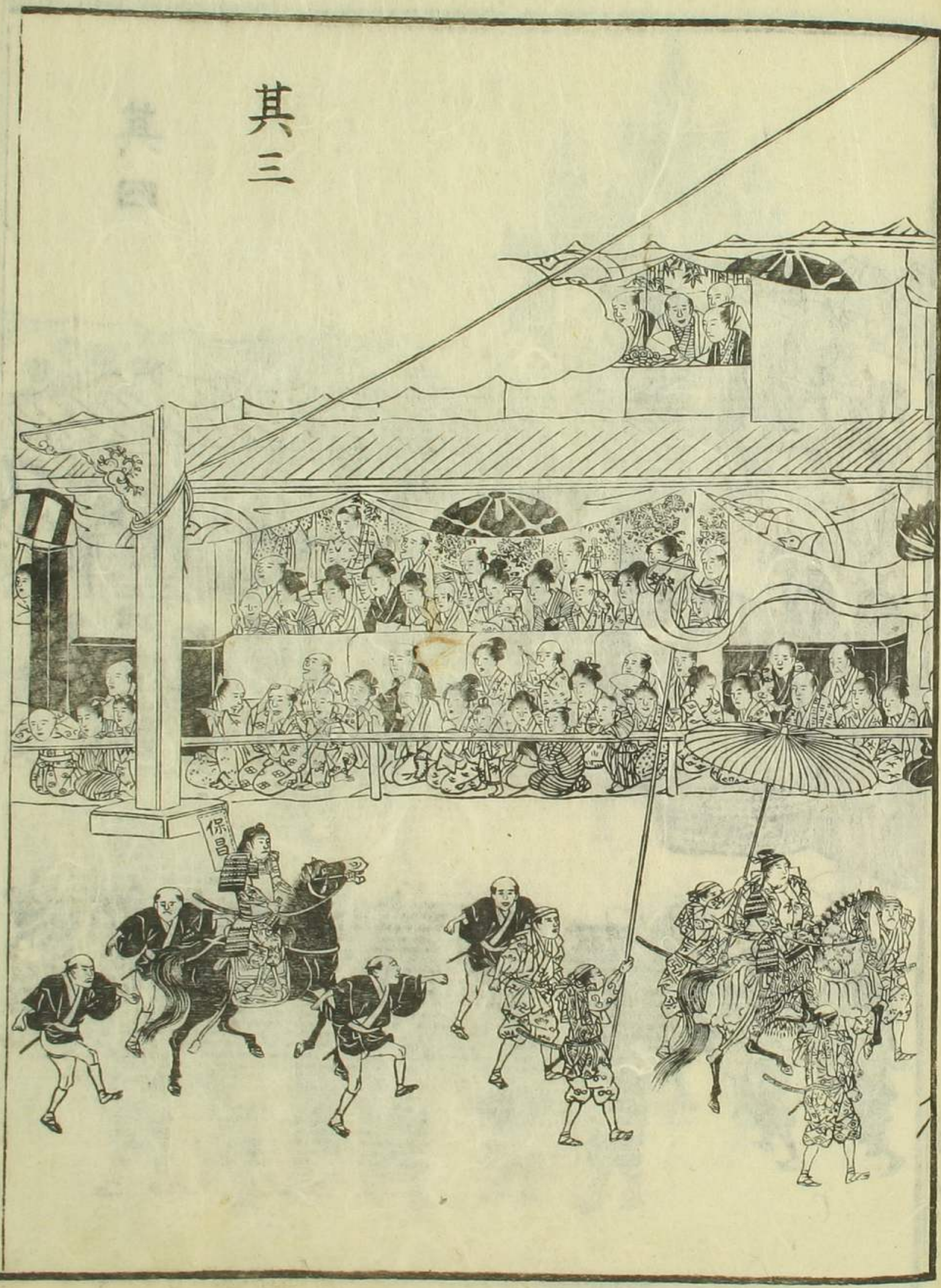
美觀

大江山凱陣

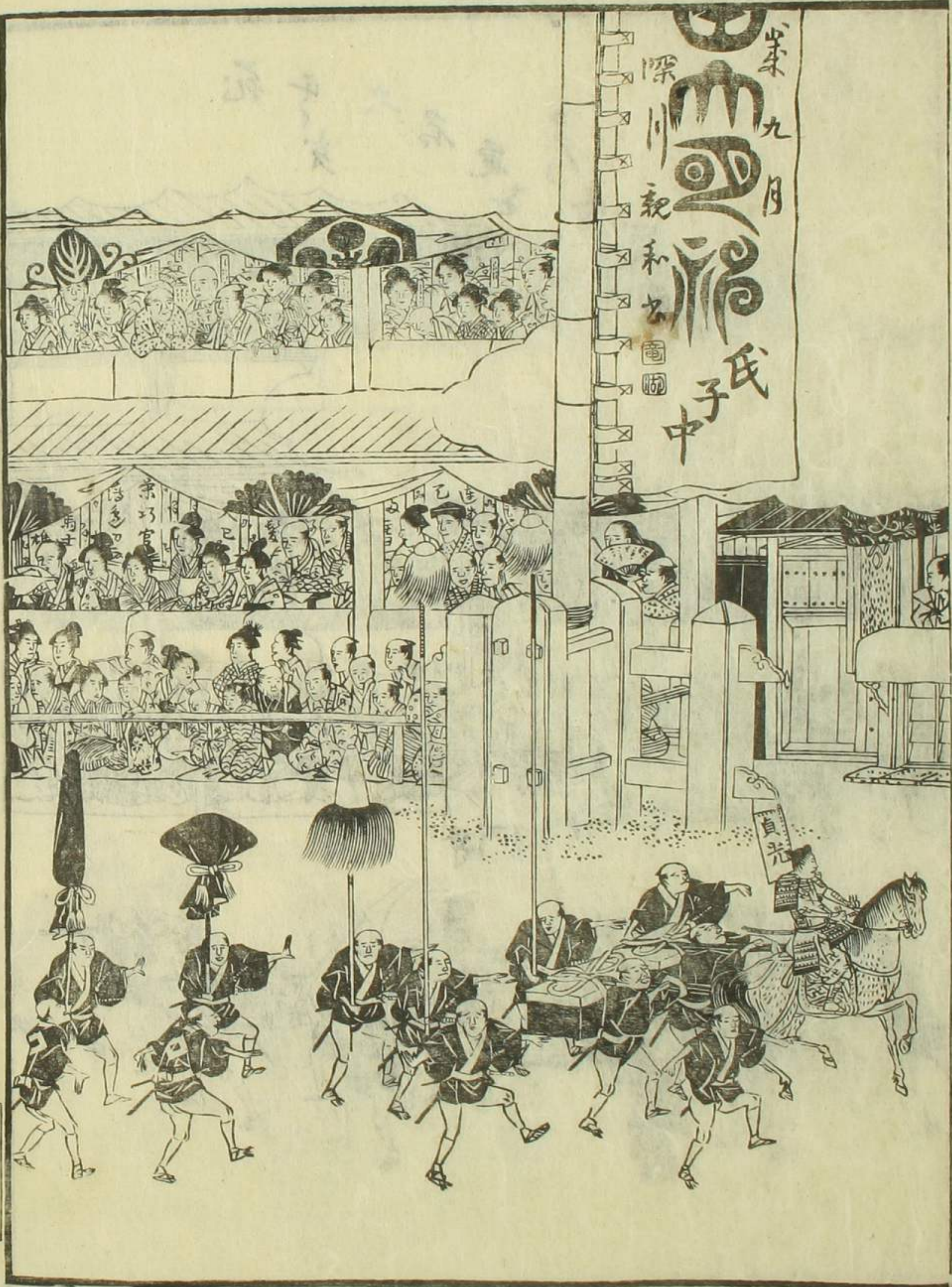
東江原錦書 園四



其三



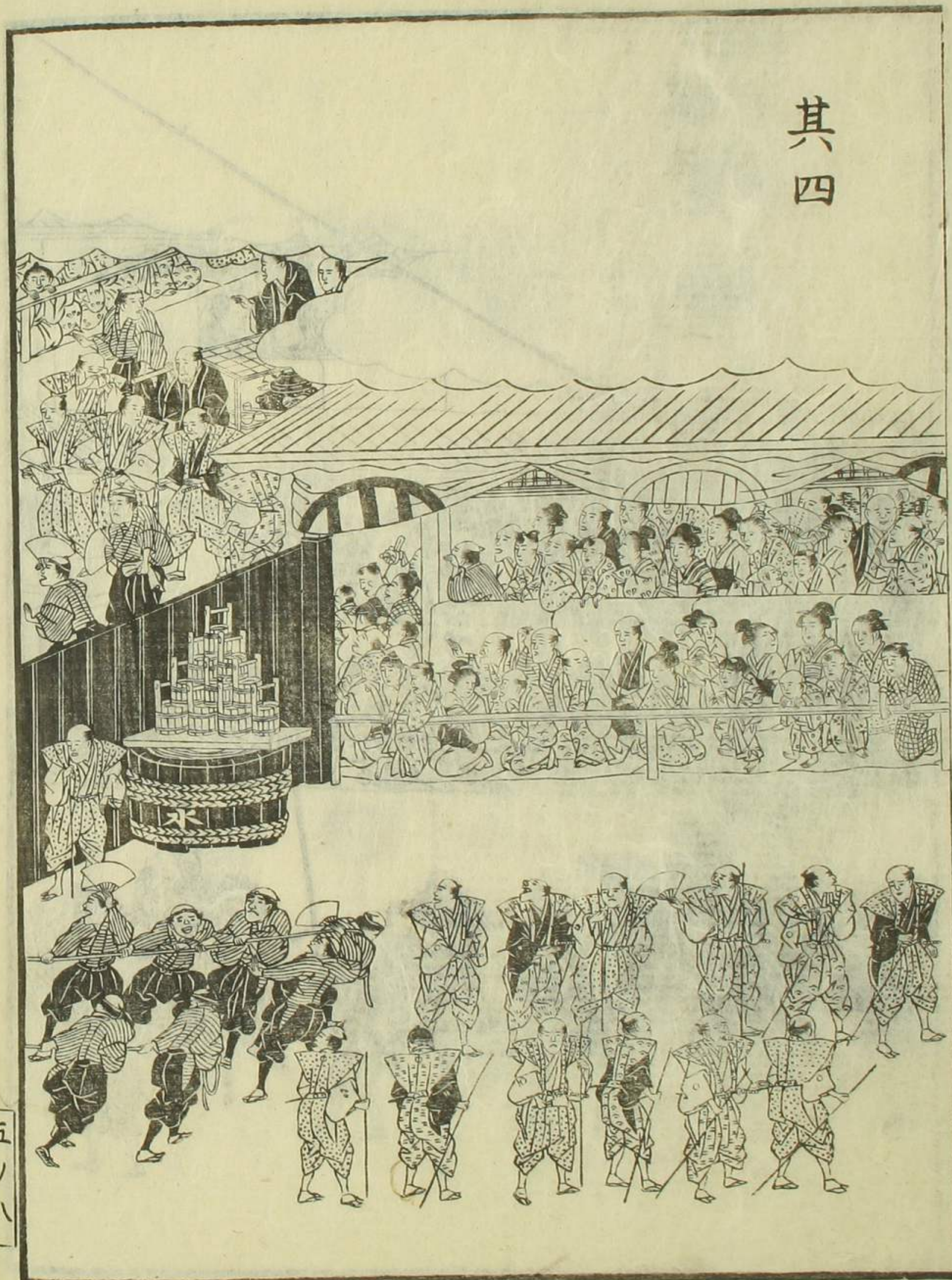
九月
 氏
 中
 親和
 圖

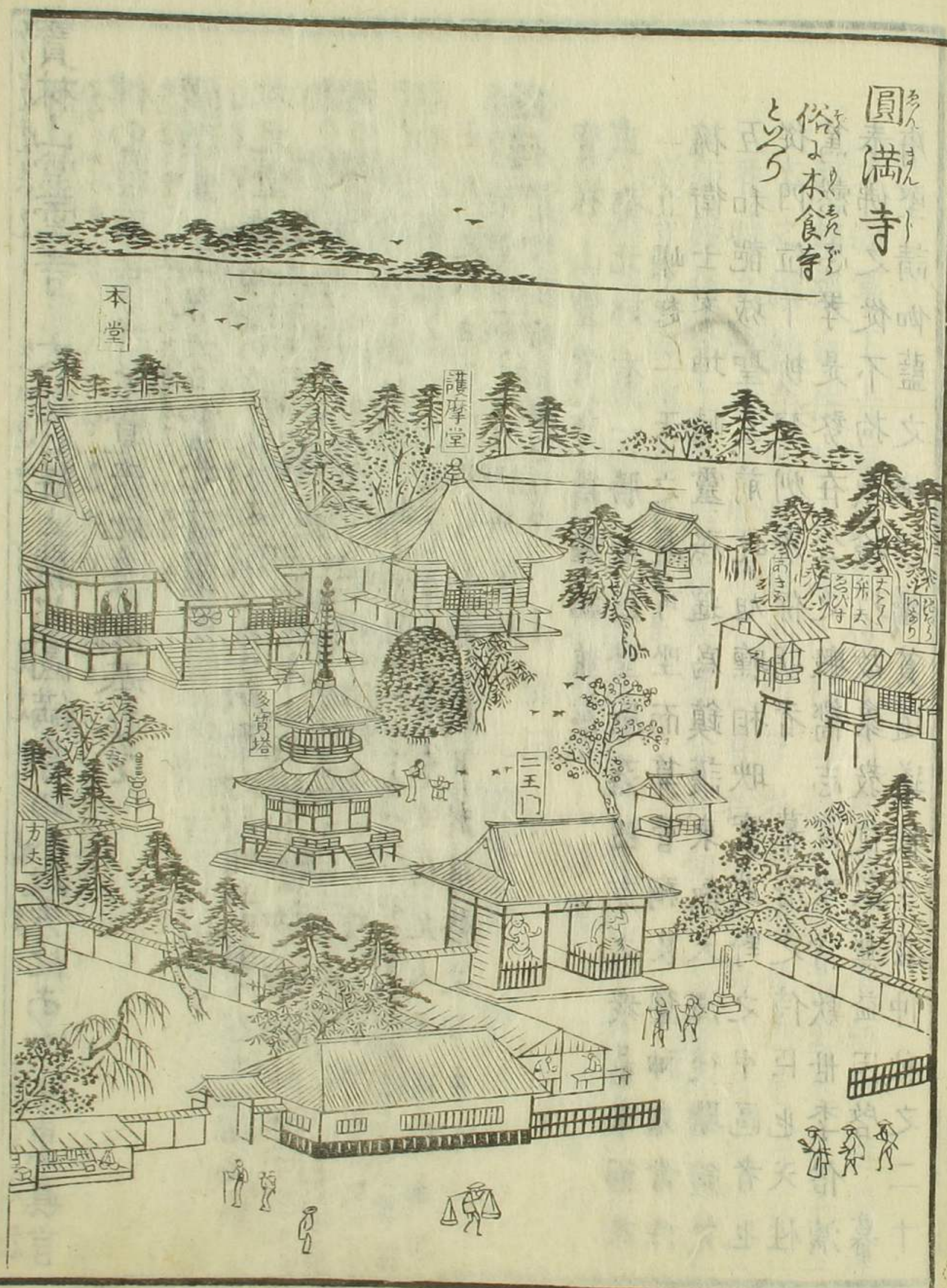


五ノ七



其四





圓滿寺

俗よ木食寺
と云ふ

江城湯島の地に至り彼佛の教を随ひ諸人れ求に應じて無量を願ふ
成就し大に靈驗をありし同七年河室宮へ参るは行法の嚴重なるを
河感あつて高野山光臺院の住持職に任ぜられた又天和二年七月十三日
参内を頭中將隆真卿の傳奏あつて光臺院住持職勅し應に國家安
全寶祚延長を祈奉るべき旨倫旨賜ふ祖先の忠義に仍て名宗の又元
祿四年志願によろしく光臺院を辭して江戸に赴き本郷三丁目住せしふ
其頃
大樹 常憲公とて淨光院殿須山女を以て御祈禱を仰附る室永
六年上京は此時昇殿を許され同七年江戸湯島の地に梵刹を建てる
萬昌山圓滿寺と號す
大樹 文昭公の所志願より本多彈正少弼忠晴奉行たり則上人を以
て當寺の開山とて享保三年六月七日化縁の并新畫り終り春秋九十五歳
みして遷化せし以上開山傳の
器と奉

寶林山靈雲寺 大悲心院と號し圓滿寺の小北方にあり關東真言

律の慈奉寺ありて覺彦比丘の因基なる

灌頂堂 兩界大日如來と安置し

大元堂 灌頂堂のうしろ方丈にあり奉尊大元明王の像ハ元祿大樹の御筆ニ

朝の後林寺の大徳元照師と謂ふ師常曉の器木と稱して此秘法と擬く常曉師

怨等の書見えり又延喜式玄蕃寮式曰凡大元帥法毎年

鐘樓 覺彦和尚自銘と作る

寶林山靈雲寺鑄鐘銘並序 武都北郊有一勝地四埜廓落四方之衆易來而投

擁一丘崛起一天之星可坐而算菅祠良聳神鬼常作

互和龍城聖峙靈祇遙為鎮護東叡天澤後聯鐘梵

從四位下柳羽前岫旭曛相映實武野之甲區者也

篤佛之從不勢戒檢以故象教從設無益因啓俗滴

府堅請伽藍之地以囑貧道遂使今茲仲秋之二十

二大將軍下旨賜許斯攸予乃夷榛莽卒勅營構遐通

競之績倏示告成從四位下始野備以至孟冬之半土

者時之復令工匠也締造其樓今月初四樓鐘偕就以惟

斯鐘之興起也者本是樓喜捨家貲命于鳧氏鎔成

大將軍之賜而二公醇信之所致也予欲使後生有

感于茲欽遵佛制力荷教法上以禱也 台運無疆下

以增士民壽福也乃為銘曰 元帥賚地 實比布金

城北福庭 山號寶林 彌歷七旬 棟宇成森

作夫四集 役工日臨 命工作器 修弁合程

牧野備公 為時股肱 賢聖畢萃 龍鬼熱醒

架樓突兀 乍響錘鉤 迷夫天真 妄作分別

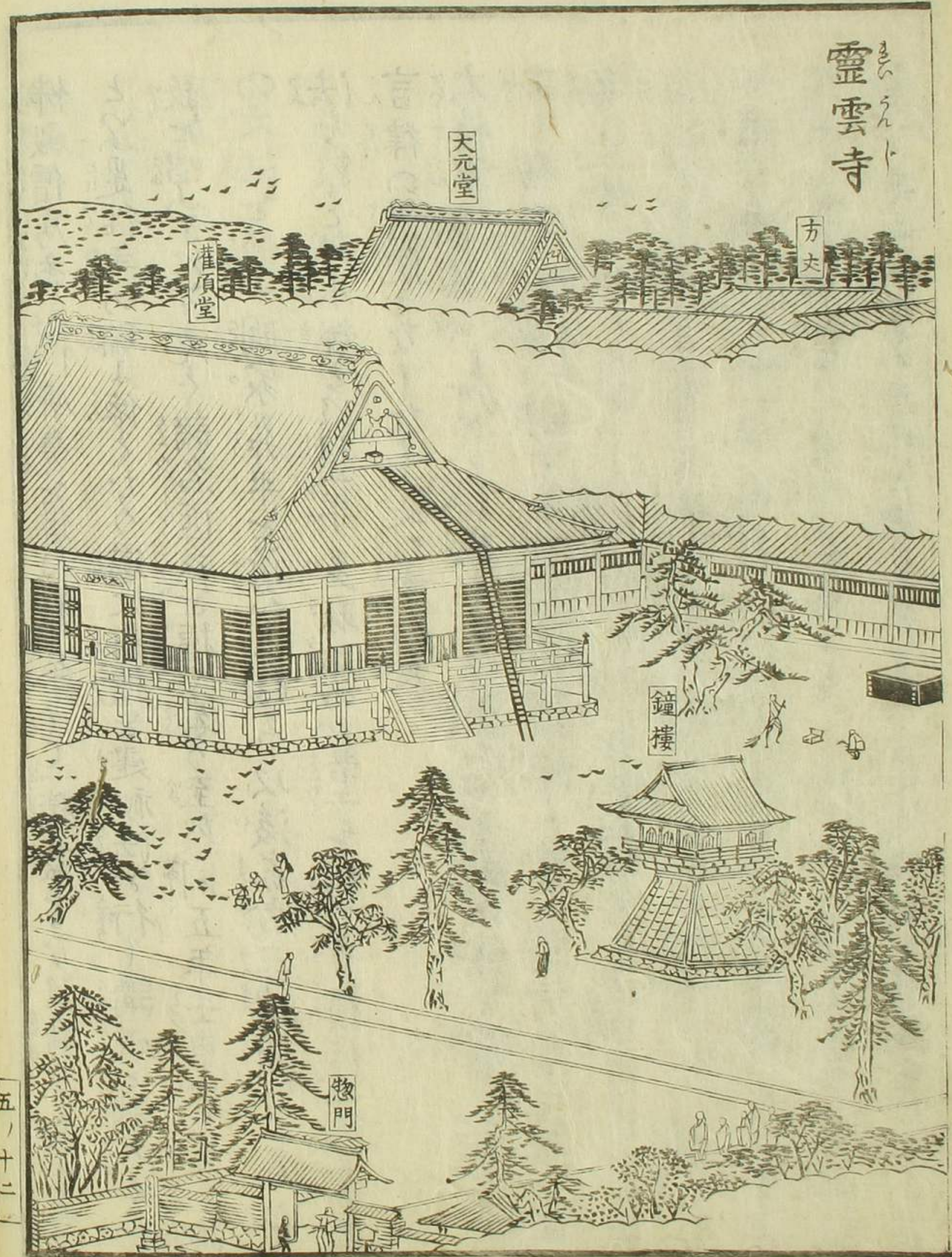
聲雖本有 乍起乍滅 法音通益 何有垠埒

圓性融相 誰縛誰泄 元祿四辛末 年孟冬

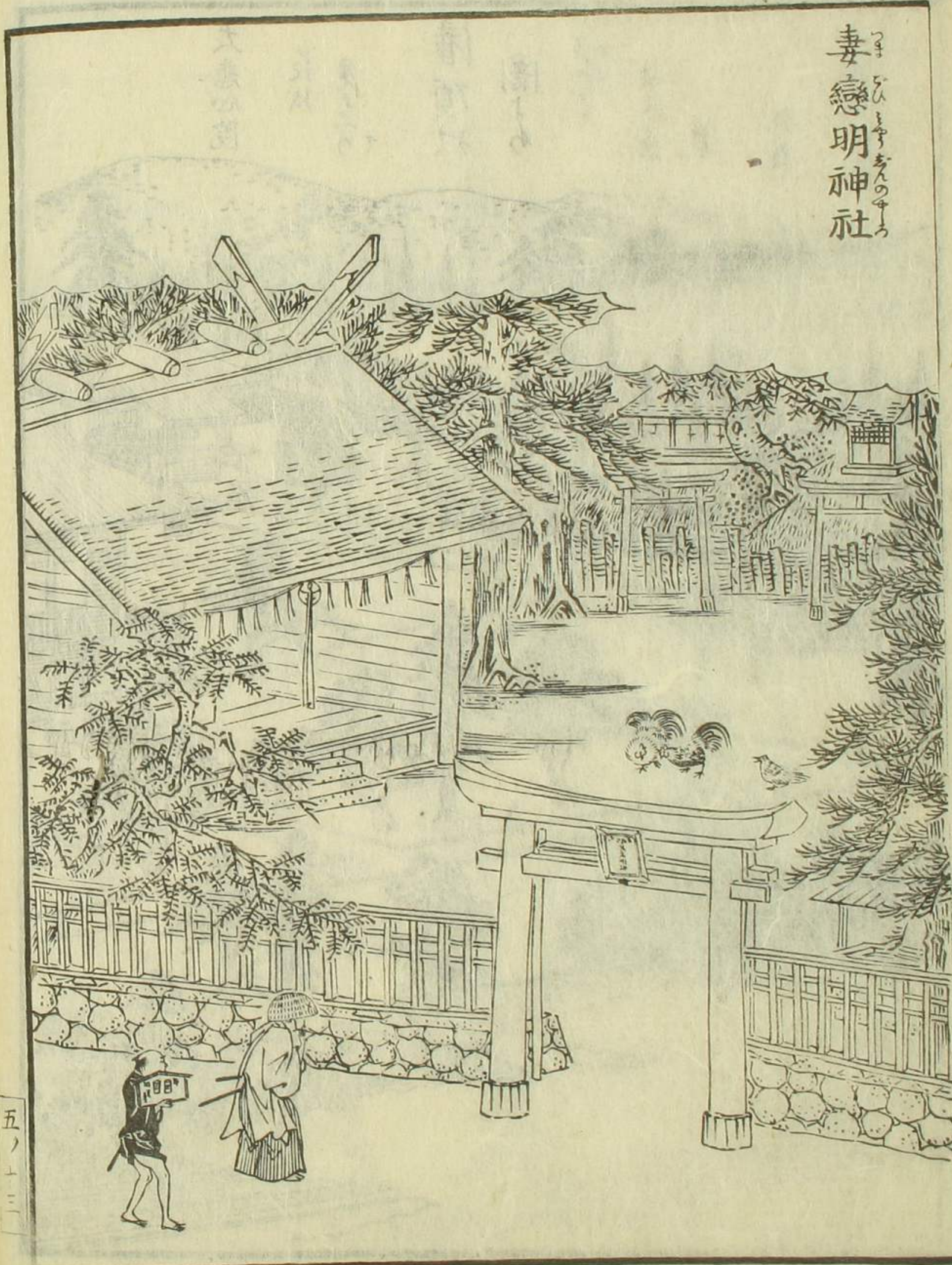
地藏堂 奉尊地藏菩薩 弘法大師あり 左右の脇檀より弘法大師あり

開山諱ハ淨嚴字ハ覺彦妙極と號し河加錦部郡小西見村の産ニ

田氏母



妻戀明神社



三十六會殆三十席秘軌と授ふこと五回著述を於取の書三百卷余度を
 於處の僧尼四百三十六人具足戒を受ふ者十有三人阿耨刹と得る者二百六
 十八人受明灌頂ははする者一千六百三十一人菩薩戒を受ふ者一萬五
 千人其餘の法化の奉て數ふるは往哲のいまま發せしを發し先賢
 名明なりはるはあはるは法化洋々として天下に彌布し王公よと
 下愚夫蠢婦に至る迄敬仰せむといふことあり今古のあはるはる所
 實に總持復古の師なり 以上當寺開山傳の要を摘ぐるに記す
 妻戀大明神社 妻戀坂の上にある方治年中回祿ありて後今の妻戀臺
 へ遷らせり

祭神 第一殿 倉稻魂神 第二殿 日本武尊 第三殿 弟橘媛命
 社傳曰當社を往昔日本武尊東征の頃行宮の地ありと云々
 按に日本紀に日本武尊東夷征伐の時妃弟橘媛海水に入て
 登り東南の方と望たまひ吾嬬者耶と言ふ見えり野國確日廣に
 征の時行宮の地ありと云々彼尊を鎮奉り妻戀臺ひたまふの意を取て直り

妻戀明神と号すか多し今稻荷明神をりつと社の號よ

往昔ち社地も妻戀墓の下にありて境内をぬるる廣くりに救度
を兵火に罹り大に荒廢よきび繞り社の形をりを殘せり時よ天正
年中

神君當社よ祈願の事ありて新に二丁四方の社地を賜ふ又寛永五年

台命よつと

神君の御像を別社に鎮座おさし先給ふ
今稻荷の社に鎮座を奉るとり

湯島天満宮 妻戀明神の小れ方あり大田道灌江戸の静勝軒あり頃

文明十年 夢中に菅仲よ謁見を翌朝外よ菅丞相親筆の函像と携來る

者あり乃夏中洋を所の尊容を彷彿せり以て直に城外の小に祠堂と

管彼神影と安置し且梅樹數百株を栽美田等と附を即當社是あり

以上諸社一覽江戸名所記等の書よ出るとりども此の誤りも勘町平河天神に
菅丞相親筆の函像と稱するものありて之を當社に此影あることあり其論
ありとて之を

北国記の

武藏野の遠望を懸たふに寒村の道よ野梅盛み薫ばあれり
小野の神と聞えたり

志の東風吹むを遠く志あめ神志林かき 寛惠

湯島神社 土人戸隠明神と稱す本社の後れ方あり則地主の神あり

風土記曰豊島郡湯島神社雄略天皇御宇二年癸巳

天澤山麟祥院 同所北の方あり臨濟宗江戸四箇寺の一なり

恩山天澤寺と稱せし春日局の奉尊の釋迦如來円山の渭川劉和尚

法号を取し麟祥院とあり春日局の奉尊の釋迦如來円山の渭川劉和尚

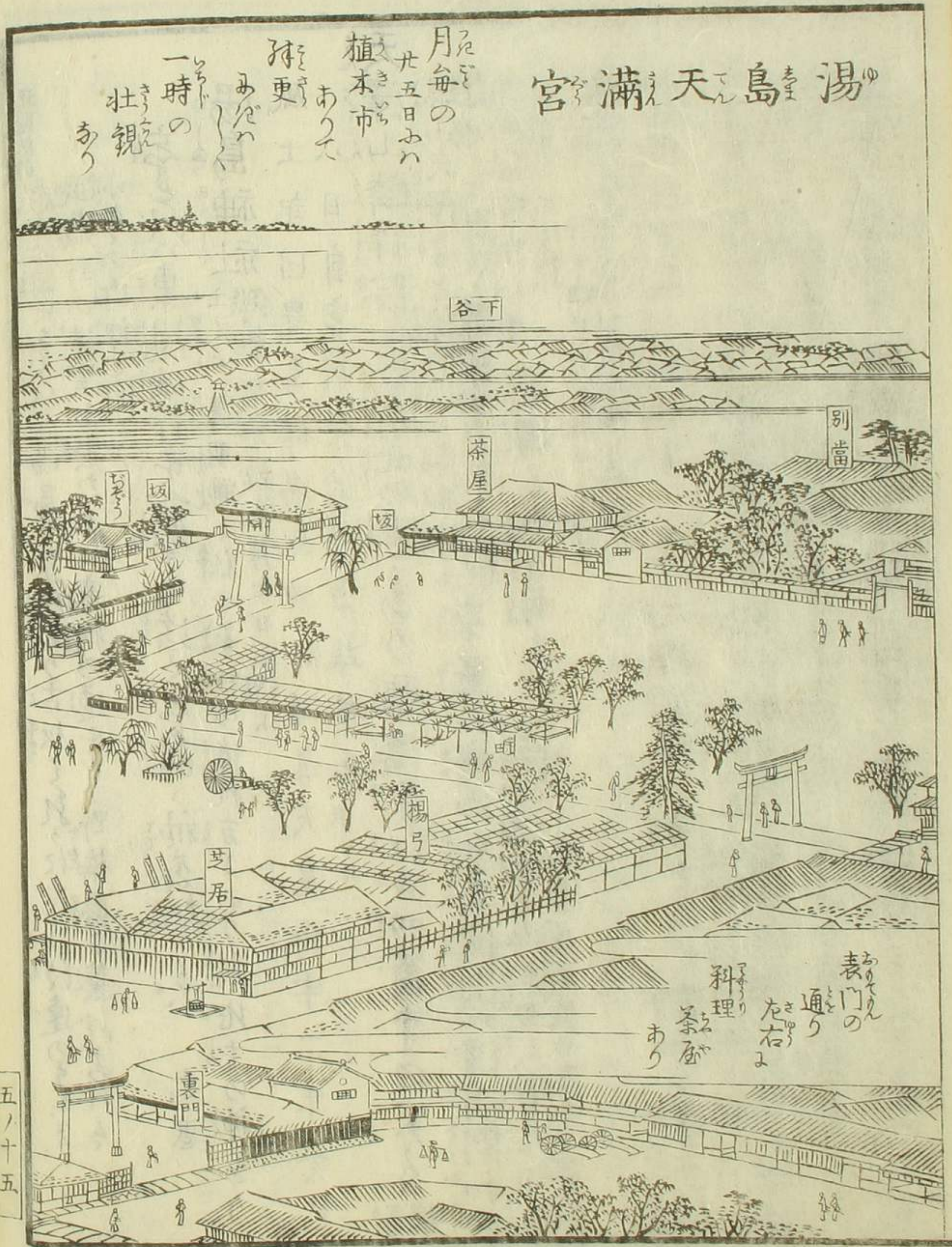
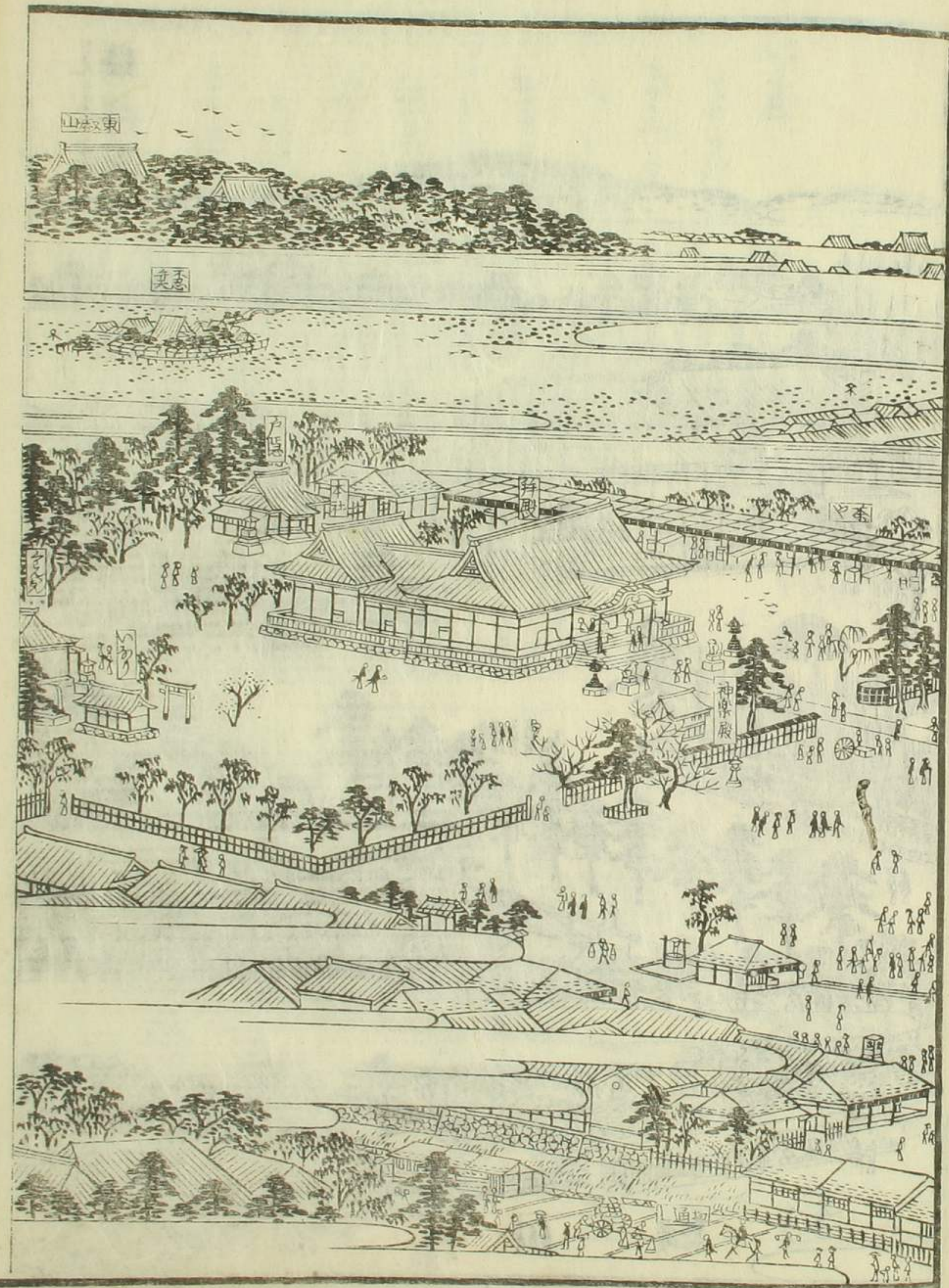
京師花園妙心寺 奉願を春日局あり 三代大將軍の所乳母人齋藤利三の

寺傳曰寛永元年甲子 二代大將軍の命よらて當寺を春日局

名菩提所とて且其殿閣をよに移し 天和二年回祿を其以前の禰今十八

等皆雲谷 同五年 三代大將軍 不豫よありせられし局自ら

東照大権現の 神前よ詣りて日妾が身不浄ありとてども苟も乳



鳥丸光廣卿

そと

光

朝日

よ

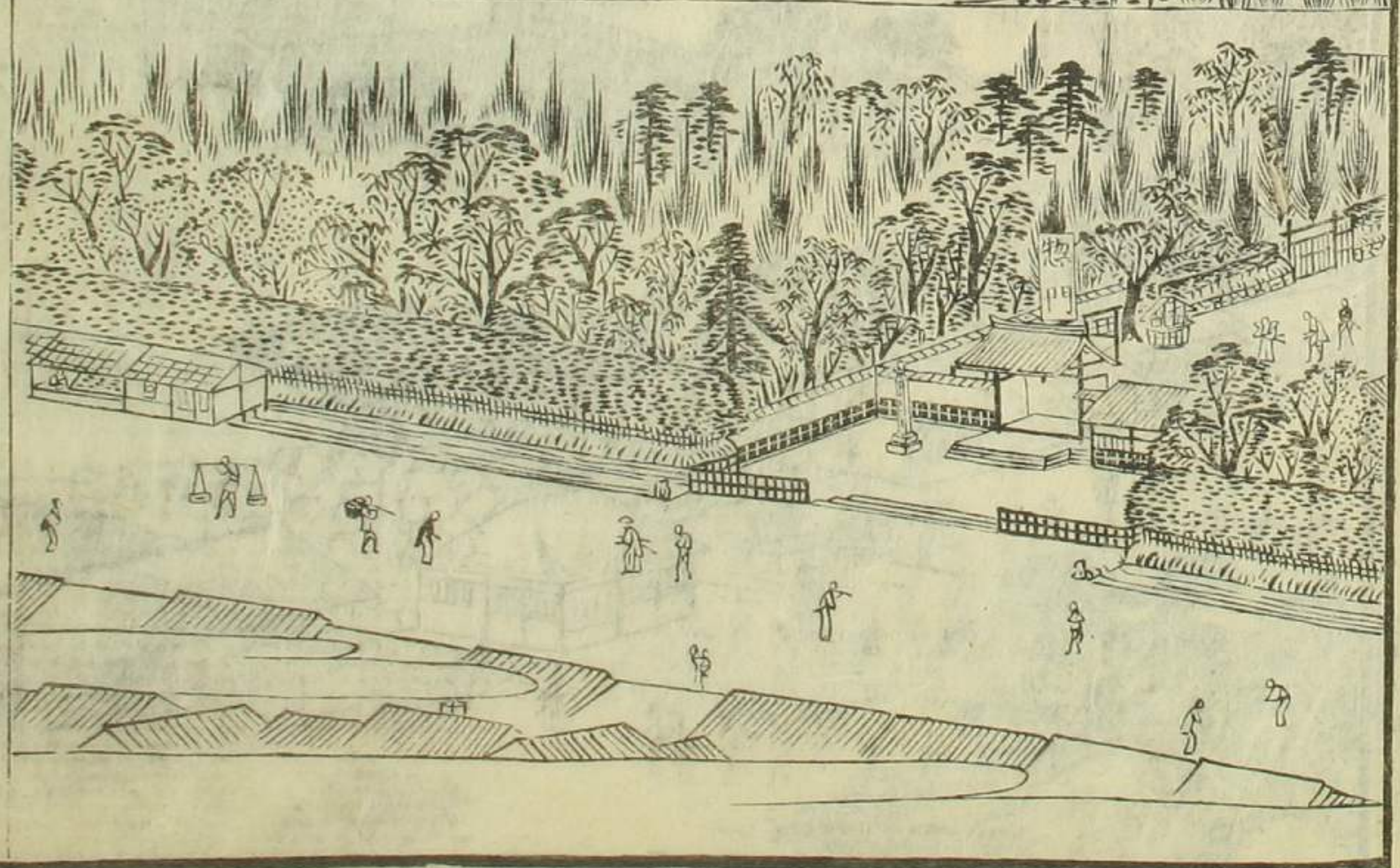
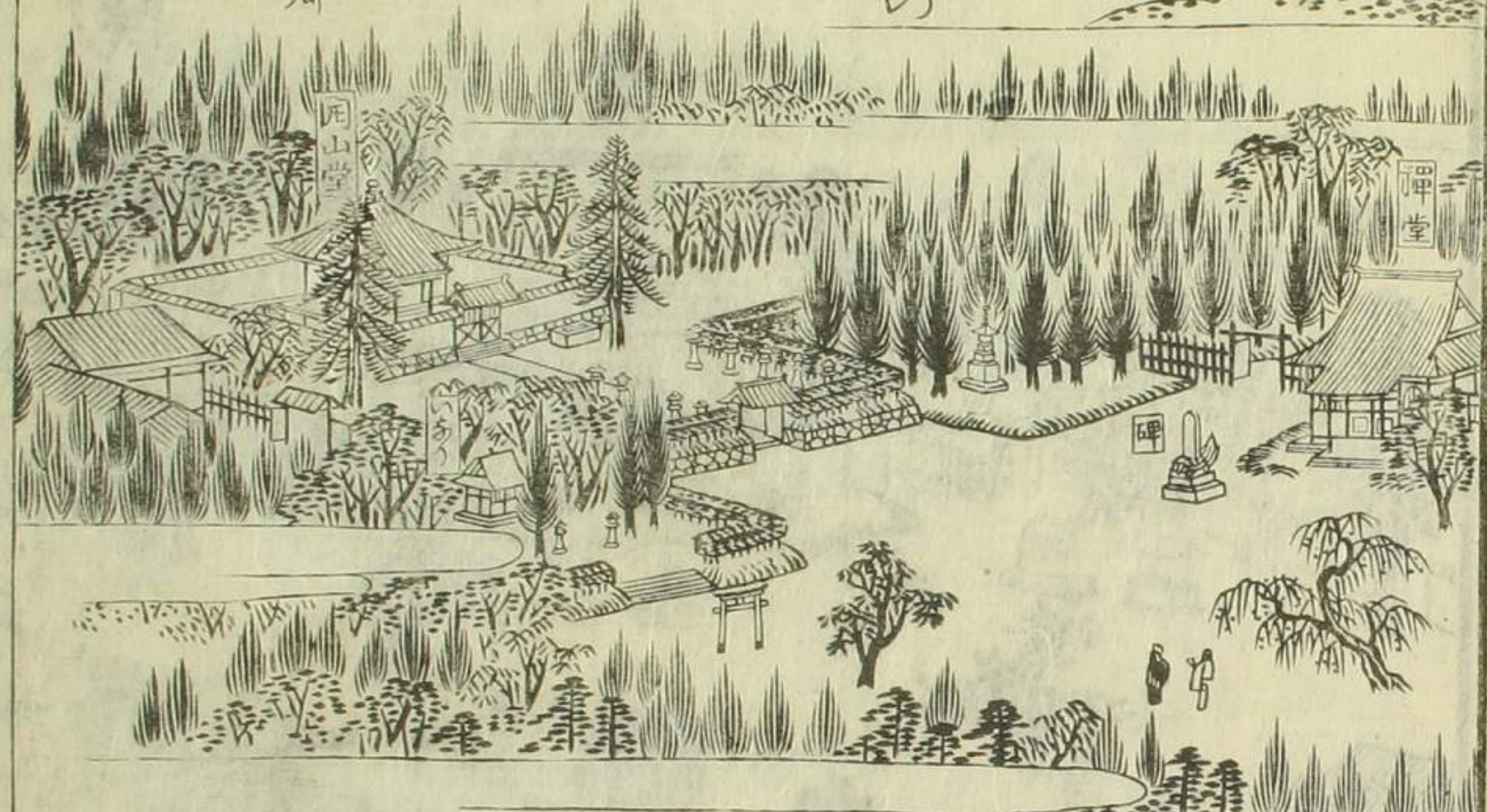
か

わ

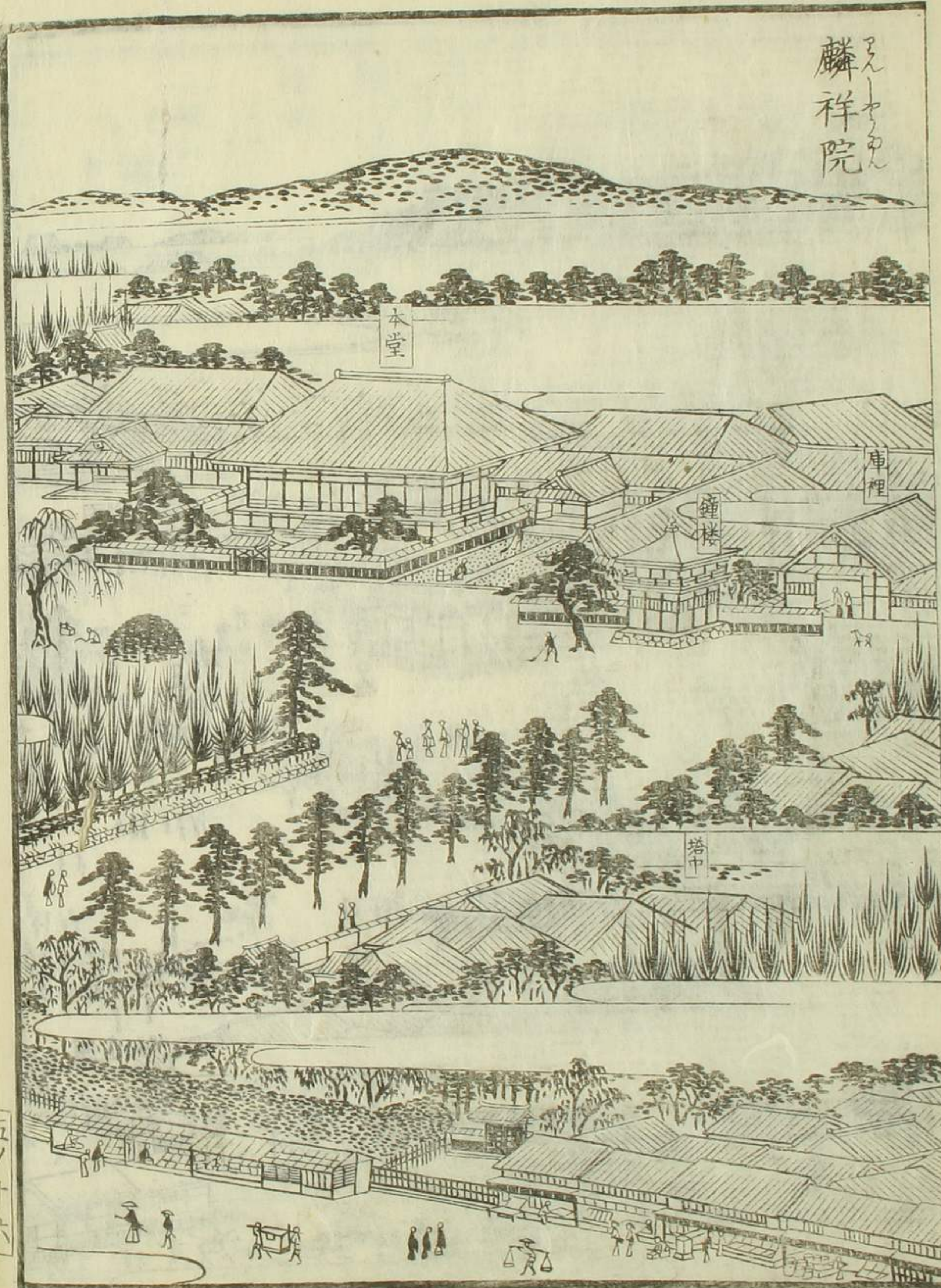
ま

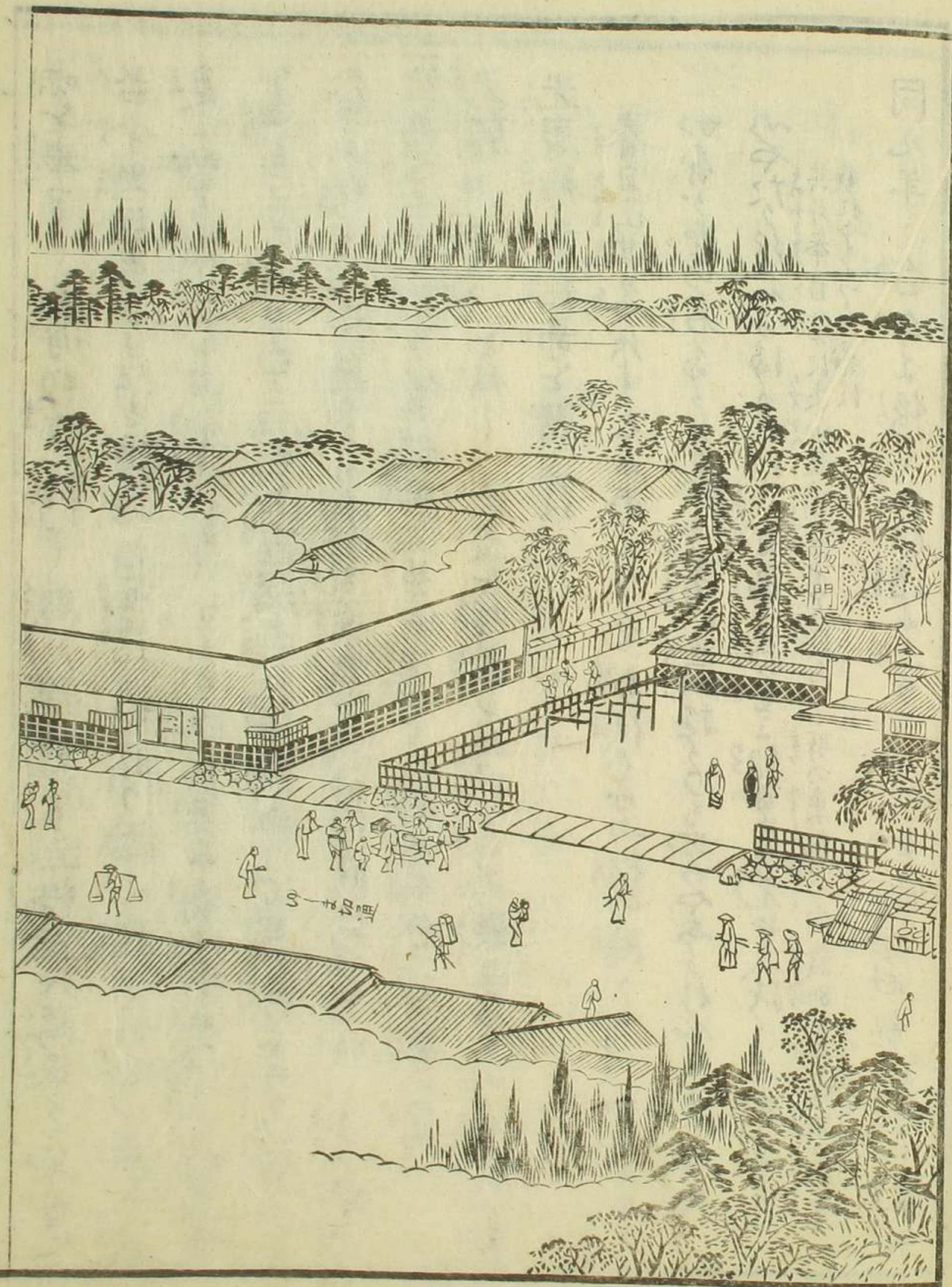
あ

以

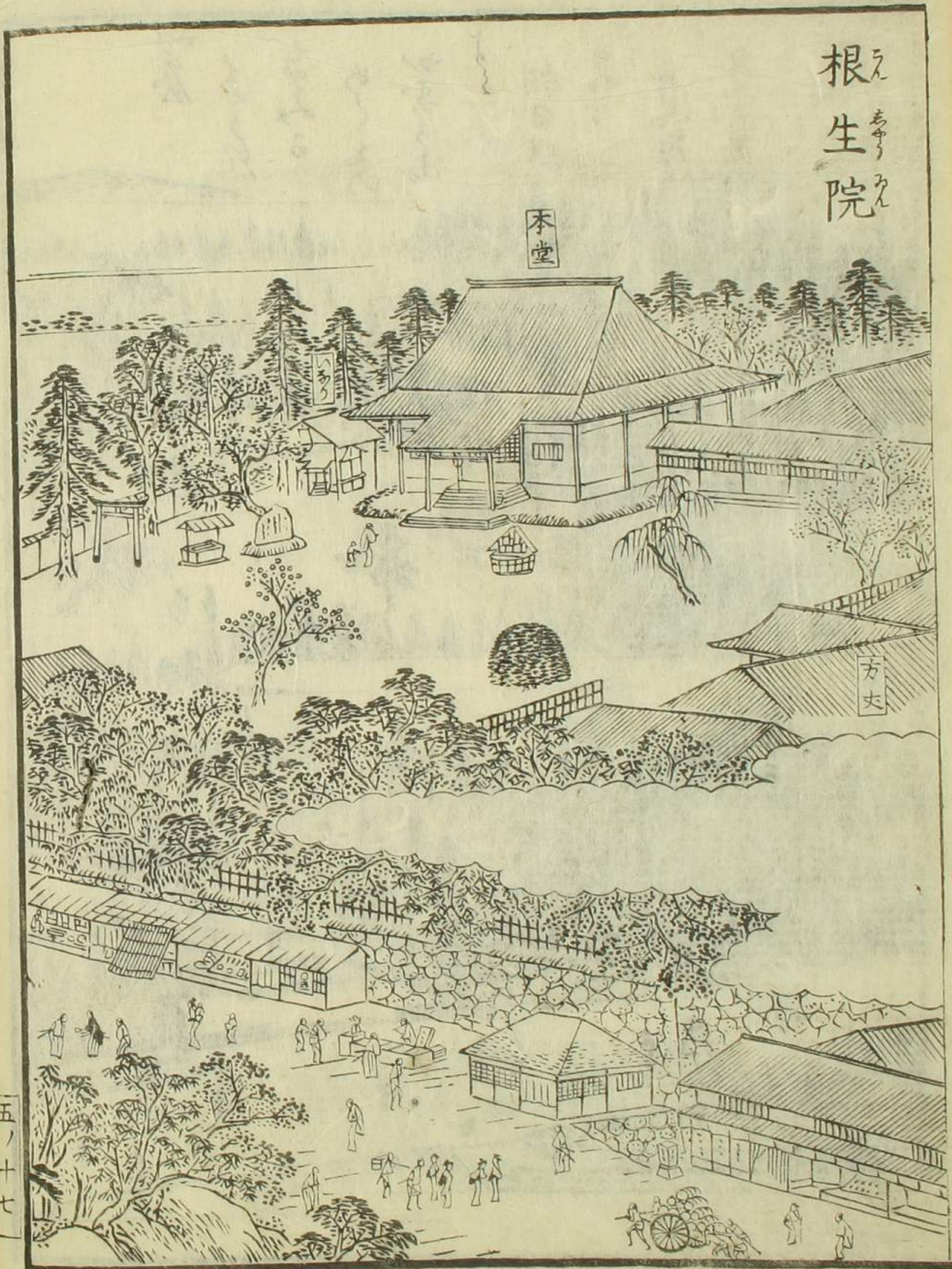


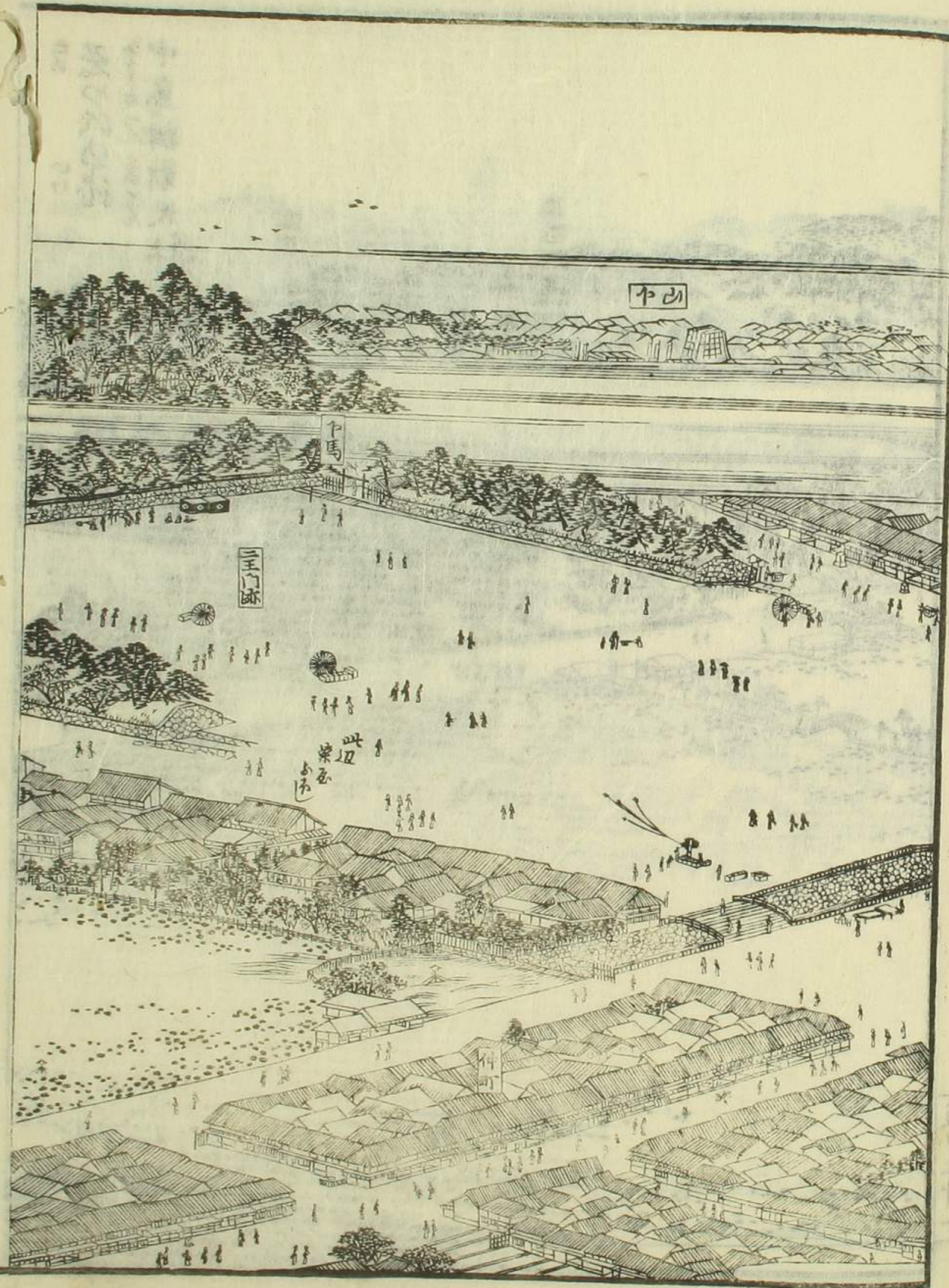
麟祥院



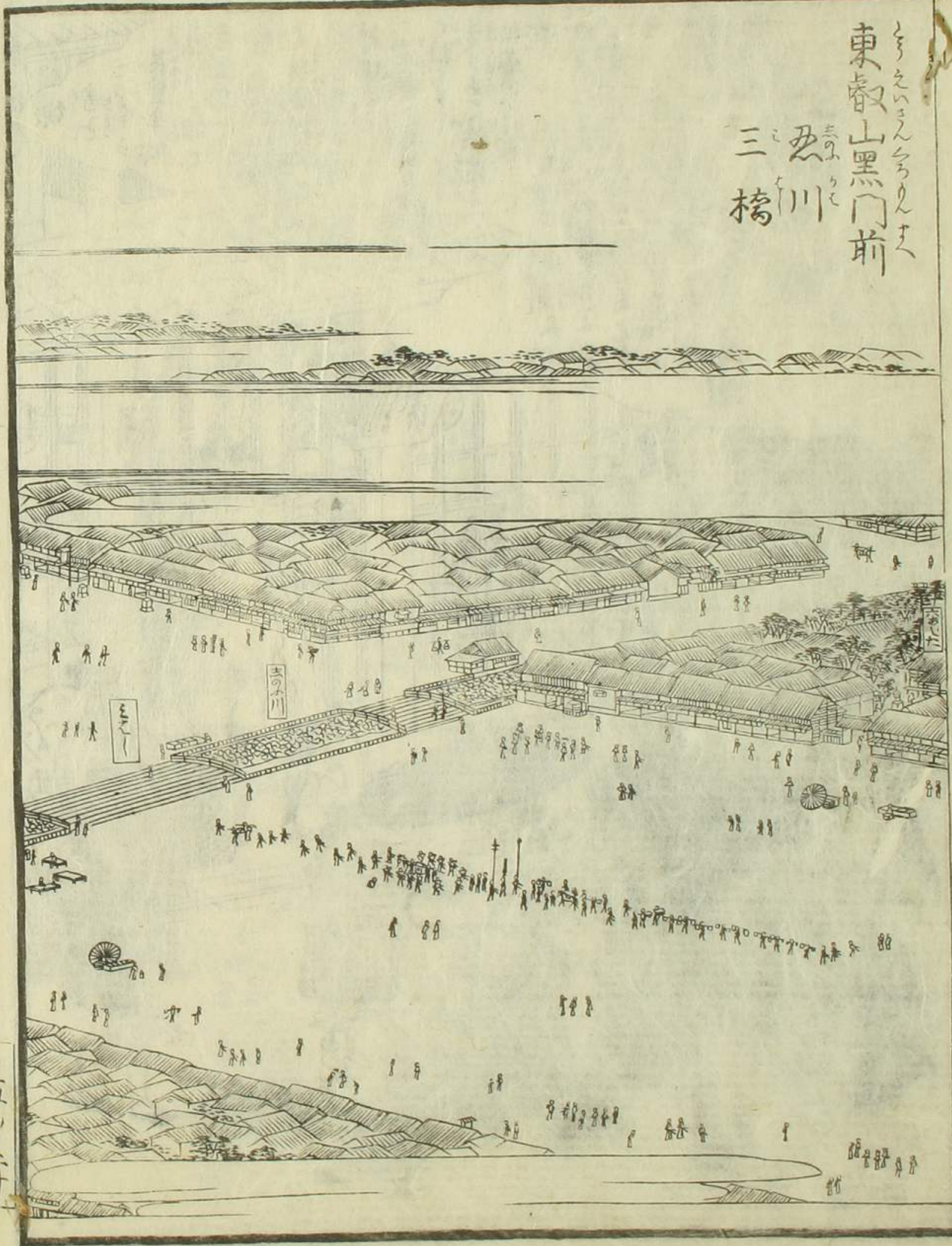


根生院

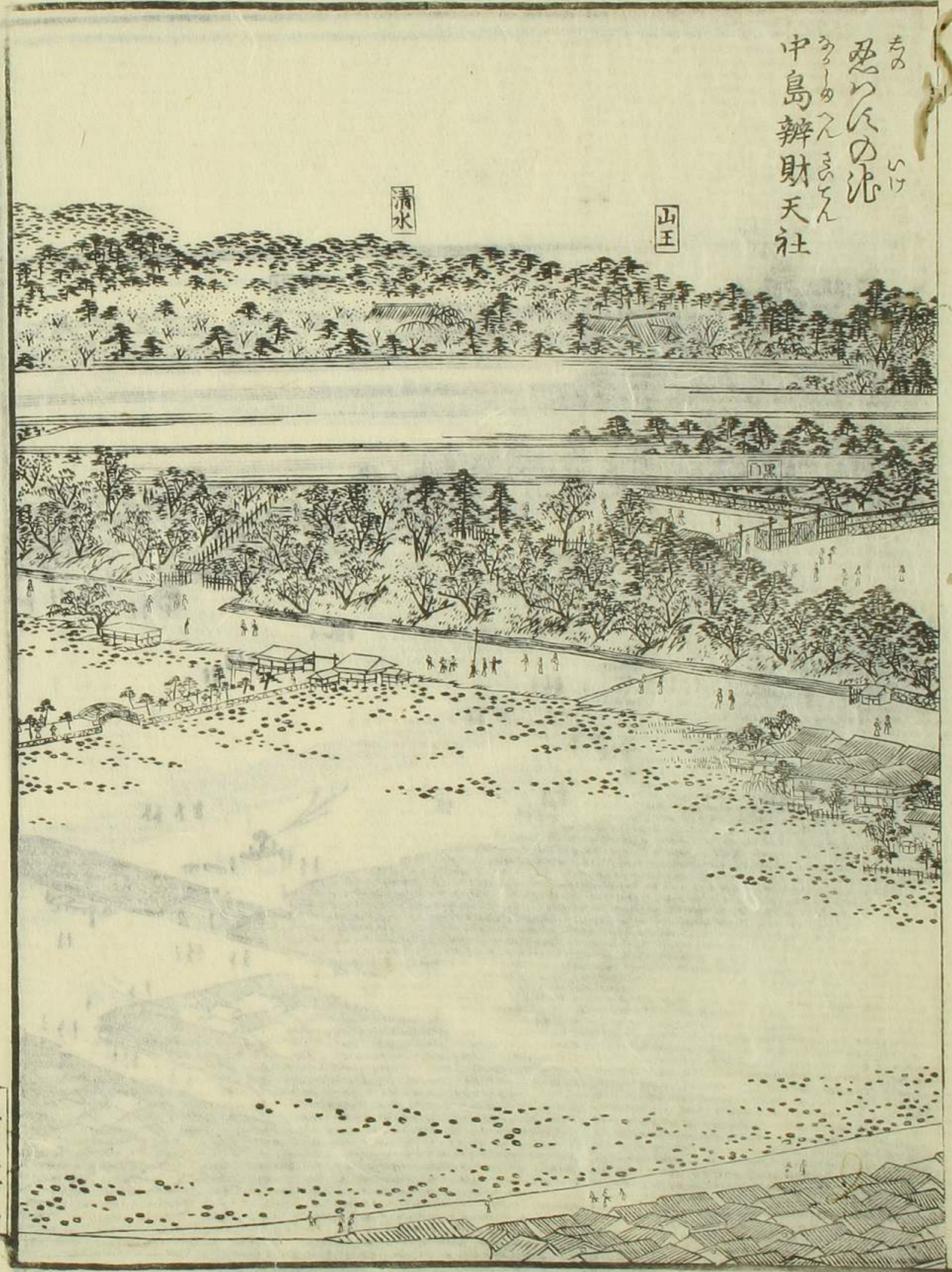
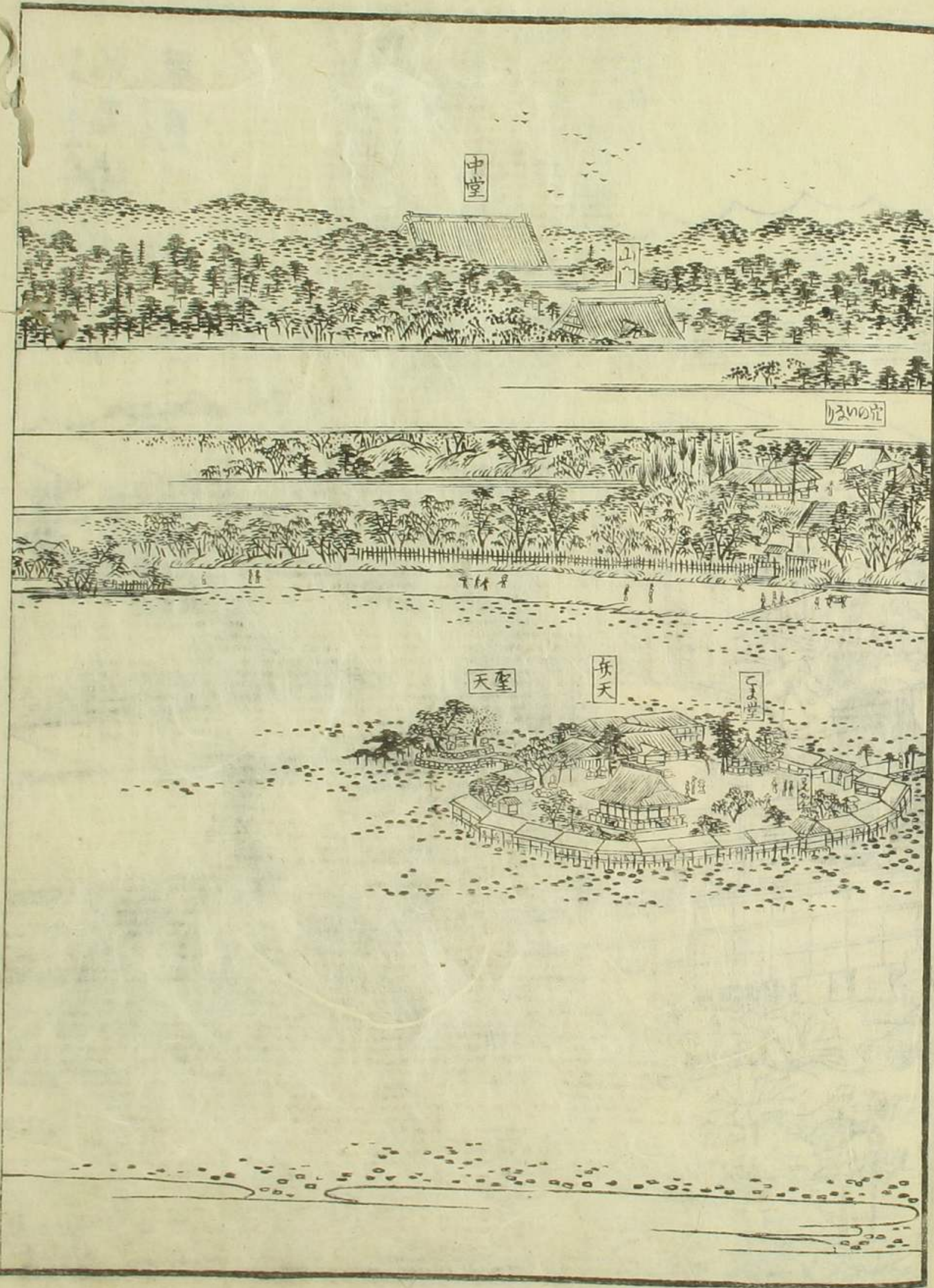




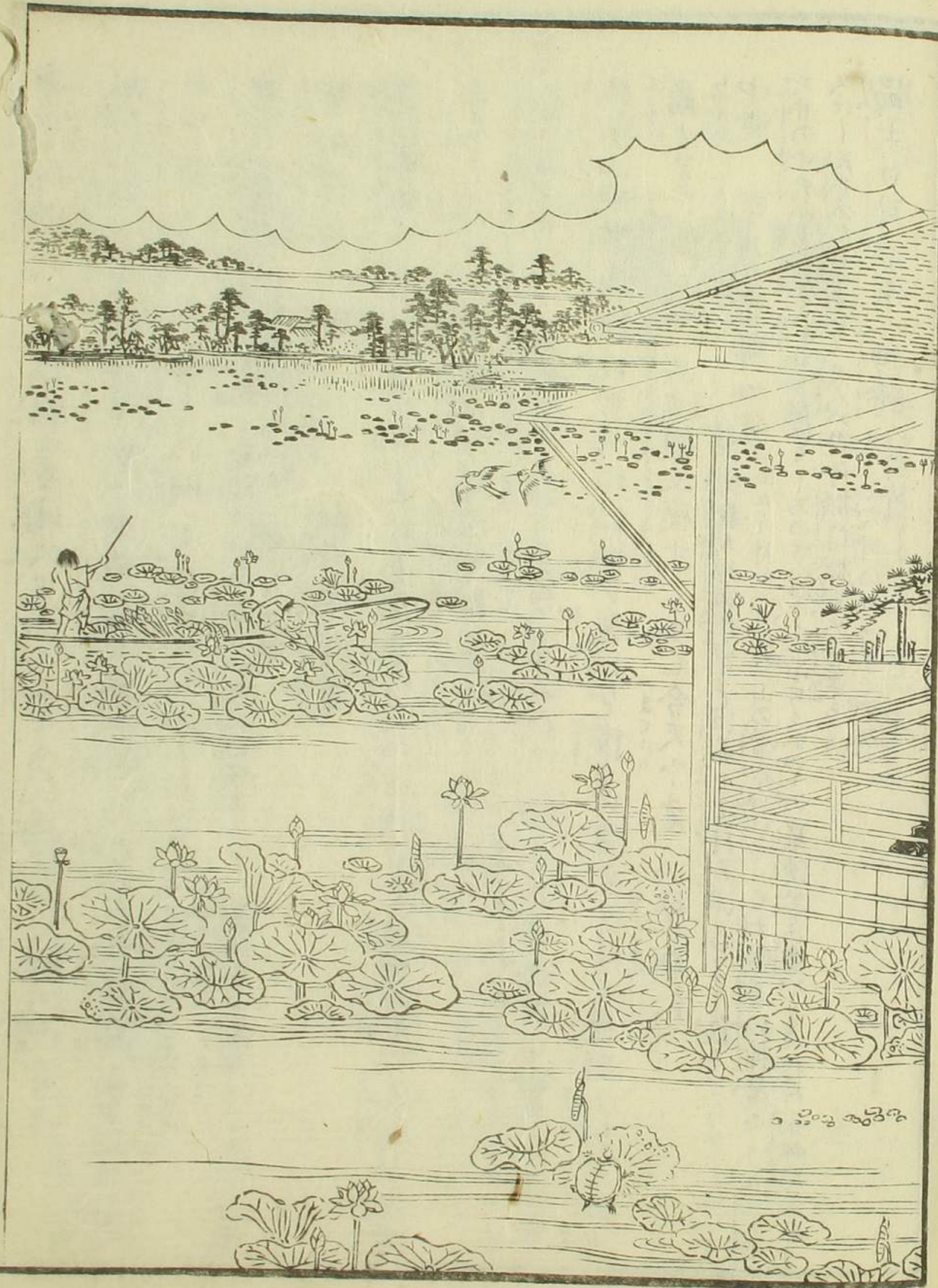
東叡山黒門前
三橋川



五ノ二十

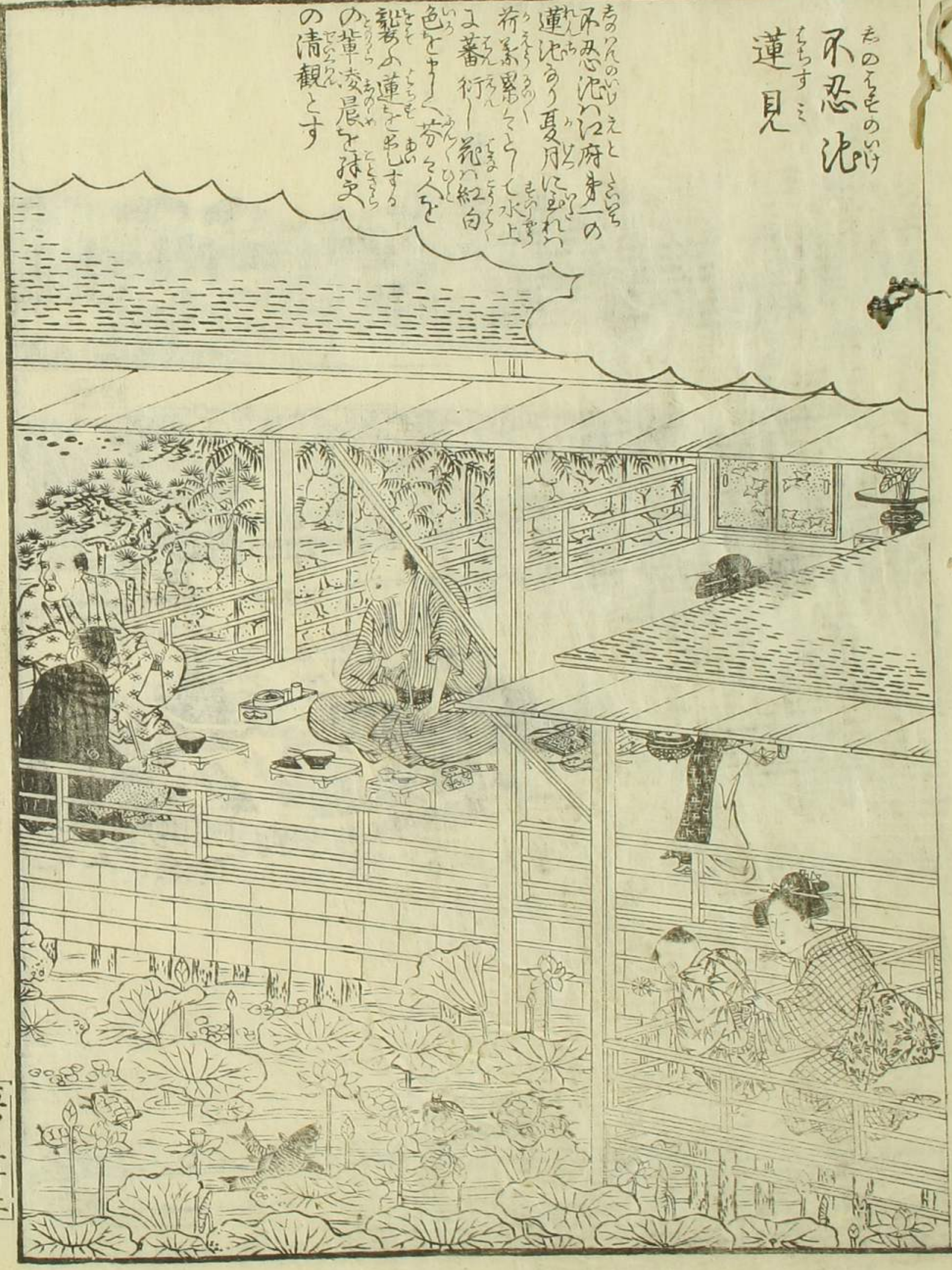


忍の池
 中島辨財天社



たのこそのいけ
不忍池
をらす
蓮見

あつたのいけとよら
不忍池の府身一の
蓮は夏月には
新葉繁々として水上
に蕃行花の紅白
色とすけを人々を
船の蓮をすする
の華交辰をす文
の清観とす



奉尊辨財天（一）脇士多聞大黒の二天とも（二）に慈覺大師の他あり

社傳曰往古東叡山草創の時慈眼大師此池を江列の琵琶湖みまをら新

又中島を筑立て辨天の祠を建立せられと云（三） 吾名取記云水客伊勢守

聖天宮 本社の北の方小島勸請す此島其始天の祠あり（四） 舊池あり其頃由この聖天の宮

紫銅華表 額 天龍山 細井廣澤筆

昔離島小一て私めて往末とて寛文の未陸より道双築て糸清の人便

あらしむ己巳日ハ前夜とて糸清群集す

東叡山寛永寺 圓頓院と號す人皇百九代 後水尾帝の御宇寛永年中

比叡山延曆寺に比せられ江城の鬼門を獲るの靈區として慈眼大師草創有

爾より己降代々一品法親王座主として今天下才一の林刹なり

中堂 奉尊藥師如來 傳教大師の他中一に勿夫造村石津より海をせらるるといひ

天井の中央小盡ける龍ありひにうのの壁に上にあがるの十六羅漢等の像にも特許永叔の筆あり

脇士 日月二大十二神將 慈覺大師の他一とて羽別

脇壇 不動明王 智燈大師の他 多摩天 定期の作

瑞瑞

靈元法皇震筆

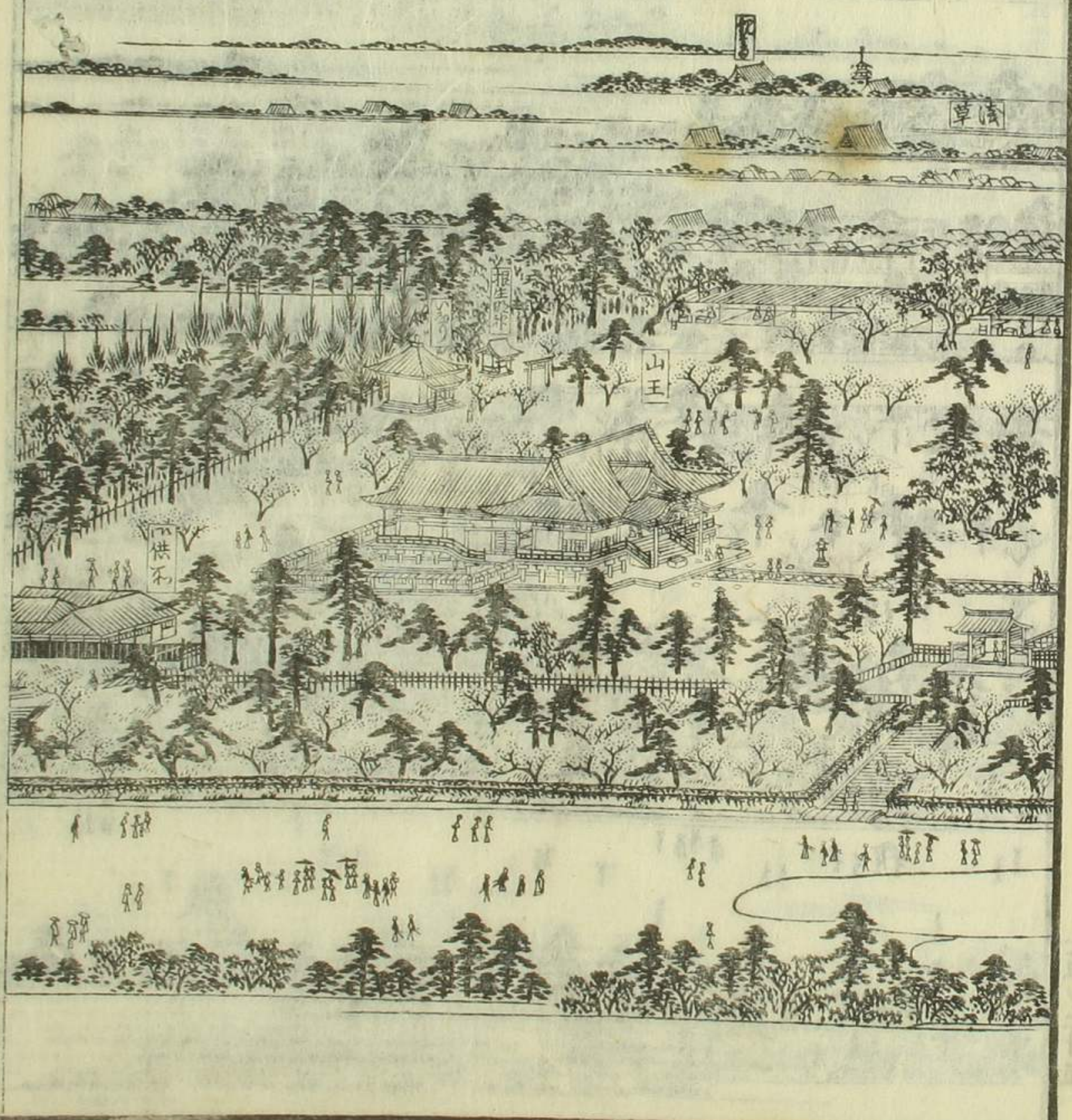
竹臺 廊のうらたにあり昔慈覺大師入唐の時五基山の竹を根うに携へて歸朝の
ちとす 盧屋とて書よ見えたり此に竹と山玉権況をよ八百萬神の影向なり
ともいふ 又同一た在りしき條あり石楠を植きり宿夜又夜又女の影向なりとて
廊門 天井に必陵頻鴛を畫りり特許探信 探雪の兩筆あり

寛永

後水尾帝震筆

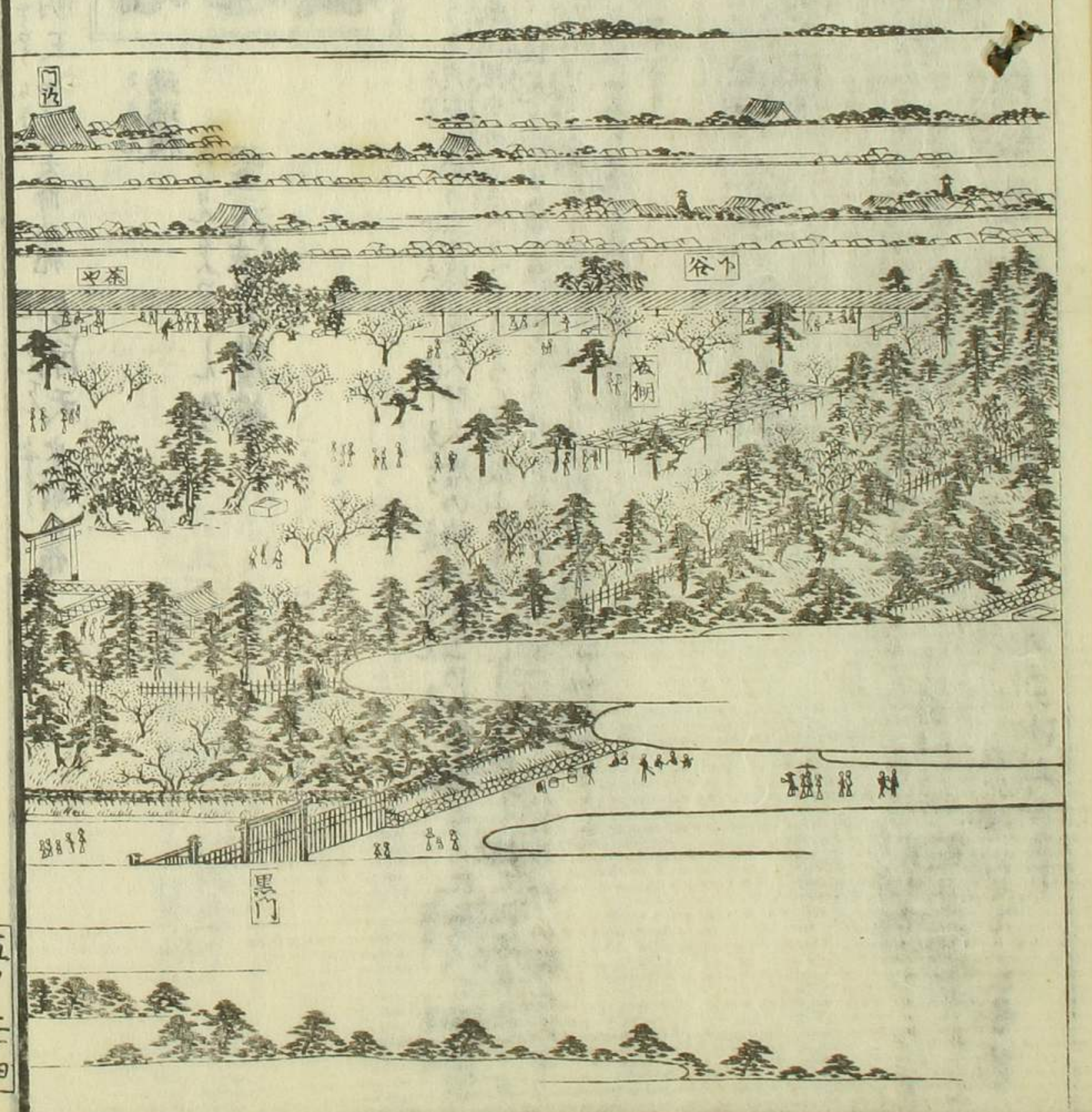
雲水塔 中堂の傍にあり多摩天と名付く初慈眼 三十番神社 雲水塔のうらに有
兵山慈眼大師 建立 轉輪藏 中堂の前の方より一切徑を収む前に傳大士をよ普賢
ありといふ

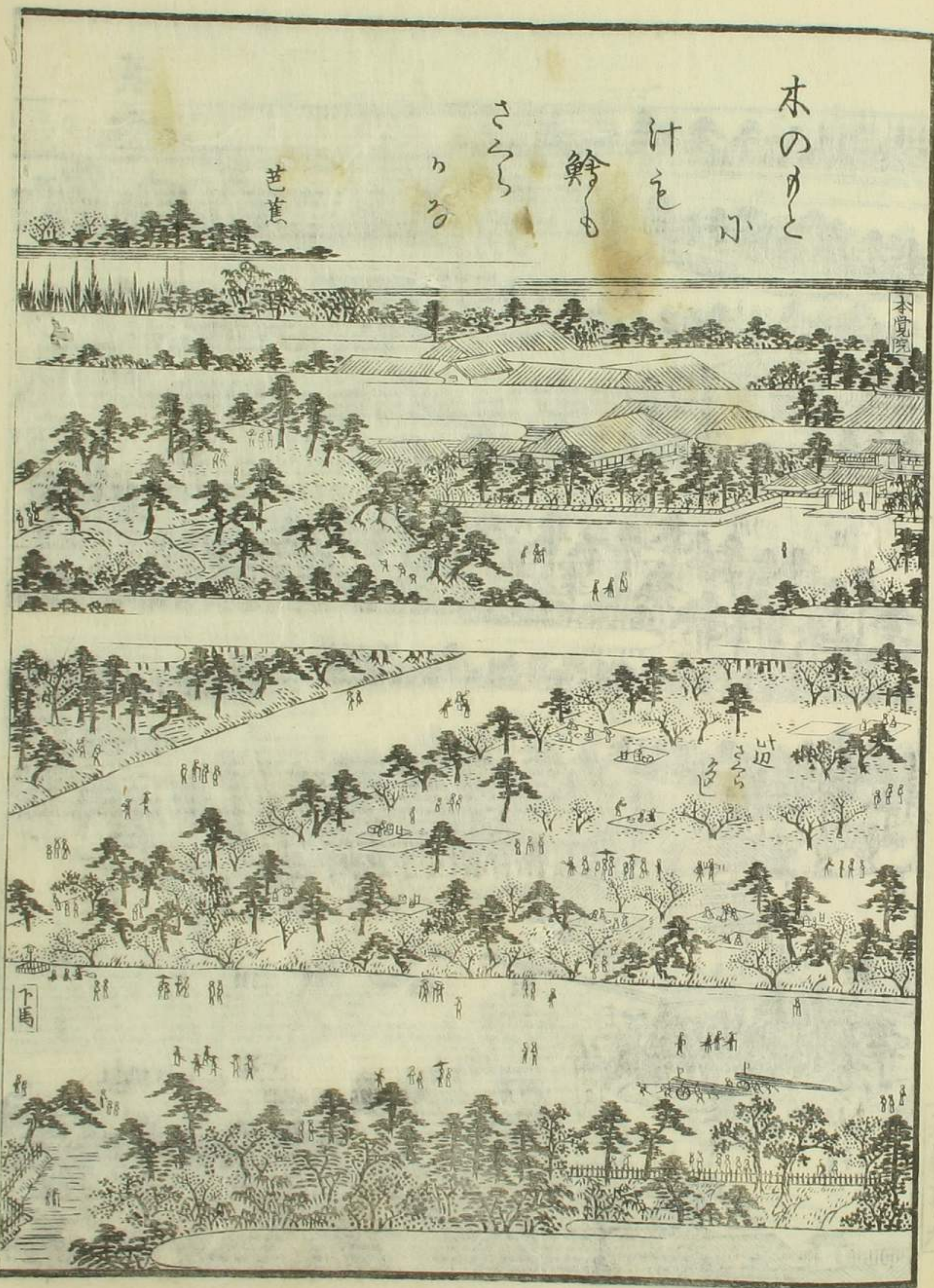
東廠山上陽春衣
 東廠山下背花歸
 回看終日酣歌處
 風起晚來爲雪飛



東廠山寛永寺
 橋ヶ峯
 山王社

山内橋樹多き中
 山も以てと橋ヶ峯
 と号しそむじ羅山
 先生裁ふあふるとし
 うそふあふるとし
 橋ヶ峯文集ふいそり





芭蕉

さくら
りる

汁色

木のりこ

本覚院

下馬

五ノ二十五



其二

清水観音堂
秋色

秋夕の清水堂の
御供所梅のうら
井のゆとらあり
花の一種として虎尾
と梅すりの是あり
中頃は府の商戸
何某の女秋夕と
いふりの花のころ
らふあり井戸の
の梅のふみ海
のといふ秀か
のり

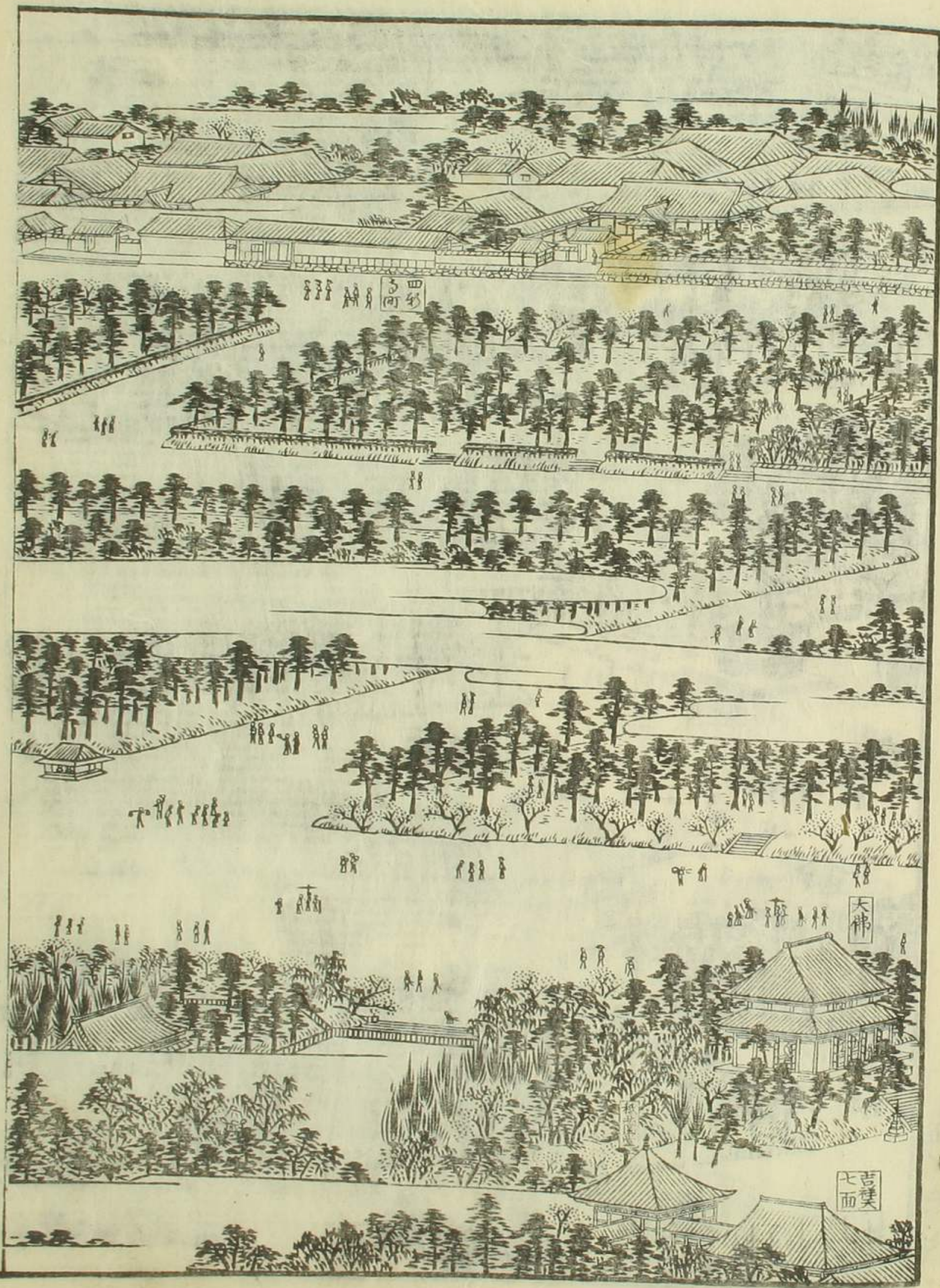
名つらと
るん

供不

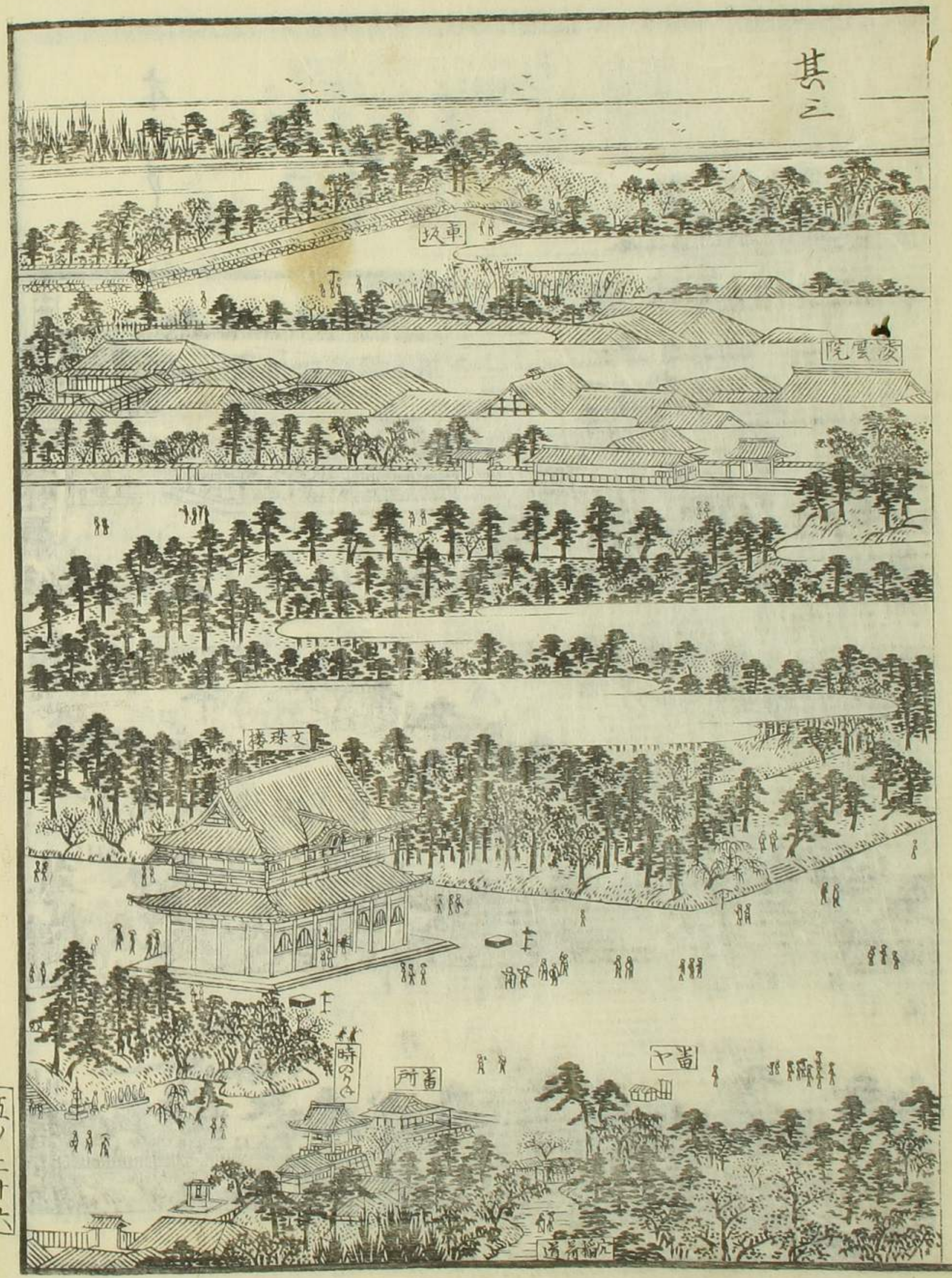
観音堂

秋色

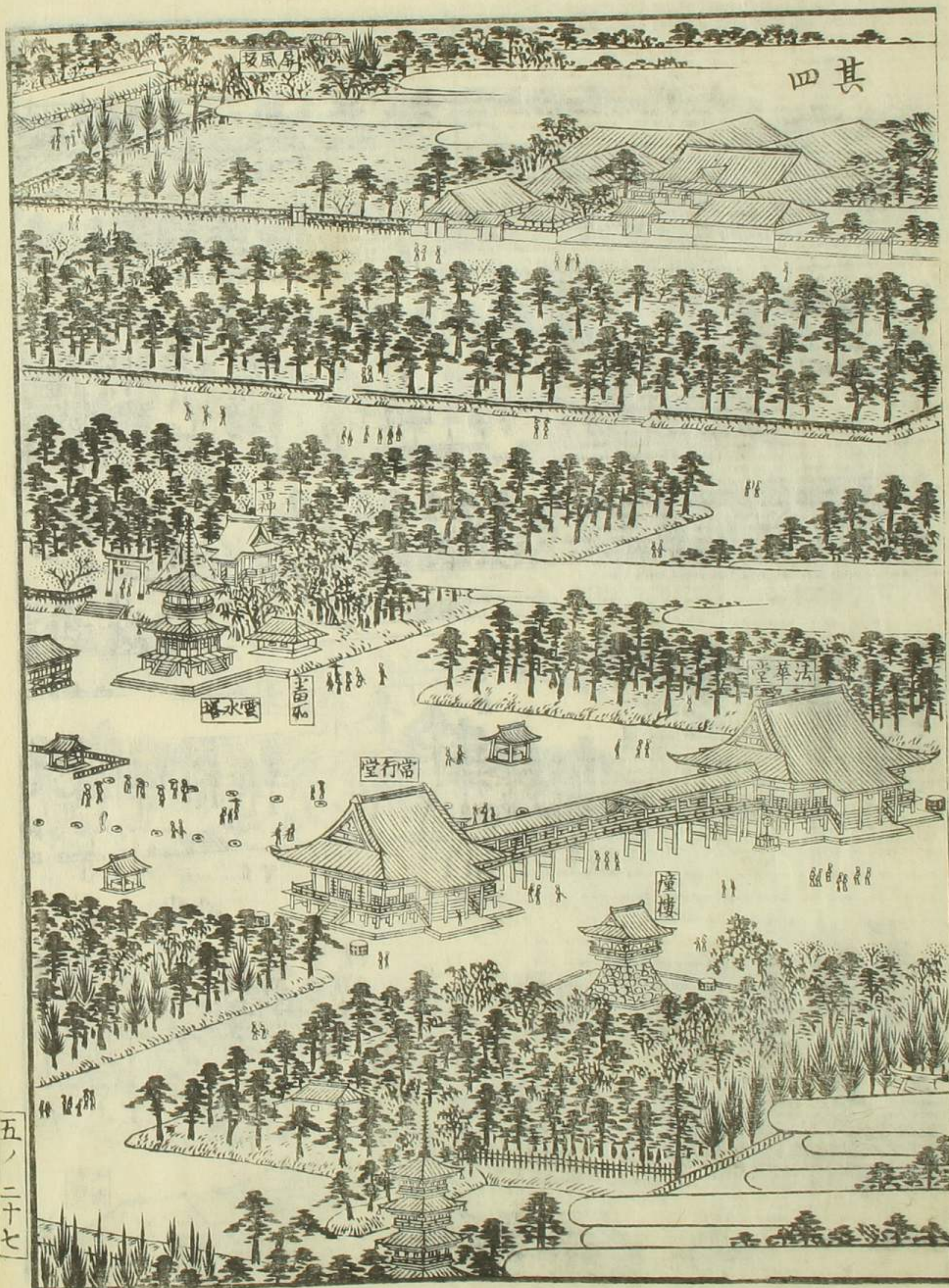
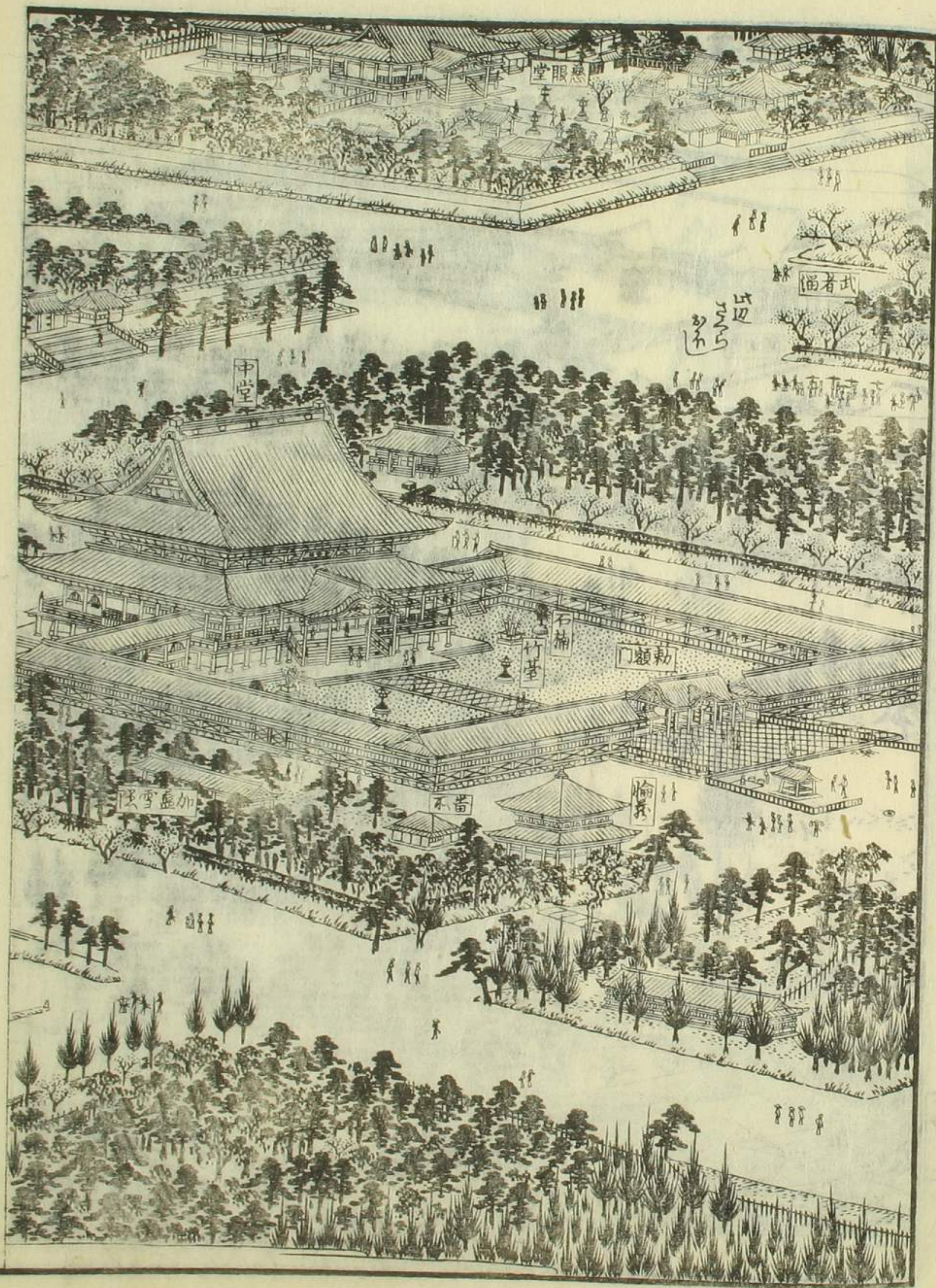
五ノ二十五

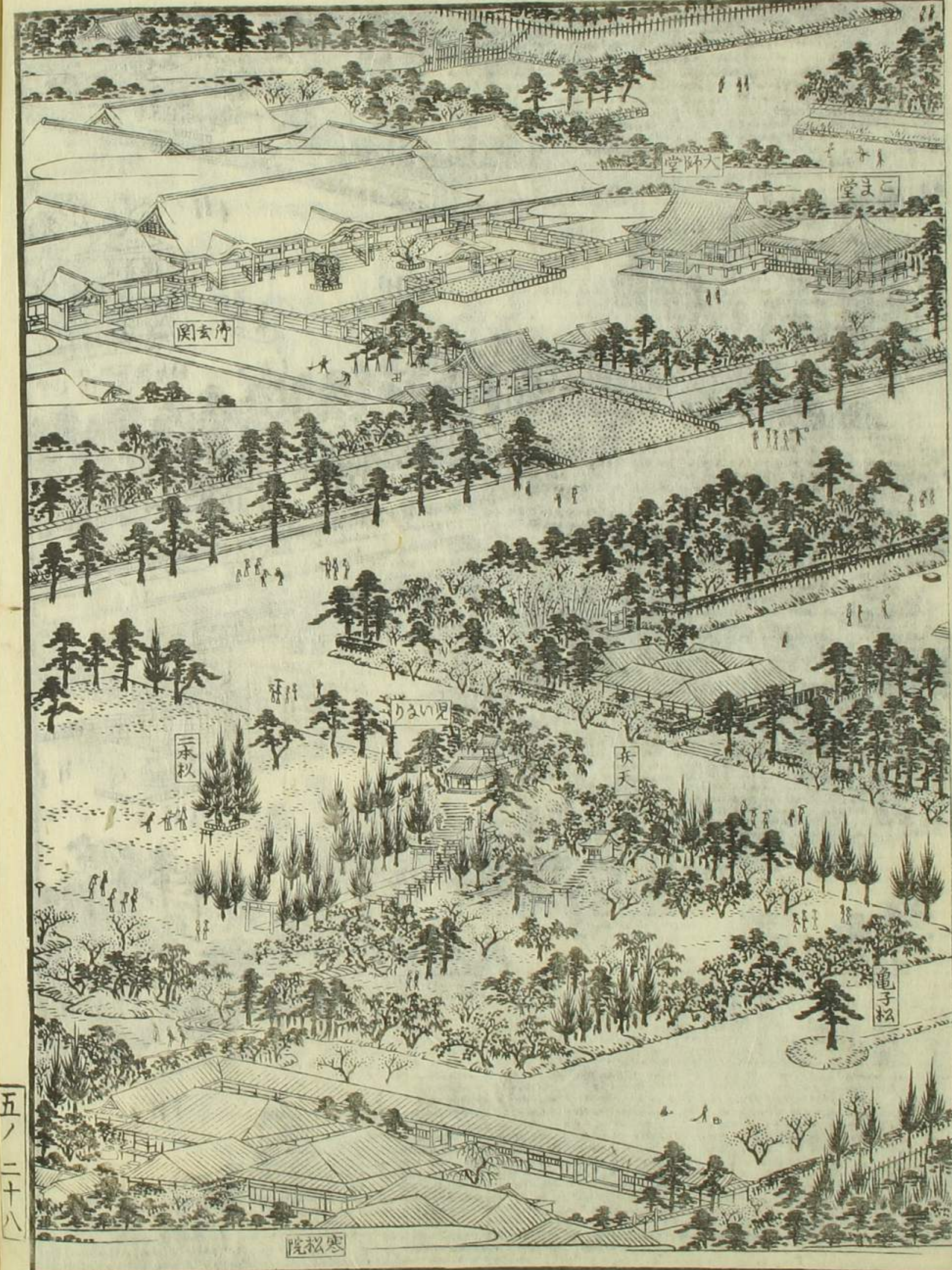
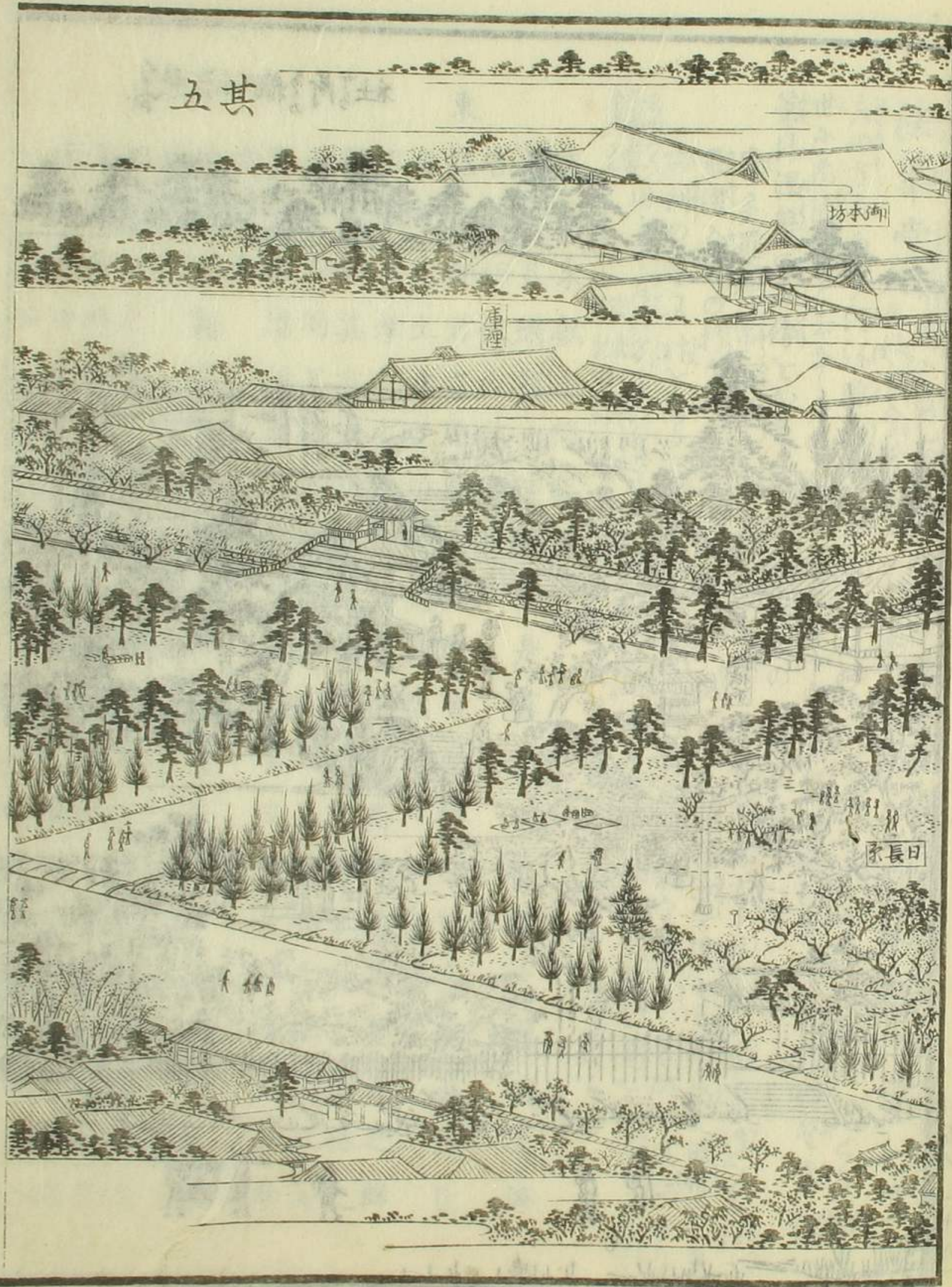


五ノ二十六

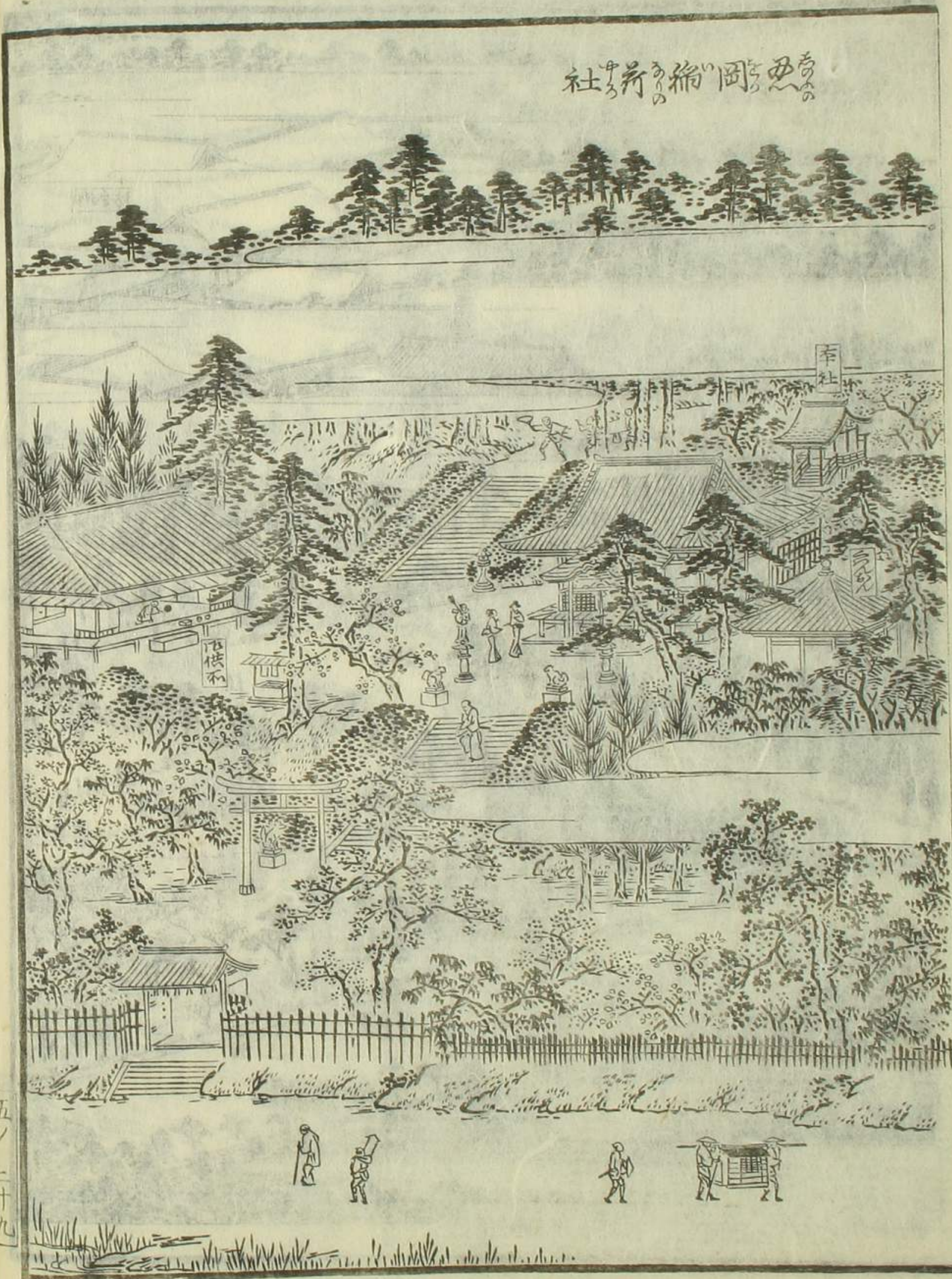


其三





社 芳 縮 岡 忍



法華堂

中堂の前後のありあり普賢菩薩を安んずる堂あり
 八日修會あり此の堂ハ修會の建ちたるなり
 友の方あり阿彌陀佛あり此の堂ハ修會の建ちたるなり
 世の修會の畫と云ふなり此の堂ハ修會の建ちたるなり
 筆は修會の畫と云ふなり此の堂ハ修會の建ちたるなり

鐘樓

摩多羅神常行堂の中ハ修會の建ちたるなり
 最澄大師の遺徳あり此の堂ハ修會の建ちたるなり
 鐘樓の建ちたるなり此の堂ハ修會の建ちたるなり
 鐘樓の建ちたるなり此の堂ハ修會の建ちたるなり
 鐘樓の建ちたるなり此の堂ハ修會の建ちたるなり

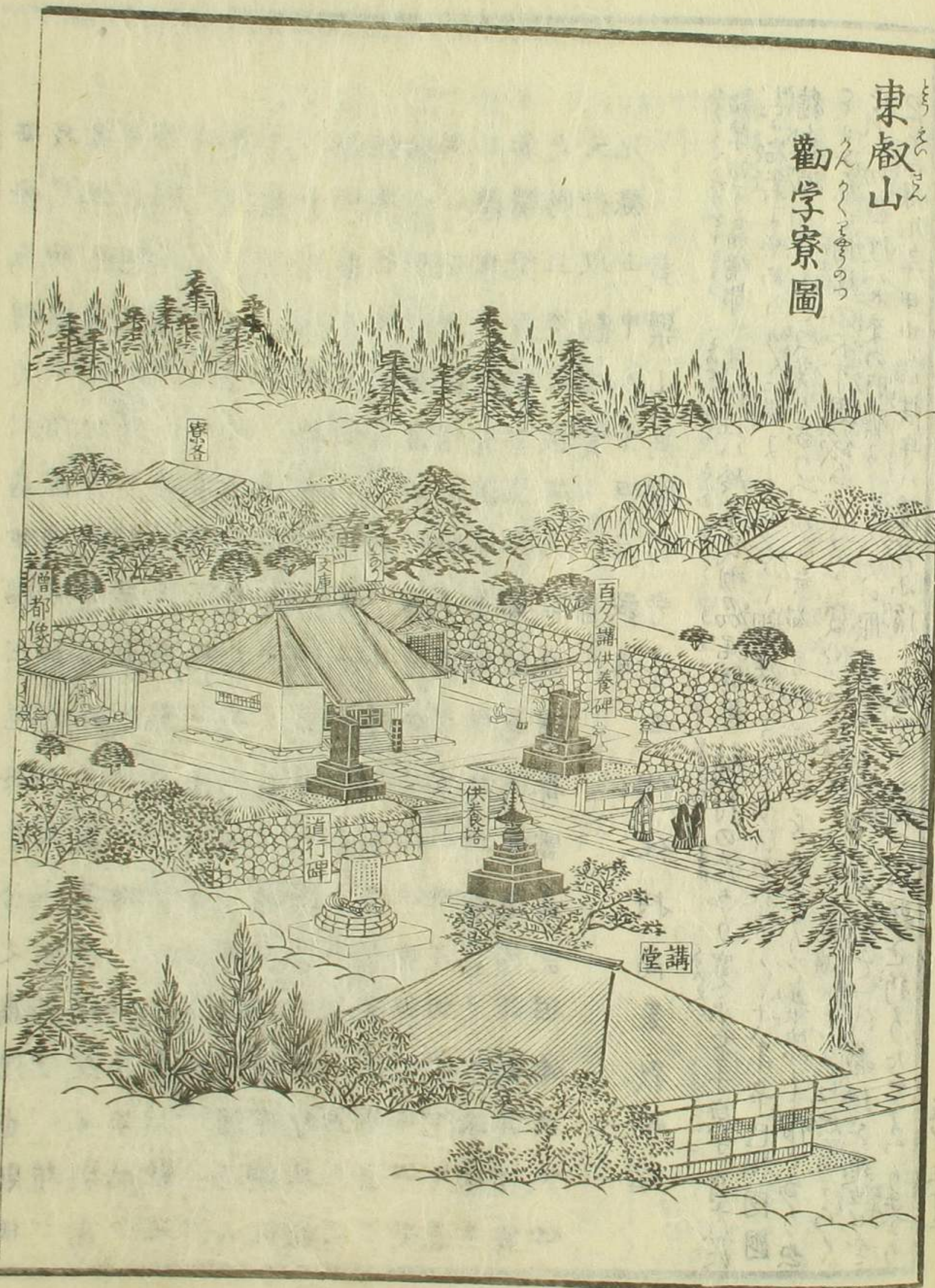
東

告官相良東
 照力成神相良東
 祖廟大成神相良東
 卿共繼大君以欲奉營境誠是靈區也
 濟々各其孝之木之原功屹馬巍然昭々
 寶池朝清同其志或本之舉世皆崇闔悉
 塔謹奉朝清同其志或本之舉世皆崇闔悉
 神意風霜有日瓦甍猶新如峙于空似涌自地然今
 爲奉祝之寶筭新鑄鳧鐘外圓而中樓伏顧心此丹忱
 相國公之寶筭新鑄鳧鐘外圓而中樓伏顧心此丹忱
 保其黃之寶筭新鑄鳧鐘外圓而中樓伏顧心此丹忱
 感應之理聲惟夫範圍之體妙外圓而中樓伏顧心此丹忱
 一應之理聲惟夫範圍之體妙外圓而中樓伏顧心此丹忱

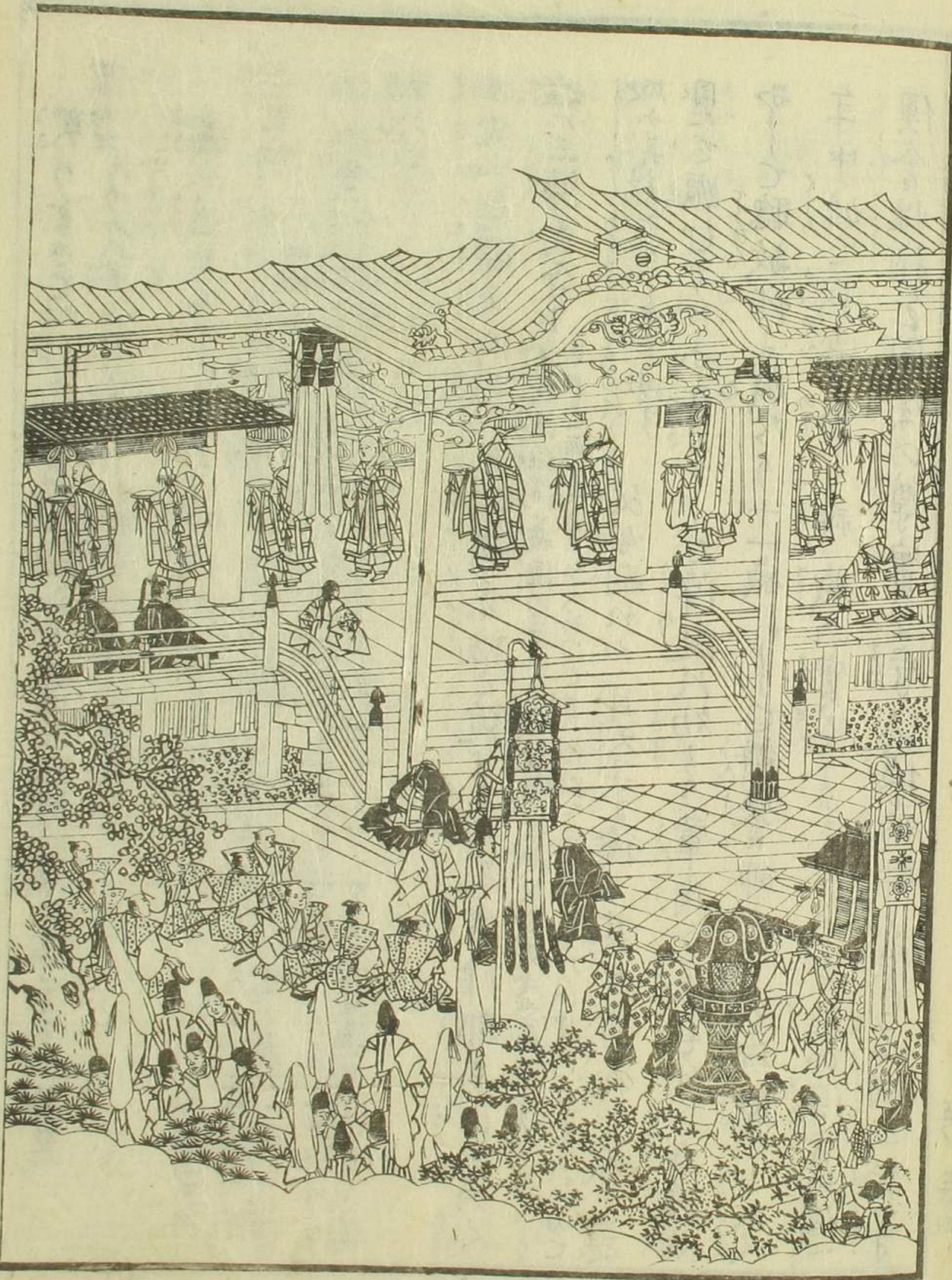
大

武州東叡山鐘銘并序
 江城良東叡山鐘銘并序
 告官相良東叡山鐘銘并序
 照力成神相良東叡山鐘銘并序
 祖廟大成神相良東叡山鐘銘并序
 卿共繼大君以欲奉營境誠是靈區也叡山大僧正天海
 濟々各其孝之木之原功屹馬巍然昭々如將益廣雇梓匠
 寶池朝清同其志或本之舉世皆崇闔悉此時貴戚之群
 塔謹奉朝清同其志或本之舉世皆崇闔悉此時貴戚之群
 神意風霜有日瓦甍猶新如峙于空似涌自地然今
 爲奉祝之寶筭新鑄鳧鐘外圓而中樓伏顧心此丹忱
 相國公之寶筭新鑄鳧鐘外圓而中樓伏顧心此丹忱
 保其黃之寶筭新鑄鳧鐘外圓而中樓伏顧心此丹忱
 感應之理聲惟夫範圍之體妙外圓而中樓伏顧心此丹忱
 一應之理聲惟夫範圍之體妙外圓而中樓伏顧心此丹忱

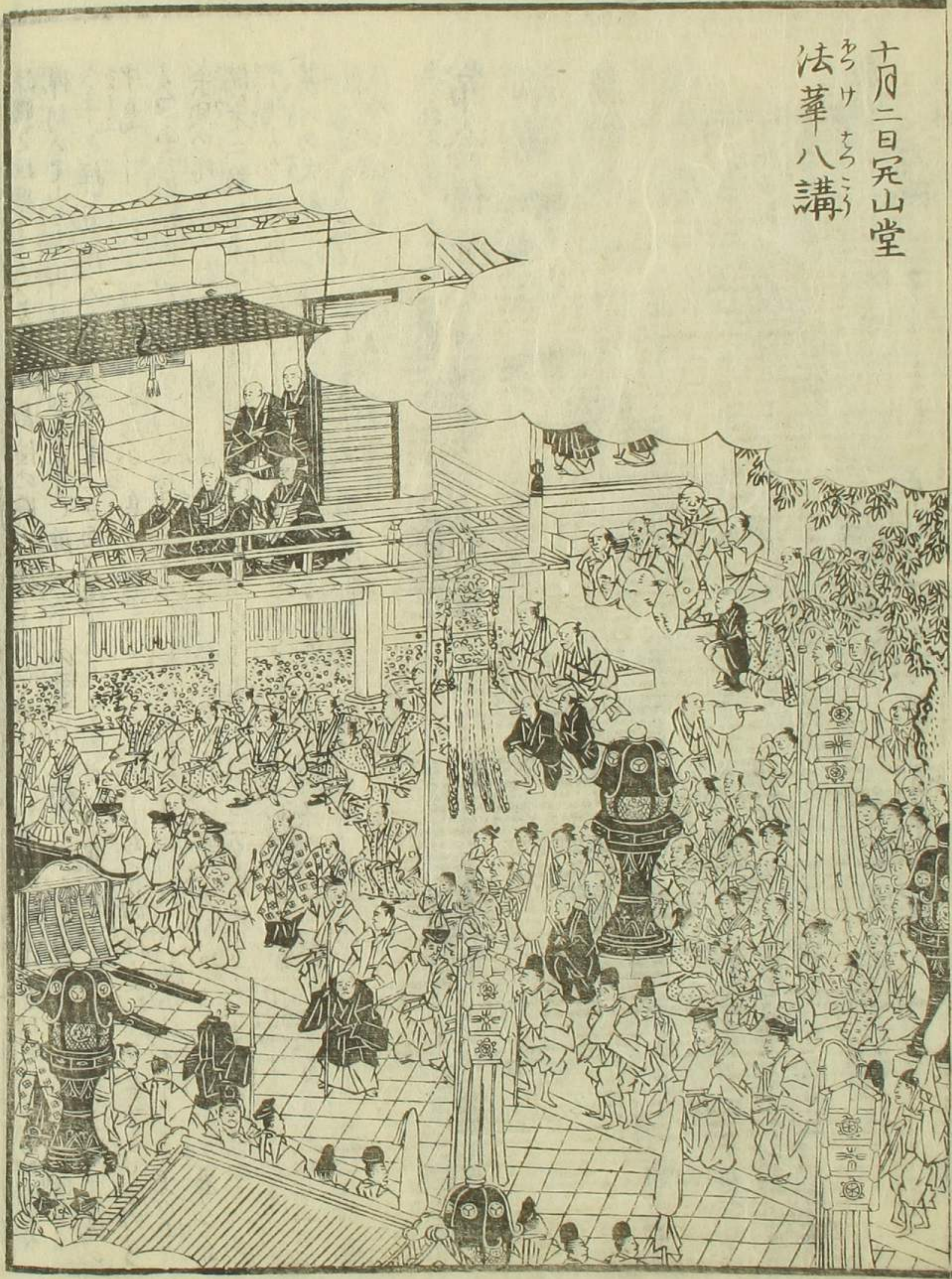
東叡山
勸学寮圖



三聖人の古銅像と数と屋上より極底に至るまで悉く銅葉をまわす包裏を其四方に石以
 疊く石大和尚あまの二親養父母をひま自得居士の石塔と造立傍に傍に石像
 あり同石壁の外小道の碑を建より文八黄檗の泉和尚これを撰き
 武州東叡山勸学寮講院了翁僧都道行碑記
 自古法中沙門播名而德於天下者豈苟然哉
 不皆是以菩薩乘願下人咸以論也若今東門都至真度莫
 萬行域此天妙行實未易以言也無上無等至真度莫
 聖之利翁僧妙行實未易以言也無上無等至真度莫
 講院了翁僧妙行實未易以言也無上無等至真度莫
 大行善僧妙行實未易以言也無上無等至真度莫
 親乘心行善僧妙行實未易以言也無上無等至真度莫
 以近憂唯開山隱老及不自失儀白為沙門都至真度莫
 盡己佛祖之憂山法乃大興於世而識僧食處宿不露能
 中築徑佛祖之憂山法乃大興於世而識僧食處宿不露能
 內奉三聖像乃明戒師祝公及自親徑銅葉古防火患正
 藏之後塔塚其右立如藏師之輩二有僧養父石像得居也
 本院僧云東九百八十人藏師之輩二有僧養父石像得居也
 示不講堂中西有文庫藏師之輩二有僧養父石像得居也
 別設一講堂中西有文庫藏師之輩二有僧養父石像得居也
 人聽者知聖中釋迦如來而二教本之書一矣其國又
 前有方丈三聖設四教雖少異而利善世則諸方學其
 子其有餘丈院之聖周有寮舍凡百間以栖諸方學其
 預其金一可安身學道無風雨之逼無凍之則憂身既
 不壞而衆可安身學道無風雨之逼無凍之則憂身既



十月二日兜山堂
あしけちん
法華八講



契りてさてたれは、まされしめくさよまのひの國の處のまごりえ 亮惠
圓雜記
まのふれ思とつる取つて松原のありけふうけよ

霜の後あらわれより時雨といふのひの思れねもひけ 通奥准后

二王門 明和九年の田原は真土とありて 額 東嶽山 大明院宮と辨法親王の筆

宍山堂 座主法親王の筆とありて 筆興まふけらるる 山の僧徒出法華八滿

修行あり

柳宍山慈眼大師諱へ天海南光坊と號す奥列會津郡高田郷の人

姓は三浦氏あり 是れ法住院義澄の子とも或は蘆名を修理ち丈盛高の一族ともいへり

父母嗣れく月天子は禱り其母奇花と香とま

母て娠むるさふ九月とて降誕は初より葷肉と食せず心清朗

少して聰敏化は然たり十一歳にして辨法師と投して祝髪一天之

年中始て嶽山に登り神藏の實全よまをえて台教の深き傳へ

俱舎性相と園珠の尊實は學ひ徳南都は往て法相三論等

の教法は學ひ成重といへるは達て神道の奥儀と定足利の學校

小遊ひて孔老の書を讀道器といへる小肩擗巖と學ふ後郷は歸り會津

の大寧禪師はあひて教外別傳の旨と發明善慈和尙小石巖

集と聽一百則の話頭と會得は其頃甲斐の信玄台教と敬ひ

あゝ時諸師と請いて論義せしり天海と講ますと衆皆辞理の奇れと

感移はといふ是よりして名と朝野は志らる後常列江戸崎不動院は

住す時小文祿二年夏大は早民りれて師として請雨の法と修

せし其時神女あつて五銛杵と授く師高田浦の深淵に臨むて

法と修しめは膏雨勿念注て百穀大に登る彼五銛杵今猶ほて 又慶長

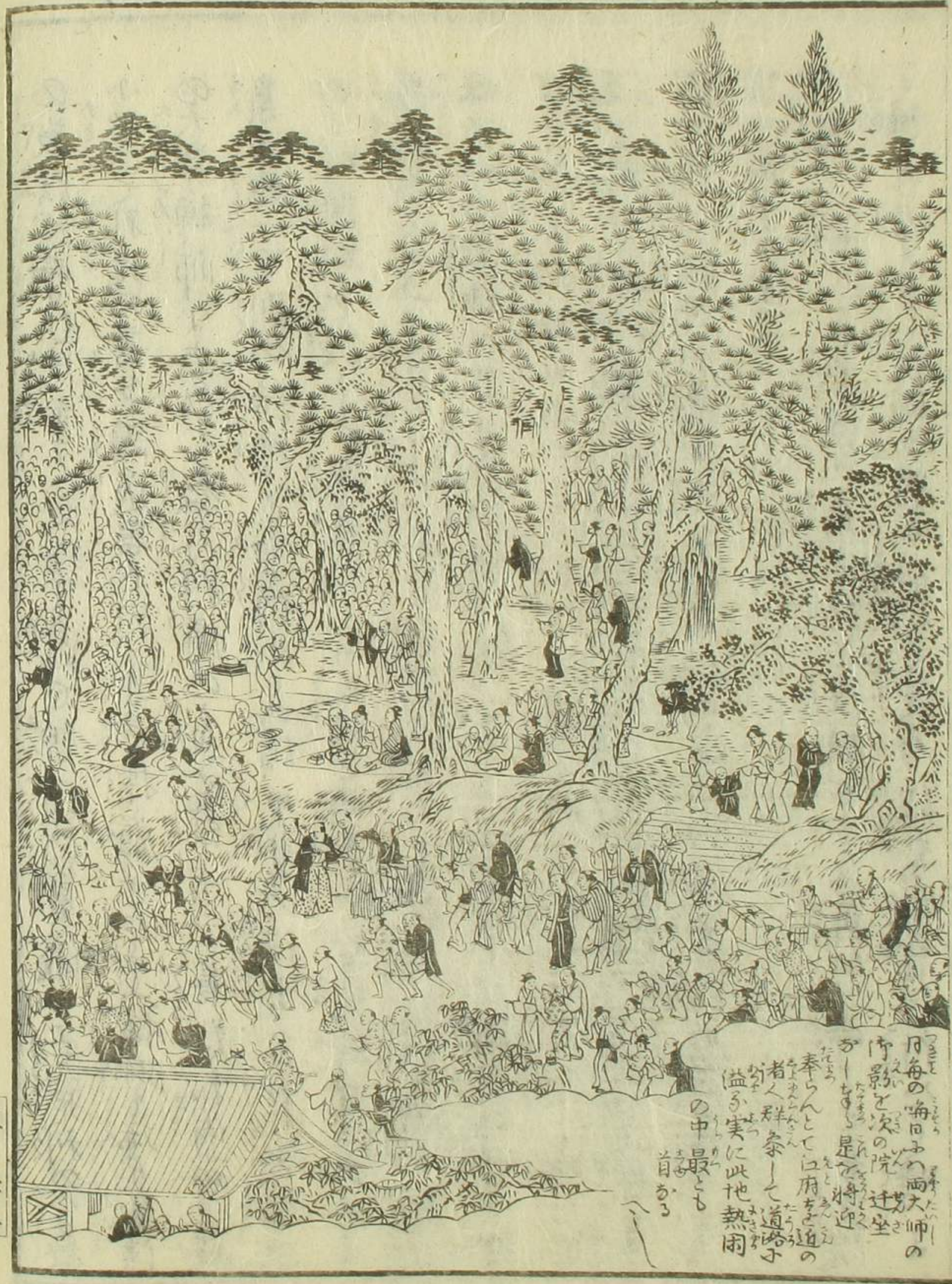
四年武田仙波の喜多院に住す同八年下野國長沼の宗光寺に

移る同十二年 命して嶽岳の南光坊に住持せしり再命して喜多院

神君 命して嶽岳の南光坊に住持せしり再命して喜多院

に歸り居らむ同十四年山門に登り法華大會を行はく時よ

座遷師大両



月毎の海内の大師の
 行影と次の院遷座
 かしき星を將迎
 奉らんとては府を道の
 者人群衆して道沿子
 溢る實に此地熱雨
 の中最も
 自ある



重職の勅許を蒙り新題者の精義嚴重なげとわめり
上皇 後陽成院 度々召ありて法要を詔問したるひ美對詳明あふよ
依て處感儀くく権僧正は權られ御まのく津衣燕尾等を賜ひ
少科の昆沙門堂の門室に附せらるる又震翰を下したるひ權を轉して正
小任す同十七年

神君河越に狩したる折くく仙波に立寄せたるひて殿堂を修營せり
わ莊園と寄させたる同十八年復命を兼りて日光山に居る

神君 薨玄れ後其遺命を奉りて葬を之終少に營り元和三年尊
靈以日光山に遷坐せり奉る是往古の大職冠の例は倣ふ則少王

習合の神に鎮たてたり勅を奉りて
東照大権現と號し奉る 大樹 台徳公 亦神君よとせたるひ
優寵したるひ其先元和二年大僧正に任せられ 先帝 正親町院

二十五の御遠忌にも津導師に請したるひ后後寛永二年

大樹 大猷公 命して東叡山と稱しし師として厩山とす又上皇の
二宮と 守證親王 日光山の津門主と請せせり師の津子よ彼は

たす其後上野國新田庄世良田山長樂寺を賜ひ
東照大権現の神祠以下の諸堂と遠立あり亦同く二十年の秋

僧正微疾と示す時は 大樹 大猷公 とよひ紀の曲相 頼宣公 駕と
屈し疾と向たり僧正遂に遺語五則を書け 大樹書三探函に命し

たすひて其頂相と写さしむ一日唯識論と関ひ忽し文殊菩薩の來
現を見る則其時至ると志り端座合掌して遷化す時は寛永二十年

十月二日をり 東國高僧傳に實永十九年十月二日化寂とあり 紫雲天花の端
あり影堂と當山をひひ日光天台の三山に建る當少慈眼堂共あり

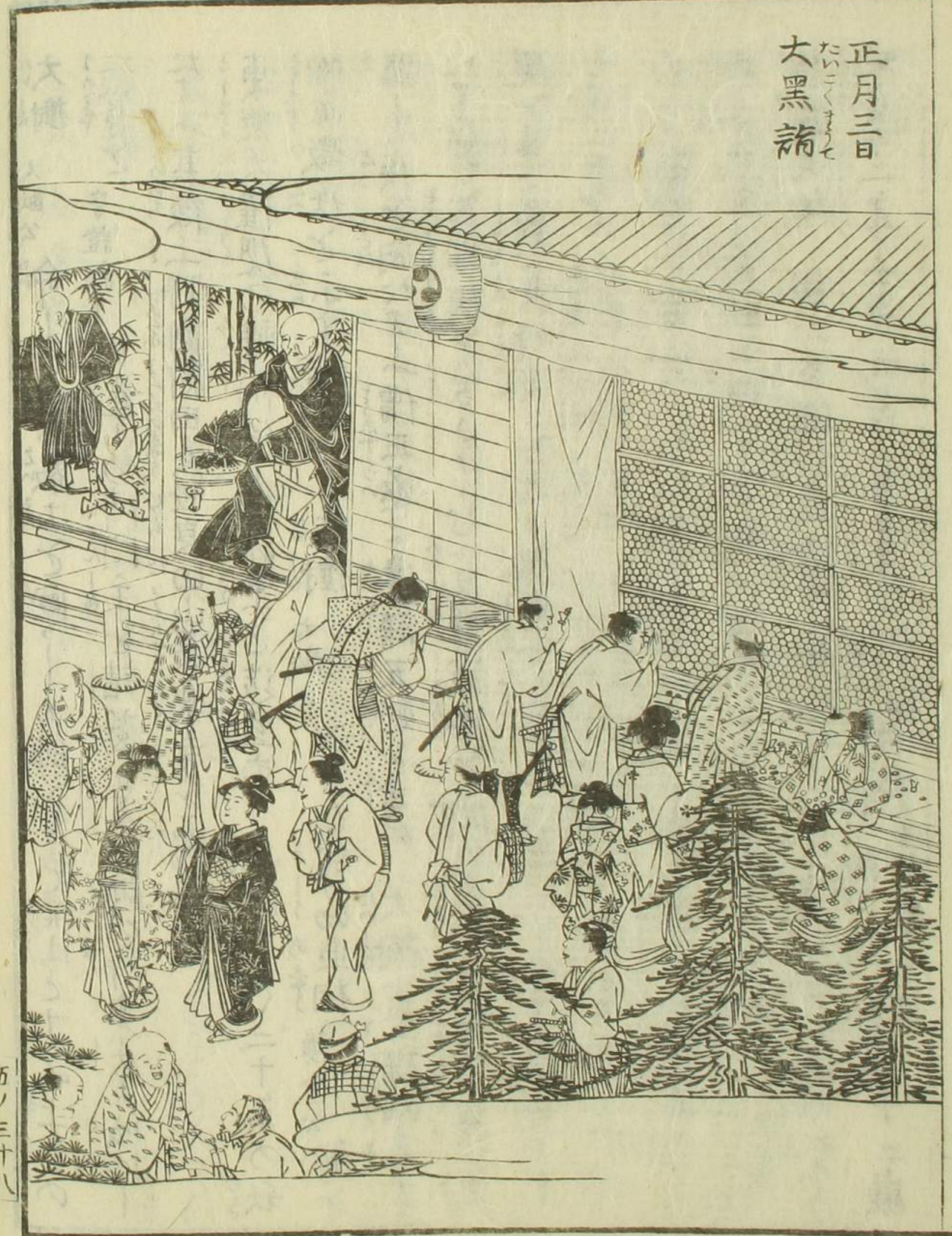
慶安元年慈眼大師と謚號の詔勅を下したるひ 以上兩大師縁起とよひ東
慈惠大師 諱ハ良源江の浅井郡の人父ハ本津氏母ハ物部氏あり

延喜十二年壬申九月三日よ生る 父母は多と爲る觀音にありて諱る 十二歳
之に觀音九とをほくとあり

毎歳正月三日、都下の
 諸人、東叡山護國院の
 大黒天（すくも）此作影
 左、信實筆き、
 世々靈驗著し、此日供物
 の饅頭と湯ふひたりて
 衆僧の華ふあま俗
 是とめて、幸福の
 湯と
 子



正月三日
 大黒詣
 たいこくまうて



といのろと多年よりありたり也今老病をうほそくを了す
 心も捨てたまふるとて世もひてけりか

我が身世ふあらん後のまよともいのるふいと母れとも思ふ 栄雅

慈眼大師真影 狩野探幽筆

慈眼大師の真影は慈恵大師の影像と共に當山院々頃書きて一箇月ほど執筆
 以年この十月の御本坊に遷坐あり

大悲藏 慈眼大師の龕のまに安坐し諸人を凶禍福とト云ふと指しことり
 佛祖 統紀曰 大士 籤天竺百籤 越圓通百三十籤

以支 吉凶 其應如響 相傳是 大士 化身所述云云

柳當山江戸第一の橋花の名勝ありて山花はあふくと云ふあり

台命よりて和州吉野山の地勢と摸し植せらるる故ふ花は速
 あり遅ありて山上山下盛たりたり弥生の花蓋より都鄙の老若貴

とれく賤とれく日毎花と連てては群遊し花のまぢみ尺寸の地を
 争ふて帷幕以張延席と設く詩歌管絃ハ鶯聲み和し錦衣繡裳ハ

花影映し愛及賞咏日の暮と志らる

慈雲山瑞林寺 上野清水門の外武三丁北の方あり日蓮宗よりて

螢澤

谷中宗林寺の境内
 あり又冊林寺の
 傍にも螢澤と号す
 此辺雲の光り
 作又勝れそり

草地紫と

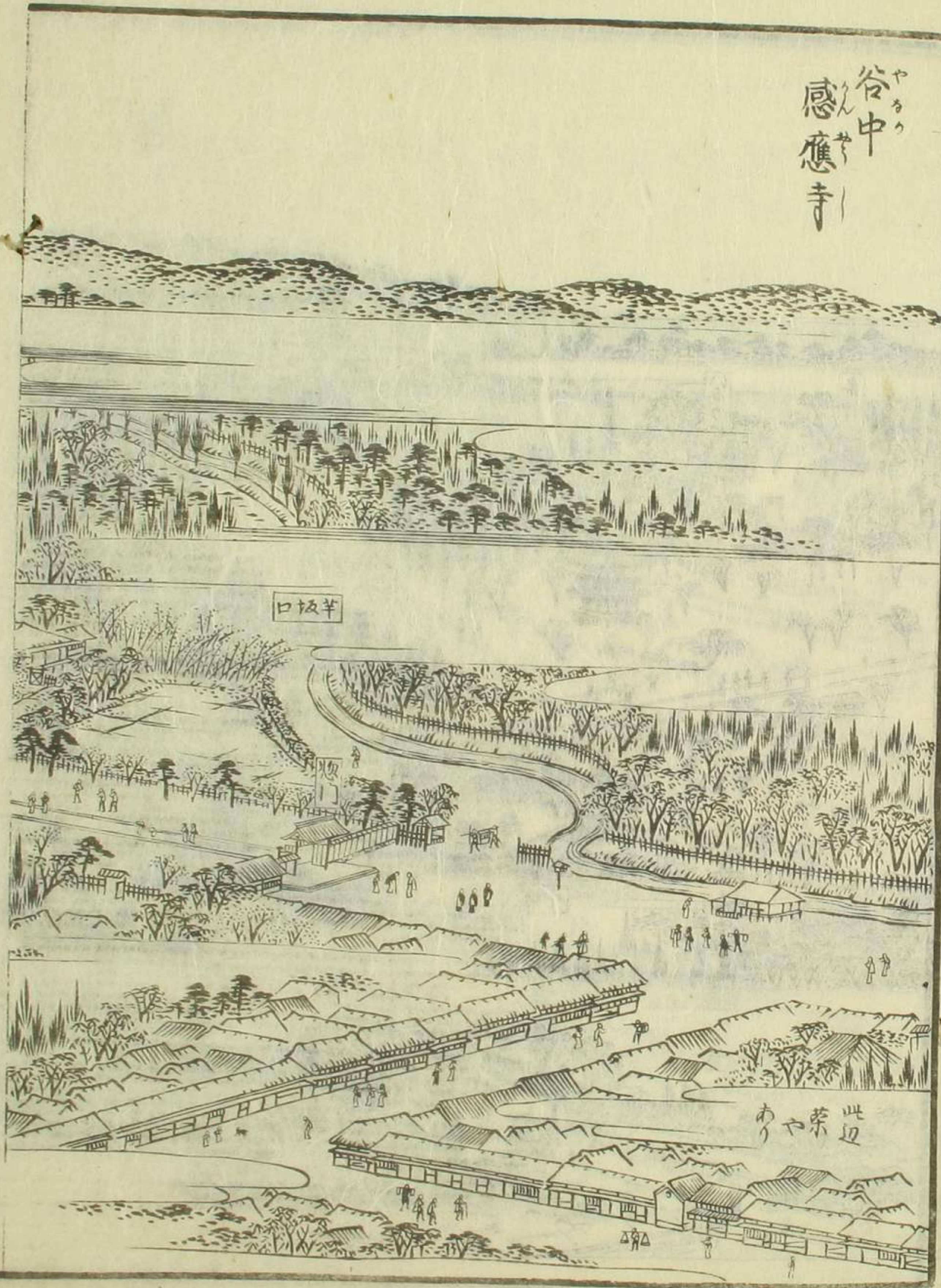
落る

花

芭蕉

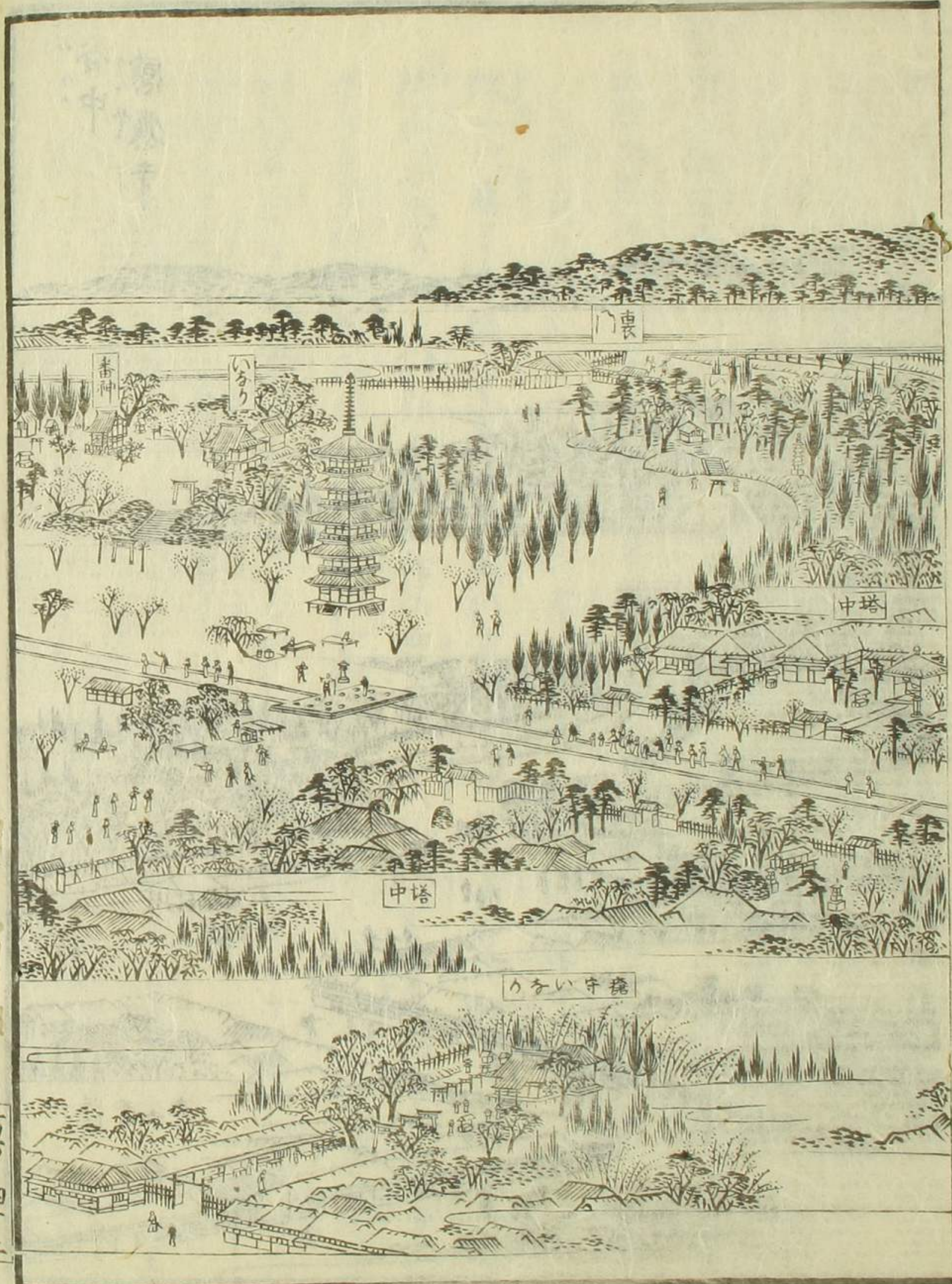
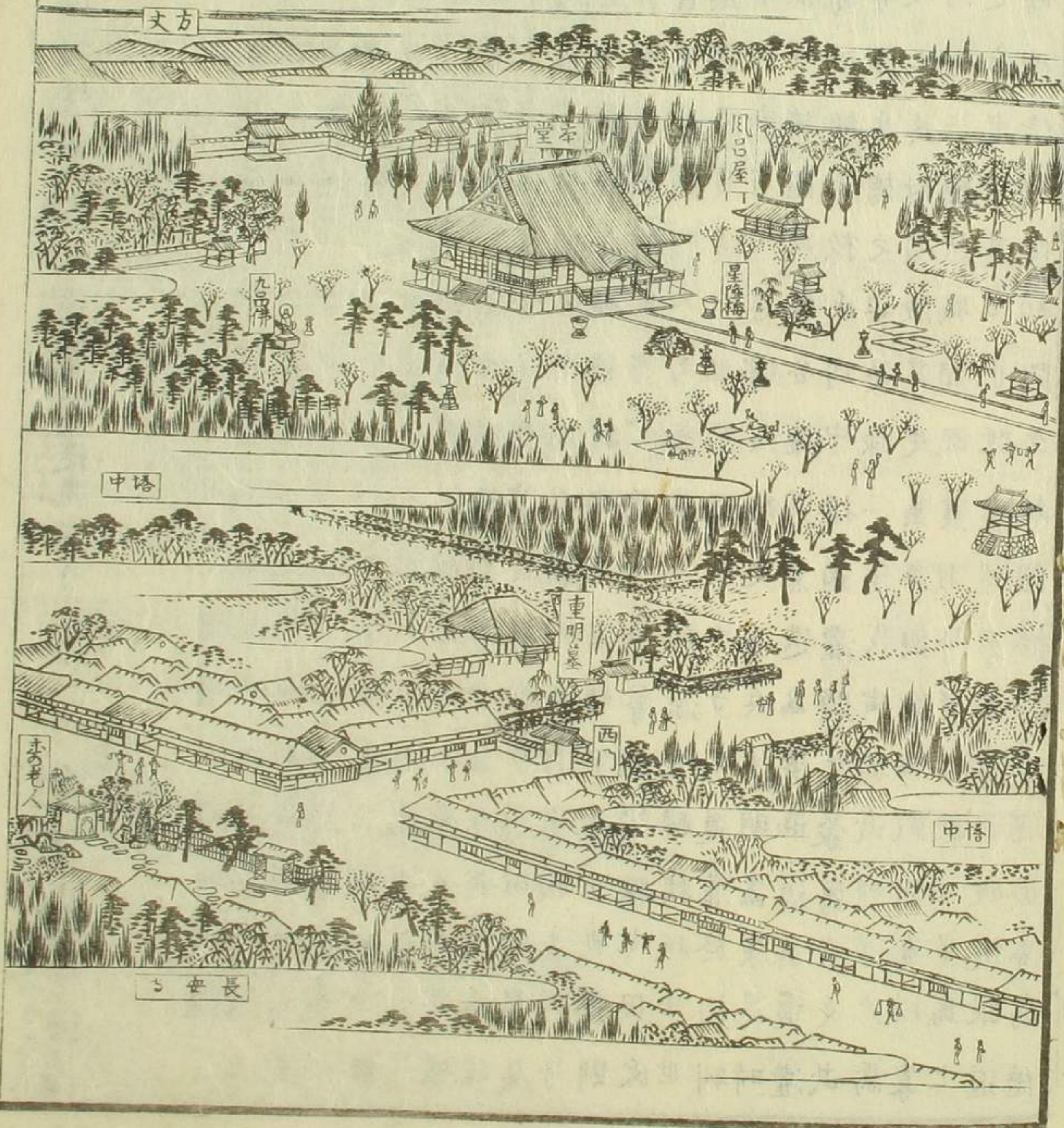


谷中
感應寺

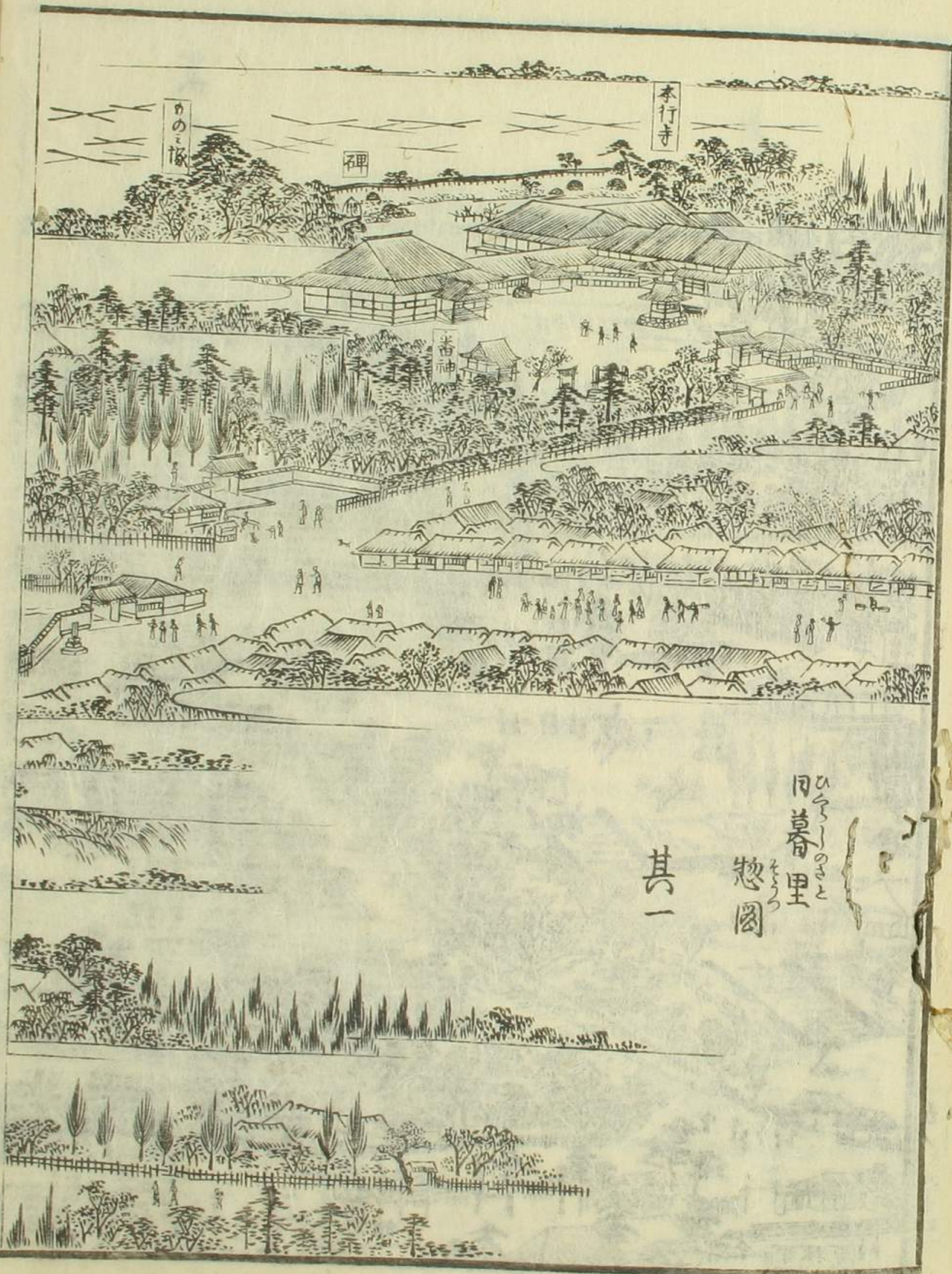


甲子身延山の觸頭江戸三箇寺の一あり元山八山十七世慈雲院日新上人
 天正十九年れ草創なり奉尊丈六の釋迦如来ハ延宝五年れ田原平
 ろひて今傳首と有り存せり
 當寺は安土に日蓮丈六の像ハひり同不舎中
 感應寺ありと彼寺政宗のときより移り
 長耀山感應寺 上野谷中門の外あり天台宗より奉尊ハ傳教大師
 の作の毘沙門天と安置ハ當寺始ハ日蓮宗より宗祖上人と元山と日長
 上人中興ありて中々補一宗の寺院なり元禄年中故ありて台宗に
 改られ爾より後東叡山は属ハ其時大明院宮の清願よりて叡山
 横川小あり傳教大師の作の毘沙門天の像とこみ移り奉尊と
 せらる京師鞍馬山の毘沙門堂ハ比叡の乾久當りて佛法守護の道場を
 れハ當寺も東叡山の乾久當りて鞍馬寺は比せらるといり境内
 榎枕の二花ありて春時燦爛をり
 五層塔始當寺中興日長上人建立あり一々明和九年の火災ハ焦土とされり仍て
 寛政の今再建してひり一は後せり
 長久山奉行寺 同取小の通あり日蓮宗より元山八日玄上人六永

其二



五ノ四十二



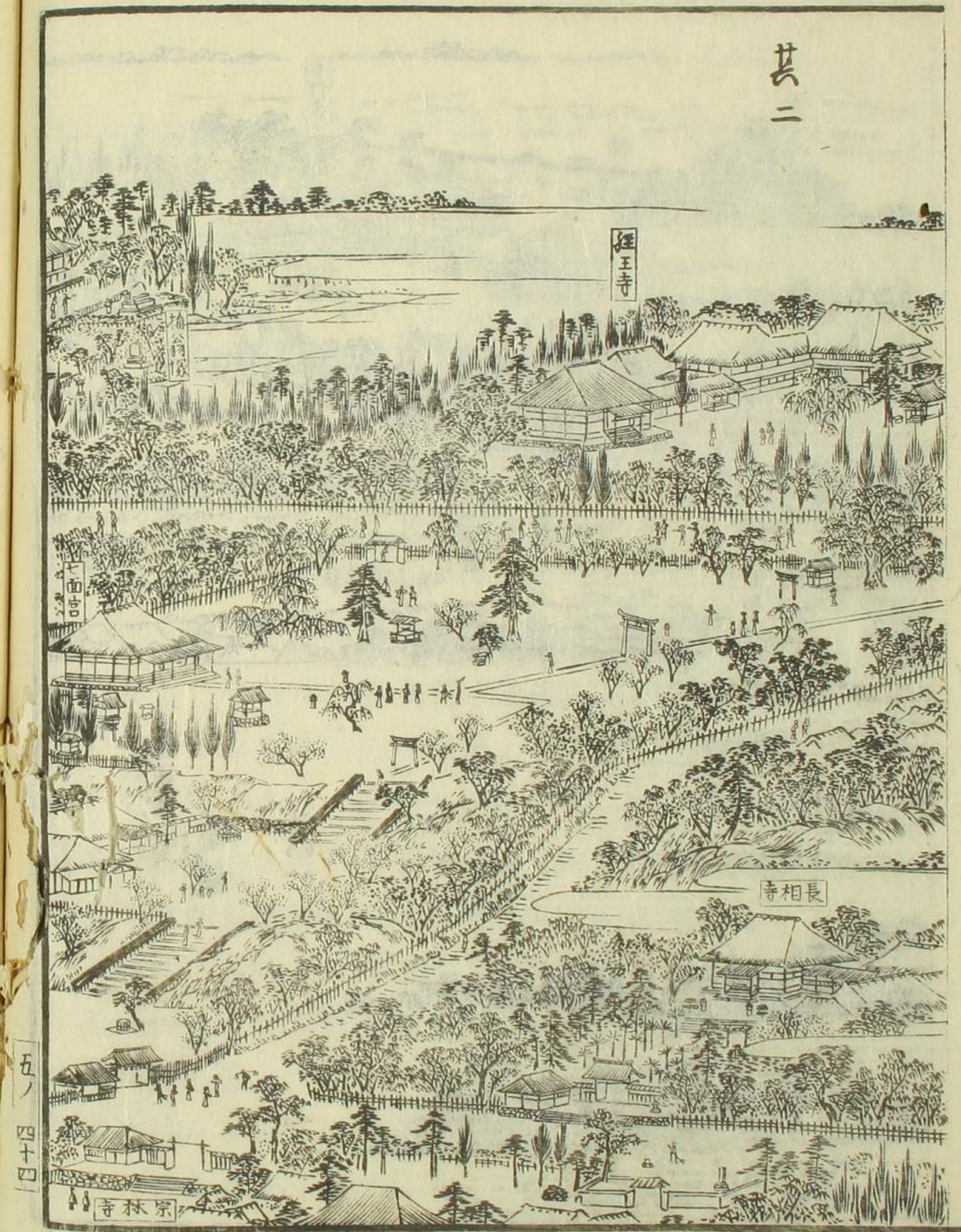
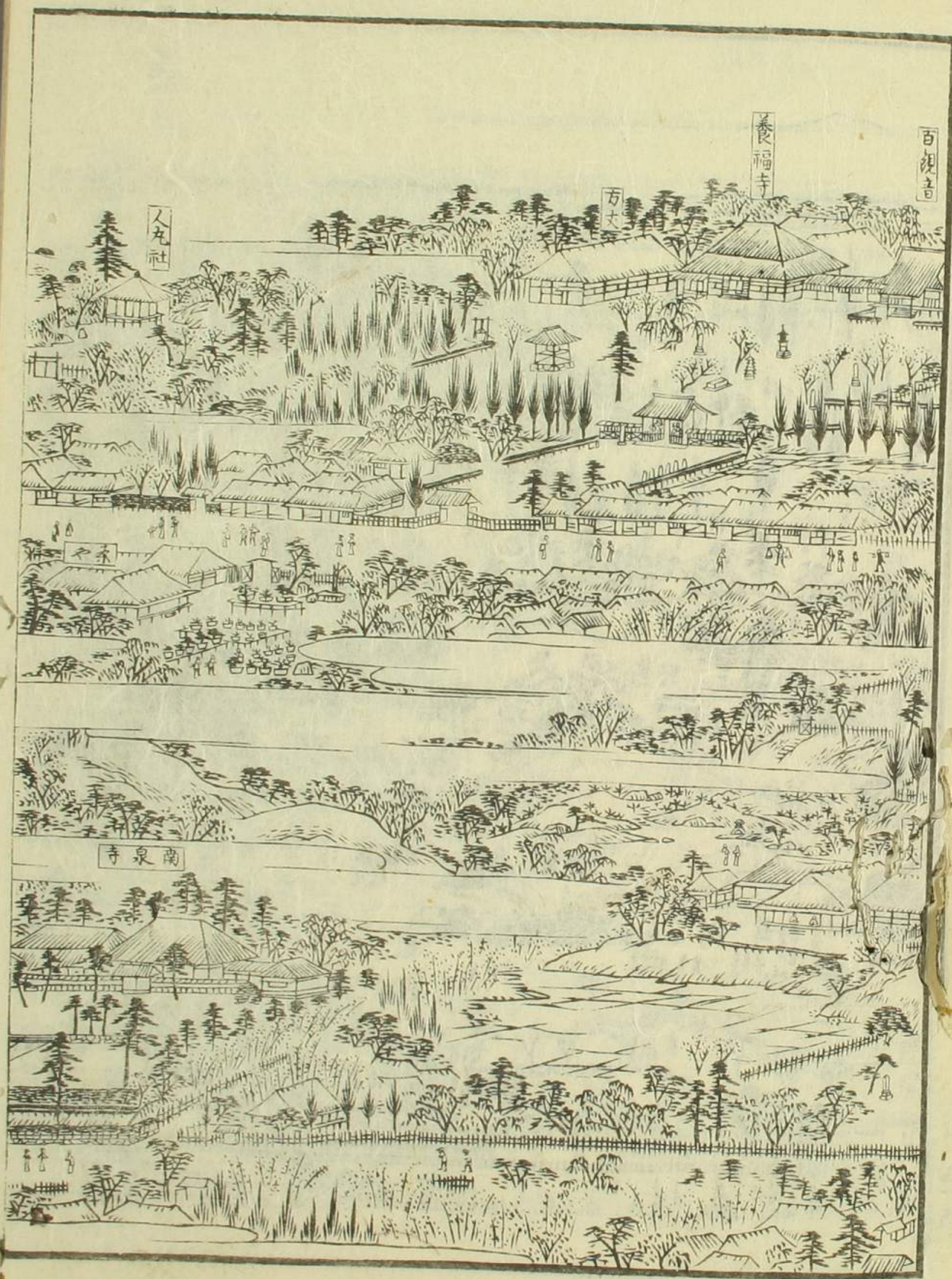
其一

惣圖

同暮里

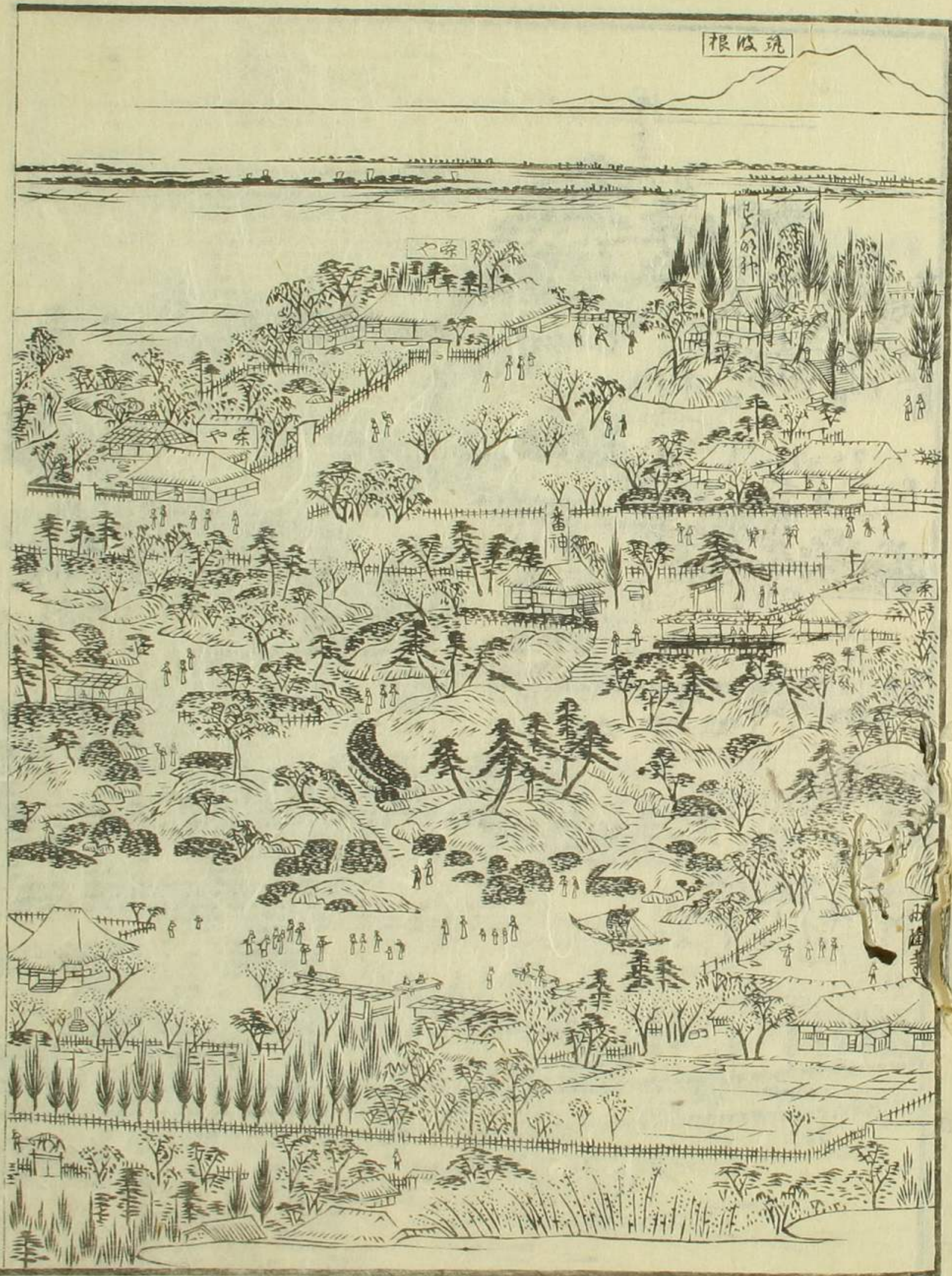
灌杖勝而之二天扇孫名得其攝丘盡百丘則思奚里道
 增氏衆鎮材世下谷父持斯祀之與爲有唯太太名曰灌
 脩之兩之專屬戰女道資丘也所山木餘址田田道日丘
 德有毛正季管爭恢真官蓋寺在皆黍年早氏保無太寺文
 信者二其兵領諸郭名左不與而用閔于有之郭忘其惠之行
 以皆總封撥上國有資衛畿群道其壘矣相自遺也疏在
 懷其諸壇之枚瓜大清門得屏灌號壞矣地傳里而也疏在
 初力城險要氏裂志以大矣攝之名臺相自遺也疏在
 附也聞其長府各博永夫可遷曾矣地傳里而也疏在
 至既風走祿中據滋亨道不於孫寺彷彿昔人丘寺乎東
 敵而震集二推其經四灌謂斯今舊徨太之乃西里都
 國列帽每年道黨史年其奇里懸在不田思其北人郭
 諸界降與戊灌迭善士疏也者河谷忍氏太斥有思北筑
 將寧者鄰寅贍爲兵子源替緜侯中去既田候山太寺波
 皆肅不國城智脣汰生光諸室世太丘里也之曰氏丘石
 謂百絕戰武豪齒明道畫灌頓牒中相田其人自址道也曰正
 彼姓大利列邁道畫灌頓牒中相田其人自址道也曰正
 專悅半在江有眞道是相十田遷以羣焉其丘故墟二無山奚丘
 爲服爲以尸文道是相十田遷以羣焉其丘故墟二無山奚丘
 德道上暮焉武灌時列世氏則守屏故墟二無山奚丘

六年且草創以往古八古田道灌の建ちありといひり當寺庭中道灌
 存候塚と称すものあり

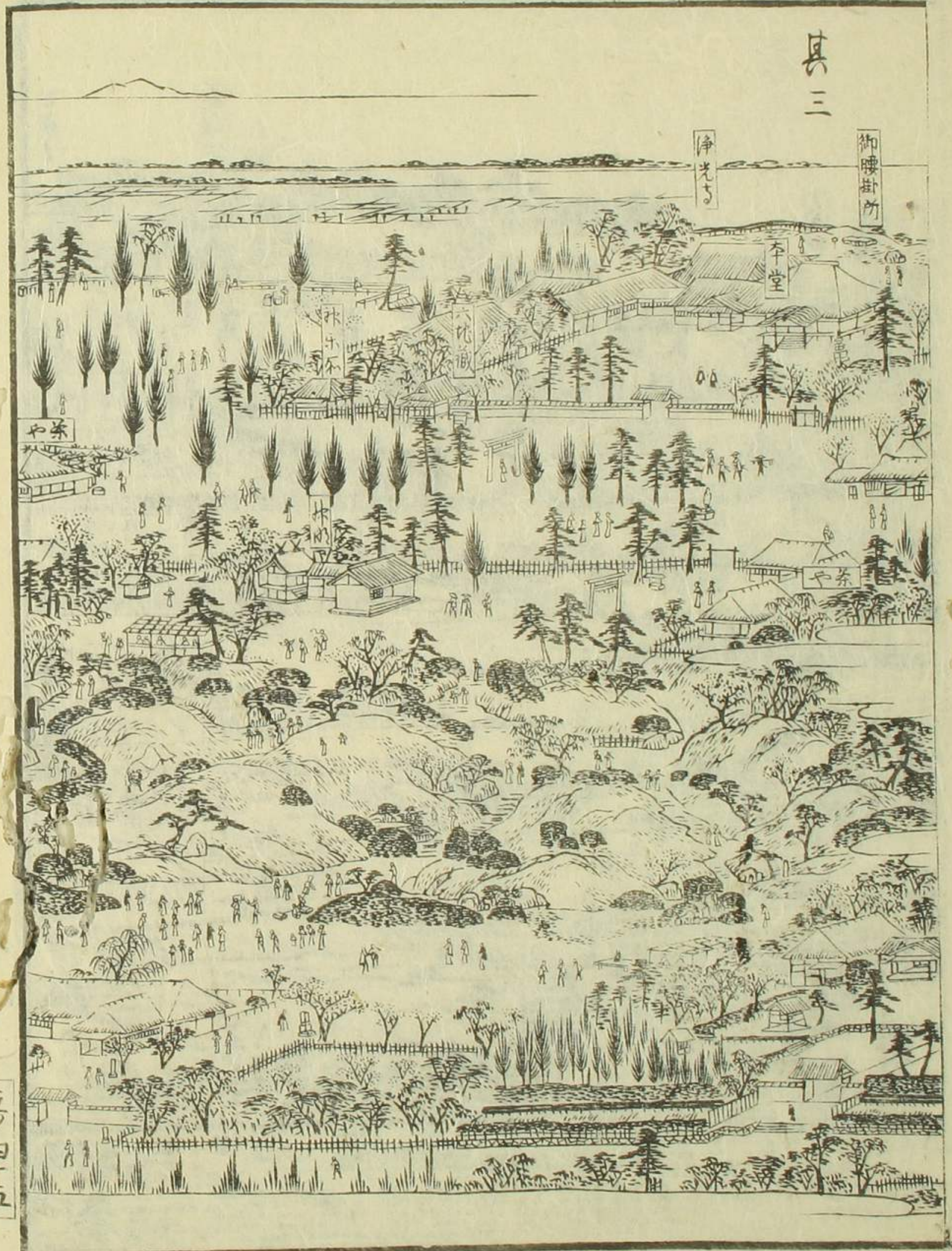


其二

五ノ四十四



根成院



其三

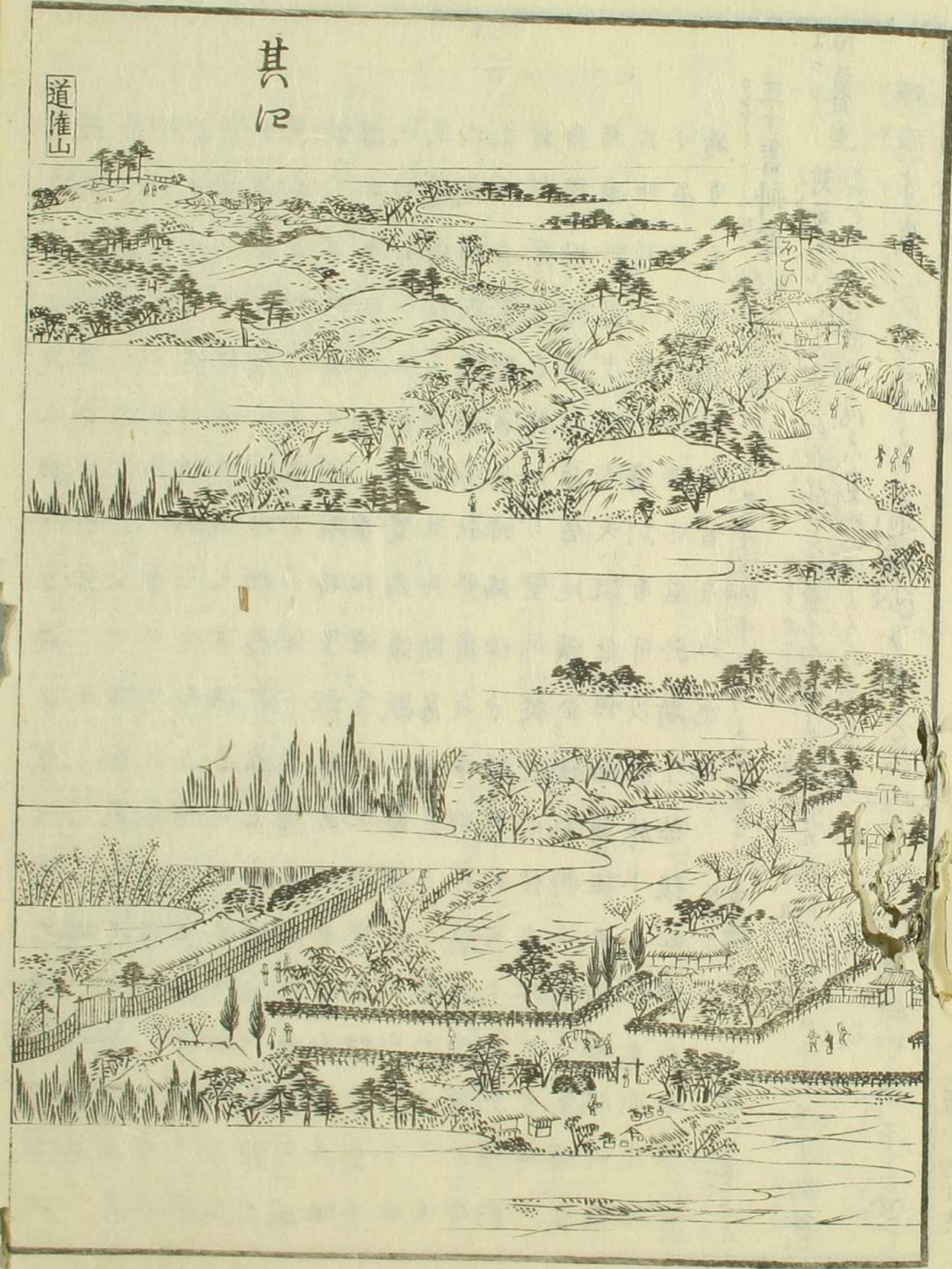
浄光寺

御腰掛所

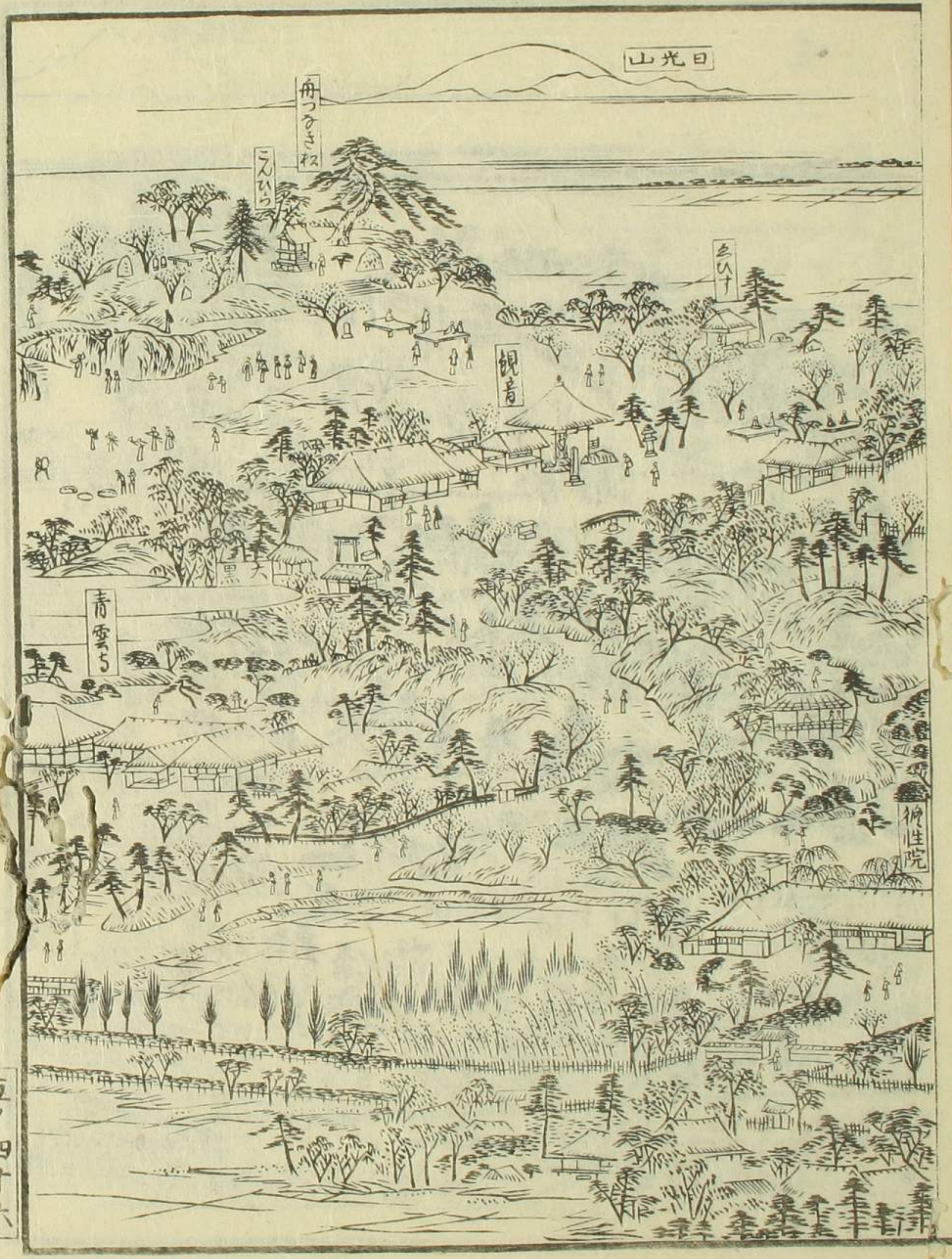
五ノ四十五

道権山

其の二



日光山



五ノ四十六

我專為暴是不戰而自服也寬正中道灌御京一人
采道灌所詠國風今御世所傳稱其人賜而歌
章也以褒揚之迄于今世僧上忠與懸河夫古屋
知長四宮成煥圖樹石于丘人思羊事石乎不
昔灌之德及武人亦無忌其惠丘之址焉以諸後
然何至斯里之叔子成無子其襄陽百姓於平生
世也吾聞之羊叔子成無子其襄陽百姓於平生
想之所建廟立碑歲時享祀望其孫資始稟茅土
灌公者異於此萬石寔為顯公又四世君大夫
之封食邑五萬石寔為顯公又四世君大夫
以歲時朝東奕葉昌阜齊肅分隊戎馬登斯嶺
白羽若朝觀當其時禱司徒勒各慎其守燧士
發爾踊躍用兵乃皆延頸企踵以待侯之舉燧
焉爾於是乎君大夫皆延頸企踵以待侯之舉燧
其四竟完其守備訓有司以義施小民以惠而昭
令名以示其子孫無亦監於斯乎然里人其昭
焉寺主碑其丘焉皆由也夫然後知里人其昭
三十番神堂 奉堂のちのあり昔道灌城中平川に安置せし靈像よりて完眼八日蓮上人
日暮里 新築及び修葺の事永保三年北条分限帳に遠山九郎江戶知行の中に屋中新築の
感應寺裏門のありより道灌山と界と此の寺の庭中奇石を疊て

假山と設けに時草本の花迄以常遊觀み借山吹の半より酒
亭茶店の櫓儿不せく貴銭社とはして春の日の永を覺れも此里の
若め一あつるのあらん
七面大明神社 因不延命院といふ日蓮宗の寺に安置す冥山日長上人萬治
三年庚子正月十六日夢中み靈告を得て後勸請すといひ
或人云慶安元年三澤の局甲斐の七面山に子日の前泰公就一爰中に鱗一枚を感得と
依て當社を建立す 嚴命に因て延命院と号ると
補陀山養福寺 觀王院と號す因不北の方あり奉尊ハ三尊の弥陀佛冥山の
本食義高上人あり 傳の前の田満寺の条やみ
觀音堂 西園坂東扶文百若の奉尊如意輪觀音佛工春日の作りて西園札不茅一番
十一面觀音 弘法大師の作りて坂東札不茅一番 正觀音 慈覺大師の作りて秩父札不茅一番
抑此百觀世音ハ義高上人の建立れり上人初高野山の高臺院に住職
たすうの後彼寺を退去し當地は越さ百番の札取を摸さひまを
企川是奉土母至りかた兒女等の結縁の為とあり依て此地す

小庵のありたりは開きて寺とす
寄附せられしとて奉尊おんく
百軒とええとて歎きこれを後補し
龍竟百軒の尊像をくらひとらん
隆貞卿の真蹟あり

諏訪明神社 同取北の方諏訪の臺より信及該訪の祭神よかれ
社頭今も枚の本立生茂して上久たり
鎮守とみせしとて社頭今も枚の本立生茂して上久たり

あり當社別當の真言宗より法輪山淨光寺と号し當寺の書院の
高崖と築して眼やみ千本の田園を見やせり
四時の眺をたらすと云事あり中も雪のありめ勝るれは世に
して雪見寺とも号しとる也

人麻呂祠

建武ありて元禄四年小庵眼供養の地蔵尊あり

地蔵堂

淨居山青雲禪寺 同野小あり妙心寺流の禪宗より

の道場たり昔堀田相別刺吏紀正亮候羽列山形在城の頂白雲和尙の道
光を慕ひ師小就て法を需む候 台命と奉して封を小總の佐倉小
移すの頃彼地小庵と法に師として煖座せしむ其後當國入回郡
より藤井山淨居寺といふ頼廢の寺院を引て此地小當寺を草創
す 其後融君正順候香花料として北總の佐倉より百石の地を寄附せらる
境内富士浅間宮秋葉金比羅辨財天護國稻荷等何れも往古を田
道灌の勸請ありといふ

船繫松

青雲寺の境内涯小臨と齋茗とて聳たり往古に

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ



ほろりよ小

す

さ

ゆ

くれ

其角

道灌山徳虫

文月の末をさる中
 小てとりのつばさ
 名みあふ虫塚
 の辺を奇絶とす
 洞人吟客さうり
 来りて終夜その
 清音と称す
 中も憧見のま
 り勝てぬ
 滋養翁孫娘の
 あはれぬ
 金毘羅の振持
 有明の月と
 竹中
 一男とや
 せん



残さる此樹蔭より 眺望せぬ荒川の流る白布を引くごとく筑
 波黒髪の小くハ晝小似たり 豊島の村落の眼小ありて耕一畑
 う川賤の葉まて七至小入利根川の遠帆緑樹のうけに風へえかれ
 此れうう白鷺の飛りてく此地の風色画中にある如し
 我人云く往昔此麓ハ豊島川小狭し入江と道灌の岩塚あり一頃ハ茶穀共ありて運送
 の船よりこの松を同堂小せりゆのまをほろくとゆふもあちち松葉とむらの義のあはれ毎人
 の河うくはちとゆふ目的小す松のう小洞ハ松葉とむらの義のあはれ毎人
 てもらに此所の松を同堂小せりて道灌松葉の松と唱ふるとを
 道灌山 一名を塚山ともいふ南ハ新堀を隈る小ハ平塚小接す往
 右右田道灌江戸塚小あり一頃出張の岩塚とせり竹ありとも
 又岡道観坊といへる者の茅宅の地ちりとも云傳ふ
 此地薬草多く採薬の
 常小こ小来れそ殊小秋の頂ハ松虫鈴虫雪路小ありて清音
 をあらしす依て雅客幽人こ小来り風小詠一月小歌ふて其言
 を愛せり

早稲田大学図書館

011688984965